

稅務署長

近時滯納者ノ増加ニ伴ヒ現金領收事務頗ル繁劇ヲ加ヘ處理上愈々煩累ヲ来サントス、付テハ適當ナル手段ヲ講シ滯納ヲ防遏スヘキハ勿論ノ義ナルモ、一面收稅官吏ハ常時納稅者ノ便宜ニ從ヒ現金ヲ領收スルノ覺悟ヲ以テ徵稅ノ任ニ當ル用意アルヲ必要トス、尤モ金庫員ヲ稅務署ニ派出セシムルヲ得ハ、現金領收上少ナカラサル便宜ヲ得ヘキモ、金庫所在地ニ在テハ從來派出シアルモノ、外、新夕ニ派出ノ詮議ハ行ハレ難キ義ナルヲ以テ、稅務署ニ於ケル現金領收事務頗繁ヲ加フルハ、蓋シ止ムヲ得サル狀勢ナリトス、而モ納稅者ハ稅務署ニ納付スルヲ便宜トスル場合ニ於テモ、尚且ツ金庫ニ納付セシメ強テ現金領收ヲ避ケルカ如キハ收稅官吏ノ職責ニ反スルコト勿論ノ義ナレハ、其取扱ヲ誤ラサルコトニ深ク留意スヘシ、而シテ現金領收事務ニ関シテハ屢々訓示セシトコロアルモ、尙左記事項ハ必ス之ヲ施設シ、來ル二月十日限り其結果ヲ報告スヘシ

一 庶務課員ニハ身元確實ニシテ誠実且ツ廉潔ナル者ヲ選ヒ、之ニ分任收入官吏ヲ命シ、現金領收事務ヲ担任セシムルコト、但シ從來ノ從事員ヲ不適任ト認メ更迭セシムルノ必要アルトキハ、其事由及後任者ノ身元・性行等ヲ詳具シ指揮ヲ受クルコト

二 庶務課員ニハ機會ヲ得テ相當ノ地位ヲ与フヘキ見込ナルヲ以テ、署長ハ能ク此意ヲ体シ人選スルコト

三 現金又ハ之ニ準シテ取扱フヘキモノ、保管及出納ニ関シテハ、從來相當ノ施設アルヘキモ自今一層注意ヲ加ヘ、左記事項ノ如キハ必ス之ヲ実行シ苟クモ遺憾ナキヲ期スルコト

(イ) 現金及之ニ準シテ取扱フヘキモノハ常ニ金櫃ニ藏置スルコト

(ロ) 收入官吏執務時間外帰署セシ場合ニ於テモ現金ハ稅務署ニ保管スルコト

(ハ) 歳入ニ属スル現金ハ金額ノ多寡ニ拘ハラズ、毎日金庫ニ払込ヲ為スコト

(ニ) 立会人アルニアラサレハ金櫃ノ開閉ヲ為サ、ルコト

(ホ) 金櫃ノ開閉ハ帳簿ヲ設ケ、時刻・事由・開閉者及立会人ノ氏名ヲ記載捺印シ、署長ノ承印ヲ受ケテ後之ヲ為ス

コト

(ヘ) 金櫃ノ鍵ハ署長之ヲ保管スルコト

四 予メ金庫ニ協議シ、左記事項ノ実行ヲ期スルコト

(イ) 時間外ニ於テモ払込ヲ了シ保管上ノ危険ヲ避ケルコト

(ロ) 收入官吏ノ払込ニ付テハ特ニ迅速ニ領收セシムルコト

(ハ) 納期末日及市町村送付期間ノ末日ハ特ニ時間ヲ延長セシムルコト

五 郵便為替、送金手形、小切手又ハ價格標記ノ郵便物等到達セシトキハ、別ニ帳簿ヲ設ケ發送者ノ住所・氏名金額

其他、必要ナル事項ヲ記載シ取扱者ノ検印ヲ徴スルコト

六 前号ノ帳簿ハ署長之ヲ保管シ、金庫ニ納付若ハ払込ヲ認メテ署長検印スルコト

七 滞納税金ヲ領收スヘキ分任收入官吏ニハ、字体ノ異ナル收入官吏印ヲ各別ニ交付シ攜帶出張セシメ、督促状ト共

ニ滞納者ニ交付シアル納付書ニ依リ現金領收ヲ為サシムルコト

八 消費税ヲ取扱フ分任收入官吏ニハ使用数ヲ予定シ、式ノ如ク押印シタル用紙ヲ其都度交付シ、残余ハ返納セシム

ルコト

九 前号用紙受授ニ関シテハ帳簿ヲ設ケ署長保管スルコト

一〇 分任收入官吏帰署セシトキハ、手帳ニ現金領収報告書ヲ添ヘ其都度提出セシメ、署長ハ之ヲ詳細調査スルコト

一一 分任收入官吏ハ必ス各自ニ於テ金庫ニ払込ヲ為スコト

一二 署長ハ便宜ノ方法ニ依リ、時々現金領収報告書ト納税者ノ所持スル領収証書トハ、其月日及金額等符合スルヤ否ヲ調査シ、尚專担者ニアラサル官吏ヲシテ処分未済ニ属スル滞納処分ノ一部ヲ執行セシムルコト

一三 金庫ヨリ現金払込済通知ヲ受ケタルトキハ、署長ハ必ス領収原符若ハ報告書ト対照スルコト

一四 金庫月計対照表到達セシトキハ署長ニ於テ必ス歳入徴収簿ノ収入額ト対照符号ヲ認メ、欄外ニ検印ヲ押捺シテ提出スルコト

一五 前各号ノ外必要ト認ムル事項ハ適宜施設スルコト

右内達ス

明治四十一年一月廿二日

広島税務監督局長 蓮見義隆印

追テ、金庫ニ対シテハ税務署ノ交渉ニ応シ便宜取扱ヲ為スヘク、其筋ヨリ別途示達済ノ趣ニ付、此旨了知スヘシ

(平 18 広島 15)

53 明治41年1月 營業稅增收歩合

秘達第二号

湯淺稅務署長

去ル十六日電信ヲ以テ指示シタル本年分營業稅增收ノ程度ハ、其ノ筋ニ於ケル内議ノ結果ニ基キ其増額ヲ要スヘキ範圍(確定歩合ハ追テ指示ス)ヲ指定シタルモノナルヲ以テ、精々十分ナル調査ヲ行ヒ無遺憾此ノ目的ヲ遂行セラルヘシ

明治四十一年一月十八日

大阪稅務監督局長 渡辺義郎 印

(電報訳)

本年分營業稅ハ四十年分確定額ニ対シ個人ノ分六歩乃至一割増、法人ノ分二三歩増ヲ降ラサル程度ニ於テ調査スヘシ

局長

秘達第三号

湯淺稅務署長

本月十六日電信ヲ以テ、本年分營業稅增收ヲ要スヘキ程度ヲ定メ指示致置候処、尚ホ精査ノ結果左記ノ通增收歩合相定メ候条、該歩合ヲ最低限度トシテ其ノ歩合以上ニ達スル様相当調査ヲ遂ケ、誓ツテ良好ノ結果ヲ収メラルヘシ

明治四十一年一月十八日

大阪稅務監督局長 渡辺義郎 印

四十年分確定稅額ニ対スル增收ノ程度

甲 個人營業ノ分 七歩増以上

乙 法人営業ノ分 参歩増以上

秘達第一四号

湯淺稅務署長

客月十八日秘達第三号ヲ以テ本年分營業稅增收歩合相違置候処、其ノ署管内ニ在テハ商業ノ主要地タル湯淺町ニ於テ先年患疫流行ノ為メ地方商業ノ不況甚タシカリシ趣ナルヲ以テ、今他郡ト同一程度ノ下ニ斯稅ノ增收ヲ期スヘキコトハ聊カ困難ノ事情ナシトセサルカ如シ、故ニ此ノ際能ク實際ノ如何ヲ精査シ、為シ得フルヘキ範圍ニ於テ相当增收ヲ企画シ、中庸至適ノ結果ヲ收ムルコトニ專ラ注意ヲ為シ、強テ增收歩合ニ達センコトニノミ着眼シ、事實余裕ナキモノニ對シ尚ホ增收ヲ行フカ如キコト無之様、特ニ留意取扱ハルヘシ

明治四十一年二月二十日

大阪稅務監督局長 渡辺義郎

秘第 号 明治四一年三月十一日

湯淺稅務署長殿

大阪稅務監督局

第二九四号ヲ以テ營業稅調查ノ狀況報告之趣了承致候、中庸ヲ主トスル義ニ付苛酷ノ嫌アル分ヲ減スル場合モ可有之候得共、夫レニハ能ク帳簿其他ニ就キ事實ヲ精査之上決行スルニアラサレハ、一旦減シタルモノヲ又翌年ヨリ増加セシムルハ容易ノ業ニアラズ候間、申迄も無之候へ共、此辺深く注意セラレタシ

秘達号外

稅務署長

從來所得稅ノ調査ハ漸進主義ヲ採り來り候ニ付、多少ノ余地アリト認メラレ候処、本年ハ國家財政ノ必要上一層周密ノ調査ヲ要シ候ニ付テハ、此趣旨ヲ体シ調査委員會トモ十分ノ協議ヲ遂ケ、徵稅上毫モ遺憾ナキ良好ノ成績ヲ收ムルコトヲ期セラルヘシ

明治四十一年五月一日

大阪稅務監督局長 渡辺義郎印

(昭53 大阪 29)

54 明治41年4月 納稅者との意思疎通方に付注意

稅務署長

稅務ノ執行ハ最モ嚴正ニシテ條規ヲ逸セズ周到ナルト共ニ、納稅者ニ對シテハ公平且懇切ヲ旨トシ、事ヲ執ル簡捷敏活ナルヲ要ス、殊ニ國家財政ノ必要ニ応シ稅法ヲ勵行シ、國庫收入ノ増加ヲ計ルガ為メニ、客年以來此方針ニ則リ課稅ノ調査又ハ檢査ヲ執行シ、著々增收ノ実ヲ挙げツ、アルモ、猶ホ益進ンテ諸稅ノ調査周到ヲ期シ、寬嚴其宜シキニ適シ課稅上遵算ナカラシメサルヘカラス、此ノ如ク稅法ヲ勵行シ調査ヲ周密ナラシムルニ至ツテハ、納稅者ニ對シ自然煩累ヲ及ホスノミナラズ、其結果負擔ヲ増加セシメ稅務ニ對スル嫌惡ノ念ヲ助長スルコトナシトセズ、遂ニ或ハ課稅上ニ關シ算出ノ根拠其他事實ヲ質問シ苦情ヲ申出ツルモノナシトセズ、此ノ如キ場合ニ於テハ須ラク納稅者ヲシテ

事情ヲ竭サシメ懇切丁寧ニ能ク説明ヲナシ、苟クモ阻格抑制スルカ如キコトアルヘカラズ、然ルニ往々威權ヲ弄シ益納稅者ノ嫌惡ヲ招クノ事實亦ナシトセズ、為メニ彼我ノ意思疎通ヲ欠キ徒ラニ物議ヲ生セシメ、稅務施行上ノ円滿ヲ失スルニ至ルヘシ、故ニ稅務署長ハ此趣旨ヲ服膺シ部下ヲ戒飭シテ最モ注意ヲ加ヘ、孜々事ニ從ヒ稅法ノ運用ヲ全フセンコトヲ期スヘシ

右内訓ス

明治四十一年四月十日

広島稅務監督局長 蓮見義隆印

(平 18 広島 15)

55 明治41年6月 稅務署長會議における局長訓示

明治四十一年六月四日署長會議ニ於ケル勝「正憲長崎稅務監督」局長ノ訓示

彼ノ三十七八年戰役ノ為國費急激ニ増大シ、為ニ非常特別稅ヲ起シ財政ノ維持ヲ為シタルコトハ諸君ノ記憶ニ新ナル処ナリ、而シテ戰後財政ノ現況ハ未タ以テ非常特別稅ヲ撤廢スルニ由ナク之ヲ繼續セリ、然ルニ戰時ヨリ今日ニ通シテ常ニ租稅ハ予期以上ノ收入ヲ得、財政ノ上ニ何等ノ遺憾ヲ告ケサルハ、一ニ稅務当局者ノ辛勞ニ因ル賜物ナリ、之レ深ク諸君ニ謝スル所ナリトハ、今回ノ局長會議ニ際シ大藏大臣閣下ヨリ余等一同ニ對シ述ヘラレタル謝辭ナリキ、然レトモ此ノ名譽ヲ享クヘキモノハ余ニアラスシテ、却テ諸君ナリ、熟々考フルニ諸君力戰時ヨリ今日ニ至ルマテ稅務ノ執行上ニ費サレシ苦心ト勉強トハ実ニ多大ニシテ、其ノ結果常ニ徵稅ノ円滿ト國庫ノ充實トヲ得タルハ争フヘカ

ラサル事実ニシテ、本官ハ茲ニ大臣ノ感謝ヲ其ノ儘諸君ニ傳達スルト同時ニ、更ニ改メテ諸君ニ謝スル所ナリ  
夫レ本年ノ予算編成上前年迄ノソレト赴<sup>ツ</sup>異ニシタル一大現象ハ、財政計画中ニ公債ノ募集ヲ加ヘ能ハサリシコトナ  
ルヘシ、諸君ノ既ニ知レルカ如ク、戦後今日ノ財界ハ事業熱勃興其ノ他ノ結果頗ル紛糾錯乱シ、公債募集ノ如キハ到  
底民間ノ事情ト一致スルコト能ハス、茲ニ公債計画ヲ絶チ一方出来得ル程度ニ於テ政費ヲ削減シ、事業ノ繰延ヲ断行  
シ、殆ムト踏天踰地ノ難ニ会シ、漸ク予算ノ編成ヲ見ルニ至レリ、如此凡テノ方面ニ消極主義ノ行ハレタルニ拘ハラ  
ス、徵稅費ニ至ツテハ独リ積極主義ヲ採ラレタルハ、本年ノ予算表ヲ吟味スル上ニ於テ最モ注意ヲ払ハサルヘカラサ  
ル新事実ナリ、諸君ハ本年ノ徵稅費カ前年ニ比シ百万円以上ノ増加ヲ為シ、而カモ議會ニ於テ多大ノ同情ト歡迎トヲ  
以テ通過シタル事蹟ヲ顧ミルニ当ツテ如何ノ感カアル、租稅負担ノ衡平ヲ期シ收入ノ充實ヲ計リ、完全ナル徵稅制度  
ヲ確立スルノ急務タルコト、今ヤ単ニ政府者ノミノ要望ニアラスシテ遂ニ國民ノ輿論タルニ至リシ、此ノ明白ナル事  
實ニ想到セハ、本官ハ諸君ト共ニ責任ノ一層重且大ナルヲ自覺セサルヲ得サル所ナリ  
徵稅費ノ増加ニ伴ヒ一面稅務官吏増員ノ決行アリタルコトハ、官制改革ノ發表其ノ他ニ於テ諸君カ夙ニ知悉シタル所  
ナルヘシ、当局ニ於テモ不日増員ノ發表ヲ為スヘク、其ノ増員タルヤ主トシテ直稅ノ方面、次イテ間稅ノ方面ニ充當  
セムトス、由来今日ノ直稅ハ或ハ所ヲ異ニシ、或ハ人ヲ異ニシ、輕重厚薄甚タ憂慮ニ堪ヘサルモノ多ク、又間稅ニ至  
ツテモ今少シ監視ヲ嚴密ニ為スノ余地アルモノト信スルヲ以テ、人員ノ配付ニ當テモ亦此ノ点ニ注意シタリ、稅務官  
吏ノ定員頗ル不足ニシテ、施設計画上幾多ノ支障ヲ告ケツツアリシハ当路者ノ声ナリシモ、今ヤ幸ヒニ増員ヲ見ルニ  
至レルハ、所謂輿論カ宿志ヲ遂ケタルモノニシテ、爾後大ニ計画ヲ立テ苟モ隔靴搔痒ノ感ナキヲ期セサルヘカラス、  
今ヤ所得稅調査ハ目睫ノ間ニ迫レリ、諸君カ増員ヲ利用シテ周到ナル調査ヲ為スヘキハ時機茲ニ到達セリト謂フヘシ、  
然レトモ稅務行政ノ本義ハ賦ニ厚薄ノ弊ナク、民ニ勞逸ノ偏ナク、寬苛輕重率ネ其ノ平ヲ得テ國家ノ大事人民ノ休戚

ヲ稽ヘサルヘカラス、苟モ増員ヲ利用シテ苛酷誅求ノ弊ニ陥ルカ如キハ、却テ国家ノ大事ヲ賊フノミナラス、一二又  
稅務官吏自カラ怨嗟ノ府ニ投シ、其ノ行動ヲ窘束スルニ至ラム、若シ事茲ニ至ラハ徵稅費ヲ増加セラレタル当局者ノ  
趣旨ト提議ニ贊シタル國民ノ輿論トハ没却セラレタルモノト謂ハサルヘカラス、諸君夫レ深ク意ヲ茲ニ致セ

抑モ租稅ハ國民ノ財產ヲ無償ノニ強徵スルモノナルヲ以テ、之ニ向ツテ嚳蹙ノ感ヲ抱キ、甚シキハ逋脫シテ以テ其ノ  
巧ヲ誇ルノ事実ナキニアラス、之レ固ヨリ文野ノ程度力支配スル所大ナルヘシト雖モ、稅務官吏トシテハ如此惡弊ヲ  
芟除スルニ勗メサルヘカラス、稅務官吏ニ對スル今日ノ世論果シテ如何、疾痛ノ声アラスンハ則チ嘆息ノ響ナリ、固  
ヨリ之レ納稅義務心ノ發達セサル結果ニ外ナラスト雖モ、之ニシテ稅務ノ執行上常ニ二支障アリトスレハ、先ツ第一ニ  
稅務官吏自カラ進ムテ怨嗟ノ府ヲ脱セサレハ、國民ノ納稅思想ヲ向上セシメ円滿ナル行政ヲ行フコト能ハサルヘシ、  
果シテ然ラハ稅務官吏自カラ怨嗟ノ府ヨリ脱出シ、円滿ナル稅務行政ヲ執行セムトスル理想ノ実行ニ伴フ準備ハ夫  
レ如何、今ヤ徵稅益々周密ヲ加エ、調査益々綿密ヲ極メムトスル時ニ當リ、此ノ問題ヲ研究スルハ蓋シ閑事業ニアラ  
サルヘシ、想フニ其ノ方策多々アルヘシト雖モ、要ハ三点ニ歸セム

### 第一 納稅義務心ノ向上

### 第二 稅源ノ涵養

### 第三 財政上ノ節約

第一 納稅義務心ノ向上ハ刻下ノ急務タルコト敢テ多言ヲ費スノ要ナキモ、既ニ述フルカ如ク日本人ノ納稅思想ハ頗  
ル幼稚ノ圈内ニ在リ、彼ノ英國國民ハ所得稅ノ隱蔽ヲ以テ紳士ノ恥辱ト為シ、國民ノ凡テハ拳テ其ノ所得ヲ申告シ、  
政府ハ所得稅ヲ以テ首要ノ財源トナセルヲ見ルニ、我カ國ノ其レト軒輕スル所亦甚シカラスヤ、然レトモ納稅義務  
心ハ決シテ涵養シ能ハサルニアラス、之ヲ指導シ之ヲ大成スルハ所謂稅務官吏ノ義務ニシテ、且ツ最大ナル任務ノ

一ナリ、徒ラニ其ノ至難ナルニヨリ之ヲ断念抛棄スルコトナカレ、涓滴能ク石ヲ穿ツ、積漸ノ効ハ蓋シ大ナルモアルヘシ

諸君ハ常ニ部下ニ対シテ此ノ思想ヲ鼓吹シ、個人ニ対シ或ハ公衆ニ対シ須ラク機会ノアル毎ニ、或ハ直接ニ或ハ間接ニ説示提唱シテ怠ラス、其ノ効果ヲ一朝ニ収ムルコト能ハサルヲ憂ヘス、眼ヲ百年ノ後ニ注キ倦ムコトナクムハ、其ノ結果或ハ予期ニ先ツコトアルヘシ

第二 課税物件ニ対シテ、其ノ生産量ノ増加及品質ノ改良等ハ稅務当局者ノ最モ注意スヘキ要務ナリ、徵稅ノ目的ヲ真ニ遂ケムトスレハ時ニ或ハ助長行政ノ畛域ヲ侵ササルヘカラス、現ニ酒造業等ニ対シテハ稅務当局ノ施設頗ル見ルヘキモノ多ク、品質ノ改良、事業ノ經營等アラユル当業者ノ便益ヲ図リツツアリ、之カ為メ今ヤ一般ノ酒造業者ハ稅務官吏ニ対シテ大ニ好意ヲ呈スルノ傾向アリ、若シ夫レ幸ヒニ諸般ノ稅務ニ涉リ此ノ曙光ヲ見ルニ至ラハ、則チ円満ナル稅務ノ執行ヲ期スルコト蓋シ難キニアラサルヘシ、而カモ稅務官吏ハ營業稅ニマレ所得稅ニマレ、其ノ他一般ノ調査ニ当リ事業經營ノ内容ヨリ其ノ盛衰ノ原因ヲ知悉スルヲ以テ、當業者ニ対シテ事業經營上指導誘掖ノ資料ニ富メリ、依テ此ノ知識ヲ利用スルト同時ニ、更ニ進ムテ諸般ノ研究ヲ為シ、以テ一般實業家ニ対シテ啓發指導ノ方法ヲ採ラハ、一ハ稅源ヲ涵養スルト同時ニ、一ハ大ニ人民ノ感想ヲ融和スルニ至ラム、殷鑑遠カラス、酒造業者ノ稅務官吏ニ対スル今日ノ趨向、之ヲ証シテ余アリト云フヘシ

第三 中央政府ニ於テハ行政整理委員ヲ設ケ大ニ行政事務ノ刷新ヲ計ルト同時ニ、政費ノ節約ヲ期スルノ計画アリト聞ケリ、是レ實ニ我國刻下ノ急務ニシテ、財政ノ整理ト共ニ円満ナル行政ニ欠クヘカサルコトニシテ、稅務官吏カ国民ノ歡迎ヲ受クル動機タルコトヲ忘ルヘカラス、現ニ伊太利ノ財政史之ヲ証シテ余アリ、同國ハ一千八百九十二、三年ノ頃財政ノ紊亂極度ニ達シ、国立銀行ハ破産シ兌換券ノ交換ハ停止サレ、官吏ノ俸給ハ支払

ヲ受クルコトヲ得サルニ至レリ、此ノ際ニ当リ時ノ政府ハ堅ク決スル所アリ、断然タル財政上ノ節約ヲ試ミ各般ノ事業ハ悉ク中止シタリ、首府ローマニ於テハ其ノ建築中ニ係ル一等郵便局ノ新営工事ハ、二間ノ煉瓦ヲ築造シタル儘之ヲ中止シテ雨曝シト為スヲ厭ハス、大蔵大臣ハ官邸ヲ引払ヒ下宿屋ニ居住ヲ定メ、徒歩大蔵省ニ通勤スル迄ノ有様ナリシト謂フヲ聞クニ至ツテ、如何ニ其ノ決心カ堅牢ニシテ其ノ節約カ極端迄走リシカヲ窺フニ難カラス、斯ク財政ノ困憊ニ陥リシニ拘ハラス、一面増徴ニ重スルニ増徴ヲ以テシ国库ノ充実ヲ計レリ、然ルニ租税ハ能ク円満ニ徴税ノ目的ヲ達シタリ、之ヲ聞ク者恐ラク疑問ヲ以テ之ニ接スヘシト信ス、然レトモ其ノ當時ノ国民ノ一般ハ政府当路者ノ苦心ト其ノ節約トニ感シ、今日ノ重税ハ洵ニ已ヲ得サルモノタルコトヲ悟リ、翻テ納税ノ愛國的行爲タルコトヲ自覚シ、恰モ親ニ服スルカ如ク官吏ノ命令ヲ重シタル結果、納税ノ如キモ円満ノ目的ヲ遂ケ、以テ十年ナラスシテ十億ノ国債ヲ一時ニ整理シ得ルニ至レリ、今夫レ此ノ事實ヲ回顧スルニ至テ諸君果シテ如何ノ感カアル、財政上ノ節約ヲ以テ稅務行政ノ刷新ヲ期スルハ極メテ其ノ捷路タルヲ自覚スヘシ、夫レ大ニシテハ斯クノ如シ、小ニシテハ一局一署ノ經理ニ此ノ精神ヲ以テ當ラハ裨益スル所亦鮮少ナラサルヘシ

以上ハ単ニ大方針ヲ纏述シタルニ過キス、詳細ナルコトニ至ツテハ相互ノ研究ト諸君ノ注意トニ依ツテ其ノ意ヲ補充スル所アルヘシ、終ニ莅ンテ諸君ニ深く注意ヲ与ヘムトスルハ官紀ノ振肅ナリ、稅務官吏ハ人民ノ財産ニ對シテ權力ヲ行使スル職掌ナルヲ以テ誘惑ニ陥リ易ク、此ノ間ニ処シテ森嚴ナル品性ヲ維持シ高潔ナル行動ヲ持續シ、苟モ人民ノ指彈ヲ受クヘカラス、夫レ往古武士ノ時代ヨリ降テ維新革命ノ際ニ當リ、義勇奉公ノ念深く青年ノ胸臆ニ印セラレ、天下國家ニ對スル献身的精神頗ル旺盛ナリシモ、今日ニ及ムテハ実利實用ノ風ノミ漸ク人心ヲ支配シ、真面目ナル精神ヲ抱クモノ漸ク乏シカラムトス、此ノ間ニ立チ毅然トシテ其ノ風潮ニ動カサレス克ク世道人心ヲ保維シ、其ノ銷滅ヲ救フヘキモノハ果シテ誰ソ、余ハ諸君ト共ニ奮テ其ノ任ニ膺ラムコトヲ期ス、由来古ノ士道ハ武士之ヲ守持シタリ、

今日其ノ衣鉢ヲ次クモノハ官吏ナリ、凡ソ官吏ハ其ノ奉スル所ノ職ハ国家ノ公務ナリ、而シテ其ノ給セラルル生活資料一般ニ甚々豊ナリト云フヘカラス、此ノ際ニ当リ鞏固ナル理想ナクムハ、生活資料ニ対スル欲望ハ其ノ奉スル所ノ重大ナル公務ヲ忘却セシメ、遂ニ誘惑ニ陥ルコトナキニアラス、況ムヤ財産ト直接ノ關係ヲ有スル稅務官吏ニ於テオヤ、故ニ官吏ノ職務ハ生活資料ヲ求ムル外ニ於テ、政務ニ参与シ奉公尽忠ノ至誠ヲ実行スルヲ以テ本務トシ、生活資料ノ如キハ些末ナル問題トシテ須ラク念頭ヨリ去ラシムルノ勇猛心ナカル可ラス、而シテ此ノ決心ト同時ニ其ノ執ル所ノ職務力如何ニ重大ナル国務ノ一部ニシテ、如何ニ尊嚴ニシテ如何ニ榮譽アルモノナルカヲ自認セシメサルヘカラス、官紀振肅ノ興奮劑ハ蓋シコレアルノミ、而カモ官吏的修練ニ日尚浅キ今回ノ増員者ノ如キハ、在来ノ吏員ニ比シテ一層ノ注意ト誘導トヲ要ス、諸君ハ署長トシテ自カラ部下ノ模範ト為リ、此ノ趣旨ニ則リ指導啓発能ク慎戒セシムル所アルヲ要ス、希望及説明セムトスルコト尚ホ多々アリト雖モ、他ハ諮問事項ヲ討議スルニ当リ竭ストコロアルヘシ

(平 18 福岡 186)

56 明治41年10月 稅務執行方針に付大臣訓示

訓示秘第一号

稅務署長

今般稅務執行ノ方針及官吏服務ノ心得ニ関シ大蔵大臣ヨリ訓示相成候処、尚右ニ関シ左記ノ事項特ニ注意スヘキ旨、主稅局長ヨリ内牒有之候条、能ク其意ヲ体シ部下一同ニ対シテモ趣旨徹底候様諭告ヲ加ヘ、執行上万一ノ遺憾ナキヲ

期スヘシ

明治四十一年十月十日

仙台稅務監督局長印

主秘第一七五号

今般稅務執行ノ方針及官吏服務ノ心得ニ関シ大藏大臣ヨリ訓示相成候処、右ニ就テハ特ニ左記ノ事項ニ御注意相成度候

一 營業稅及所得稅調查ノ方針ハ、主トシテ市街地ニ於テ精密ナル調査ヲ為シ、郡村ニ於テハ不權衡ヲ矯正シ、併セテ従來調査ノ不充分ナリト認ムルモノニ對シテ精査ヲ行フコト、シ、市街地下郡村トニ依リ調査ノ程度ヲ異ニシタルハ、市街地ニ課稅物件ノ遺漏多キ事實ヲ認メタルニ因ルモノ有之、此ノ方針ヲ誤ルトキハ市街地下郡村トノ間ニ於ケル負擔ノ不公平ハ其ノ矯正ヲ得サル儀ト存候間、各局執行ノ方針一途ニ相出テ候様致度候

一 事實ヲ根拠トセス漫ニ稅金額ヲ予斷シテ之ヲ配賦スルカ如キハ、地方ニ對シテモ個人ニ對シテモ斷シテ之レ有ルヘカラサル儀ニ有之、若シ斯ノ如キ事實有之ニ於テハ、徒ラニ苛酷ノ負擔ヲ強ヒ、賦課ノ公平ヲ失スルニ至ル事ト存候間、深ク御注意相成度候

一 營業稅施行ノ実績ニ鑑ミ、所得稅ノ施行ニ際シテハ逋脫ヲ拳クルヲ主トシ、所得標準率ヲ高メテ增收ヲ図ルカ如キコト無之様、特ニ御注意致置タル次第ニ有之、右ハ所得原因ノ前年ト異ルナキニ拘ハラズ、所得金額ニ急激ノ増加ヲ来タシ、納稅義務者ヲシテ疑惑ヲ起サシムルカ如キハ可成之ヲ避クルノ要アリト認メタルニ因ルモノニ有之候間、急激ニ失セス漸ク以テ其ノ目的ヲ達セラレ候様致度候

一 多數納稅義務者ニ對シ悉ク精確ナル調査ヲ遂クルハ難事トスル所ト存候得共、所得金額算出ノ基礎曖昧ニシテ、

人ノ質問ニ対シ明確ナル説明ヲ与フル能ハス、決定通知ノ後之ヲ訂正セサルヘカラサルカ如キ情態ニ在ラシムルハ、其ノ調査ノ粗漏杜撰ナルヲ表白スルモノニシテ、稅務ノ信用ニ関スルコト甚タカラスト存候間、御注意相成度、殊ニ稅務署間ニ通報スル所得事項ノ如キハ、其ノ算出ノ基礎ヲ最モ明確ナラシムルノ必要アルモノト存候所得金額其ノ他ノ課稅標準ハ、一定ノ標準歩合ヲ設ケテ算出スルヲ以テ普通ノ取扱例ト致候処、納稅義務者ノ申告又ハ答弁ニ依リ課稅標準ノ明確ニシテ信憑スルニ足ルヘシト認ムルモノニ付テハ、標準歩合ヲ適用スルヲ要セス、千篇一律ハ却テ公平ヲ期スル所以ニ無之ト存候、殊ニ納稅義務者ノ申告額ト稅務署ノ見込額トノ差極メテ少許ニシテ、殆ント稅金額ニ影響ヲ及ホサ、ル程ノモノニ対シ、強テ標準歩合ヲ適用スルカ如キハ、徒ラニ感情ヲ害スルニ止マリ実益ナキモノト存候

一 正業者ト不正業者トヲ區別シ取扱ノ寬嚴ヲ斟酌スヘキハ、直稅タルト間稅タルトヲ問ハサル儀ニ有之、若シ不正業者ニ対スル態度ヲ以テ正業者ニ臨ムトキハ、徒ラニ繁細ニ流レ苛察ノ難ヲ免レサルニ至ルヘクト存候間、此ノ間ノ機宜ヲ失ハサル様致度候

以上ハ単ニ思付ノ事例ヲ掲ケタルニ過キス、其ノ他ハ類推セラレテ大臣訓示ノ趣旨ノ能ク徹底實行セラレ候様、御施為相成度、尚右ニ関シ御施為相成候事項ハ御申報相成度、此段依命及内牒候也

明治四十一年十月七日

大藏省主稅局長 桜井鉄太郎

仙台稅務監督局長 楠 正篤殿

〔稅務官吏服務心得は省略〕

57 明治41年10月 国税滞納処分着手方

訓甲第八四号

税 務 署

国税滞納者ニ対シ督促状ヲ発シ、其ノ指定期限満了シタルニ拘ラス、之カ処分ヲ延引スル向有之趣、斯クテハ徒ラニ滞納者ヲシテ怠慢ノ風ヲ増長セシムルノ虞アリト認メラルルニ付、自今督促指定期限満了シタルトキハ、直ニ滞納処分（始メヨリ財産差押ヲ為スト否トハ勿論機宜ニ従フモノトス）ニ着手スル様取扱フヘシ、尤同時期ニ於ケル滞納者ノ数非常ニ大ナル場合ハ、其ノ全員ニ対シ直ニ処分ヲ開始スルハ事実ノ許ササル所ナルヘシト雖、斯ル場合ニ於テモ東京市内稅務署ハ督促指定期限ヨリ二十日以内、其ノ他ノ稅務署ハ十日以内可成速ニ滞納者全部ニ涉リ処分ニ着手スヘシ、若斯ル場合ニ於テ庶務課員ノミニテ手回り兼ヌルトキハ、一時事務ノ繰合ヲ為シ他課員ヲシテ助力セシムルモ妨無キニ付、併テ了知セラルヘシ

明治四十一年十月九日

東京稅務監督局長

(平 11 東京 26)

58 明治41年11月 東京稅務監督局国税徵収成績

明治四十年年度ニ於ケル本局管内市町村国税徵収ノ成績ヲ調査シタルニ、別紙第一表ノ如ク

一 各市町村総調定済額ニ対スル収入歩合ハ、全管計ニ於テ・八五五ナリ、而シテ之ヲ府県ニ細別スレハ、千葉県・九四四、埼玉県・九三八、山梨県・八三三、東京府・七九八ナリ

二 管内市区町村数一、一七四ノ中、各税各納期共ニ完納ノ成績ヲ挙ケタル町村数一四一、収入歩合・九九〇以上ノ町村数四二四ナリ

三 管内各府県中収入歩合ノ最低キ町村ハ山梨県石和署部内二ヶ村、谷村署部内二ヶ村、収入歩合零ナルモノアリ、埼玉県ハ松山稅務署部内某村ノ収入歩合・一一三、東京府ハ幸橋稅務署部内某区収入歩合・二五五、千葉県ハ佐原稅務署部内某村ノ収入歩合・三二四ナリ

以上ノ如ク、全管計ニ於ケル収入歩合ハ・八五五ニシテ、優良ノ成績ト云フヲ得サルハ頗ル遺憾ニ堪ヘサル所ナリト雖、四十年ニ於テハ各地トモ近年稀有ノ水害ヲ被リ、為メニ市町村ニ於ケル地租其他ノ国税徵收上ニ虧カラサル影響ヲ及ボシタル跡アルヲ以テ、誠ニ已ヲ得サル結果ナリト云ハサルヲ得ス、殊ニ各税各納期完納ノ町村一四一、収入歩合・九九〇以上ノモノ四二四ニシテ、全管町村ノ約半数ニ達シタルハ稅務ノ為メ聊カ意ヲ強フスルニ足ルモノアリ、然リト雖、管内市町村国税徵收ニ関スル情況ヲ達觀スルニ、各稅務署ノ懇篤ナル注意ヲ以テ市町村徵收上ノ取扱ヲ善良ナラシムルニ於テハ、尚以上ノ成績ヲ收ムルノ余地アリシヲ認メスンハアラス、四十年各納期ニ於テ市町村ノ納稅者ニ対スル納期内納稅注意ノ不充分ナルモノ、及徵收稅金ヲ成規ノ期限内金庫ニ送付スルニ至ラサルモノ往々見ル所ナレハナリ

本年度ノ成績ニ於テ最遺憾トスル所ハ、各市町村中最低収入歩合ノ著シク低度ノモノアルト、及東京市内各稅務署並猿橋稅務署部内ニ於テ収入歩合・九九〇以上ノ区町村ヲ見ルヲ得サリシコト之ナリ、然レ共収入歩合低度ノモノ及猿橋署部内ノ成績良好ナラサリシハ本年度大水害ノ結果ニシテ、日ヲ経月ヲ閱シ漸次耕地ノ復旧スルニ從ヒ、徵收ノ成

績モ亦善良ナルニ至ルヘク、又東京市内ノ徴税ニ関シテハ各署之カ改善ニ注意スル所アルノミナラス、近来市役所当局者ニ於テモ大ニ此ノ点ニ傾意シツアル趣ナルヲ以テ、近キ将来ニ於テ面目ヲ新タニスルモノアルヲ信セントス本局長ハ以上各市町村ノ徴収成績ニ鑑ミ各税各納期完納ノ町村ニ対シ、所轄郡長ニ托シ左ノ謝状ヲ發シタリ、其ノ町村名ハ別紙第二表ニ之ヲ掲ク、尚ホ謝状ヲ發スルニ至ラサリシモ、収入歩合・九九〇以上ニシテ成績優良ト認めラレタル町村名ハ、別紙第三表ニ掲クル所ノ如シ

謝 状 文

県 郡 村 町

租税ハ国家財政ノ最大源泉ニシテ、国運ノ消長之ニ関スルコト尠カラス、然ルニ輓近往々ニシテ納税義務ノ重スヘキヲ忘レ、之ヲ忽諸ニ付スルノ傾キアルヲ見ルハ、本官ノ最遺憾トスル所ナリ

貴(町)村ハ比年国税ノ完納ヲ告ケ、其ノ成績優秀ニシテ曾テ一人ノ滞納者ヲ出シタルコト無シ、之レ全ク納税者カ其ノ義務ヲ尊重スルノ美風ニ依ルヘシト雖、亦以テ理事者ノ督励其ノ宜キヲ得タル結果ナラスムハアラス  
依テ本官ハ茲ニ感謝ノ意ヲ表シ、併テ此ノ優秀ナル成績ヲ永久ニ持續セラレムコトヲ希望ス

明治四十一年十一月十六日

東京稅務監督局長

明治四十年度市町村徴収国税稅務署別成績表

其 一

署名	摘要	調定濟額	收入濟額	收入歩合	市町村数	諸稅完納 町村数	收入歩合 九九〇以上 町村数	市区町村 最低收入 歩合	歩位
松山		二〇〇、六〇〇	一六七、七五三	八三六	二八	一	七	一一三	二八
川越		四七九、一〇四	四三九、九四九	九一八	六二	一三	三〇	三九一	一九
浦和		五三八、〇七二	四七〇、二九八	八七四	七四	八	一一	二五八	二四
東京府計		九、三二二、五三三	七、四三三、〇九四	七九八	一九二	二〇	六三	一五五	肆
八王子		三七七、七三六	二九一、一五二	七七〇	五八	八	一六	二二五	三五
青梅		九七、四五七	九四、四三三	九六八	三二	六	一四	五六八	一〇
龜戸		三八三、六五九	三五五、六八四	九二七	二四	三	一二	三九八	一七
千住		一三五、五五九	一三〇、〇一六	九五九	一〇	一	五	七五八	一四
板橋		二二五、四三〇	二〇八、五〇三	九六七	二〇	二	七	六一六	一一
淀橋		一七九、三七七	一六三、七〇七	九一二	一四	一	三	八二二	二〇
品川		二八八、二五〇	二二三、二〇七	七七四	一九	一	六	四九四	三二
麁橋		一、〇七八、二五三	八三一、三〇〇	七七〇	三	一	一	七六一	三四
永代橋		二、七二一、一三一	二、二六五、〇四六	八三二	二	一	一	七三四	二九
神田橋		一、〇三三、五七三	八七三、六九九	八四五	三	一	一	八〇八	二七
四谷		一、一二九、七五四	一、〇〇三、一八七	八八七	四	一	一	六八一	二二
幸橋		一、六七二、三五四	九九二、一六〇	五九三	三	一	一	一五五	三七

大宮	九九、九〇五	九七、七五〇	九七八	三四	六	二〇	五二四	六
本莊	一七五、二二二	一七二、五八六	九八四	二〇	三	一三	九四〇	四
熊谷	三八四、九五七	三六一、四〇一	九三八	四二	五	二一	六四六	一五
忍	五一九、六四四	五〇一、三五三	九七二	五二	一七	二二	五一七	九
岩槻	四九三、〇〇〇	四八五、〇四七	九八三	四二	九	二五	八〇三	五
杉戸	三四七、八三九	三四二、五〇六	九八五	三一	一七	一〇	八一四	三
埼玉県計	三、一三八、三四三	三、〇三八、六四三	九三八	三八五	七九	一五九	一一三	弍
千葉	三九七、三九四	三八二、六七三	九六二	三九	三	一九	七〇四	一三
松戸	三八〇、八二五	三六七、六四八	九六五	四三	四	二五	八一五	一二
佐倉	三三五、七八三	三一〇、二九三	九二四	三三	一	一二	四七三	一八
佐原	四二七、八二九	三七八、二六五	八八四	四一	一	一四	三二四	一三
銚子	二四九、四二〇	二一四、七四七	八五九	三二	一	四	四〇五	二六
東金	三〇八、二一〇	三〇〇、一八八	九七三	三二	五	一五	八四三	八
茂原	二三六、九八四	二三五、八一六	九九五	二六	四	一六	九八三	一
大多喜	一九一、五二〇	一八九、一七一	九八七	二三	二	一四	八六七	二
木更津	三八一、〇二四	三七二、一〇二	九七六	四二	六	二一	八二三	七
北条	二九一、八四六	二七三、七一一	九三七	四四	九	一九	五四七	一六
千葉県計	三、二〇〇、八三五	三、〇二四、六二〇	九四四	三五五	三五	一九	三三四	一六
甲府	三八五、六六〇	三四五、五三八	八九五	五三	四	二四	三四四	二一
石和	二五〇、六一四	二〇一、五一五	八〇四	六〇	一	三	一	三一
鵜沢	一一五、四八〇	九四、二六四	八一六	四五	一	六	〇三七	三〇

全管計	山梨県計	猿橋	谷村	葦崎
一六、八四八、〇六八	一、〇九六、三六一	六四、七四七	九一、六三九	一八八、二二一
一四、四〇九、二七七	九一三、九二四	三九、九四七	七〇、一七二	一六二、四八八
八五五	八三三	六一六	七六五	八六三
一、一七四	二四二	一八	二四	四二
一四一	七	一	一	一
四二四	四三	一	二	八
一	一	二八四	一	四〇六
一	参	三六	三五	二五

備考

- 一 収入歩合各署ノ分ハ、調定済額収入済額共円位以下ヲ存シタルモノニ依リ算出シタルモノトス
- 二 府県計全管計ノ収入歩合ハ、本表ニ掲ケタル員額ニ依リ算出シタルモノトス
- 三 市区町村中最低歩合ノ欄ナルモノハ、収入済額無ク歩合ヲ算出シ得サルモノナリ

明治四十年度市町村徴収国税稅務署別成績表

其 二

○ 東京府

署名	郡名	各税完納市区町村名
品川	荏原	馬込村
板橋	北豊島	尾久村、中新井村
亀戸	南葛飾	船堀村、瑞穂村、篠崎村
青梅	西多摩	長岡村、明治村、三ツ里村、小宮村、吉野村、三田村
八王子	北多摩	拝島村、大神村、福島村、郷地村、調布町、砧村、田無町、保谷村

○ 埼玉 県

浦和	川越	松山	大宮	本荘	熊谷	忍	岩槻	杉戸	
北足立	入間	比企	秩父	児玉	大里	北埼玉	南埼玉	北葛飾	
草加村、新田村、尾間木村、原市町、瓦葺村、大和田町、白子村、大砂土村	高階村、三芳村、柳瀬村、松井村、元狭山村、福原村、大田村、高麗村、東吾野村、柏原村、元加治村、飯能町、原市場村	龜井村	横瀬村、皆野村、白鳥村、樋口村、大柵村、槻川村	丹荘村、秋平村、大沢村	三尻村、肥塚村、幡羅村、本郷村、武川村	持田村、広田村、屈巢村、須影村、川俣村、手子林村、中島村、田ヶ谷村、共和村、種足村、高柳村、三田ヶ谷村、東村、元和村、豊野村、水深村、鴻莖村	和土村、潮止村、川柳村、大相模村、百間村、日勝村、江面村、太田村、平野村	栗橋町、上高野村、高野村、権現堂川村、八代村、田宮村、杉戸町、幸松村、旭村、三輪野江村、彦成村、戸ヶ崎村、八木郷村、桜井村、宝珠花村、富多村、金杉村	

○ 千葉 県

北条	木更津	大多喜	茂原	東金	銚子	佐倉	松戸	千葉
安房	君津	夷隅	長生	山武	海上	印旛	東葛飾	市原
富崎村、長尾村、豊房村、勝山町、白浜村、九重村、稻都村、江見村	神納村、檜葉村、鎌足村、貞元村、関村、金谷村、豊岡村	瑞沢村、中根村	一松村、二宮本郷村、鶴枝村、五郷村	源村、公平村、太平村、睦岡村、千代田村	椎柴村	船穂村	浦安村、南行徳村、我孫子町、十余二村	高瀧村、平三村、白鳥村

○ 山 梨 県

谷村	鰺沢	石和	甲府
南都留	南巨摩	東山梨	西山梨
大嵐村	曙村	休息村	能泉村 豊村、野々瀬村、三恵村

明治四十年度市町村徴収国税稅務署別成績表

其 三

○ 東京府

署名	郡名	各稅總計收入歩合九九〇以上市区町村名
品川	荏原	目黒村、平塚村、碑衾村、玉川村、調布村、池上村
淀橋	豊多摩	落合村、高井戸村、杉並村
板橋	北豊島	高田村、王子町、板橋町、志村、赤塚村、上練馬村、大泉村
千住	南足立	江北村、伊興村、淵江村、梅島村、花畑村
亀戸	南葛飾	大島町、葛西村、一ノ江村、松江村、小松川村、平井村、奥戸村、鹿本村、小岩村、金町村、水元村、新宿町
青梅	西多摩	箱根崎村、熊川村、福生村、西多摩村、原小宮村、東秋留村、西秋留村、増戸村、大久野村、桧原村、霞村、小曾木村、青梅町、氷川村
八王子	南多摩	町田村
	北多摩	中神村、宮沢村、築地村、立川村、西府村、多摩村、狛江村、千歳村、武蔵野村、砂川村、東村山村、久留米村、小平村

○ 埼玉県

浦和	北足立	神根村、戸塚村、野田村、三橋村、日進村、大石村、小室村、小針村、田間宮村、春岡村、志木町
----	-----	--

杉 戸	岩 槻	忍	熊 谷	本 荘	大 宮	松 山	川 越	
北 葛 飾	南 埼玉	北 埼玉	大 里	児 玉	秩 父	比 企	入 間	
静村、豊田村、行幸村、幸手村、吉田村、堤郷村、豊野村、早稲田村、南桜井村、川辺村	河合村、須賀村、久喜町、清久村、三箇村、小林村、大山村、綾瀬村、黒浜村、	新和村、荻島村、出羽村、越谷町、蒲生村、八条村、増林村、大沢町、桜井村、大袋村、川通村、武里村、粕壁村、豊春村、慈恩寺村、内牧村、	成田村、北川原村、星宮村、大井村、忍町、長野村、荒木村、須賀村、新郷村、太田村、埼玉村、岩瀬村、羽生町、井泉村、志多見村、笠原村、騎西町、不動岡村、樋遣川村、大越村、三俣村、加須町	藤沢村、岡部村、榛沢村、用土村、本畠村、折原村	旭村、仁平村、藤田村、北泉村、共和村、金屋村、青柳村、本泉村、神保原村、賀美村、七本木村、長幡村、松久村	原谷村、三沢村、野上村、金沢村、矢納村、下吉田村、太田村、尾田蒔村、小鹿野町、倉尾村、三田川村、両神村、白川村、中川村、久那村、浦山村、影森村、名栗村、吾野村、太河原村	福田村、唐子村、大河村、明覚村、今宿村、野本村、西吉見村	古谷村、南古谷村、仙波村、鶴瀬村、南畑村、水谷村、所沢町、山口村、小手指村、三ヶ島村、藤沢村、入間村、堀兼村、日東村、山田村、三芳野村、入西村、大家村、川角村、毛呂村、名畑村、鶴ヶ島村、高萩村、高麗川村、霞ヶ関村、水富村、加治村、精明村、南高麗村、植木村

○ 千葉 県

木更津	大多喜	茂原	東金	銚子	佐原	佐倉	松戸	千葉	
君津	夷隅	長生	山武	海上	香取	印旛	東葛飾	市原 千葉	
駒山村、天神山村	清川村、殿根村、長浦村、根形村、平岡村、久留里町、富岡村、中川村、周西村、中村、秋元村、三島村、周南村、飯野村、富津町、吉野村、佐貫町、港町、環村、	上野村、清海村、総野村、総元村、西畑村、上瀑村、千町村、古沢村、 国吉町、中川村、東村、布施村、御宿村、浪花村	大東村、東浪見村、土睦村、高根本郷村、東郷村、関村、豊岡村、新治村、 豊田村、長柄村、茂原町、日吉村、水上村、西村、豊栄村、庁南町	海上村、瀧郷村、豊岡村、南条村	東金町、大和村、土気本郷町、瑞穂村、増穂村、白里村、成東町、日向村、 南郷村、縁海村、蓮沼村、松尾町、大富村、豊岡村、大総村	滑河町、小御門村、大須賀村、森山村、良文村、久賀村、多古町、日吉村、 東条村、古城村、万歳村、神代村、笹川村、豊里村	弥富村、志津村、酒々井村、六合村、宗像村、白井村、大杜村、布鎌村、 豊住村、久住村、八生村、中郷村	行徳町、八栄町、中山村、大柏村、法典村、八柱村、国分村、八幡町、明村、 高木村、土村、千代田村、小金町、馬橋村、八木村、田中村、梅卿村、 野田町、木間瀬村、二川村、関宿町、布佐町、湖北村、富勢村	生実浜野村、千城村、都賀村、検見川村、大和田村、犢橋村、睦村、 豊富村

北条	甲府	石和	鰺沢	萑崎	谷村
安房	中巨摩	東山梨	東八代	西八代	南巨摩
北条町、館山町、豊津村、神戸村、館野村、那古町、岩井村、平群村、瀧田村、国府村、七浦村、曦村、健田村、千歳村、豊田村、丸村、北三原村、南三原村、西条村	貢川村、池田村、松島村、福岡村、睦沢村、吉沢村、龍王村、御影村、百田村、源村、西野村、明穂村、榊村、落合村、五明村、大井村、南湖村、小井川村、大鎌田村、常永村、玉幡村、国母村、西条村、田之岡村	春日居村	竹野原村、祝村	大塚村、山保村、栄村	増穂村、大須成村、睦合村
				朝神村、中田村、江草村、安都奈村、清春村、篠尾村、小渊沢村、大草村	大石村、明見村

○山梨県

59 明治41年12月 市町村国税徴収奨励内規

訓甲第九六号

稅務署長

市町村国税徴収奨励内規別冊之通之ヲ定ム  
右内訓ス

明治四十一年十二月三日

東京稅務監督局長

(別冊)

市町村国税徴収奨励内規

第一条 稅務署長ハ市町村ニ於ケル国税徴収ノ成績ヲ優良ナラシムル為メ、常ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一 市町村ヲシテ指定期日ニ納稅セサル者ニ對シ(法定納期ヲ指定シタルトキハ期限前ニ於テ)、可及的一回以上ノ納稅注意ヲ為サシムルコト

二 市町村ノ徴収ハ成ルヘク法定期限ニ於テ締切ヲ為サシメ、其ノ徴收税金ハ該期限後三日以内必金庫ヘ送付セシムルコト、若已ヲ得ス納期限後ニ於ケル徴収ヲ認ムル場合ト雖、之カ為ニ税金送付ヲ遅延セシメサル様注意スルコト

三 滯納報告書ハ納期限後三日以内ニ必之ヲ提出セシムルコト

第二条 稅務署長ハ毎納期及年度計ノ各市町村收入歩合表ヲ作成シ、其ノ時々各市町村及其ノ直接監督官庁ニ送付シ

参考ニ供スヘシ

前項年度計ノ収入歩合表ハ別紙様式ニ依リ之ヲ作成シ、年度経過後一ヶ月以内ニ本局ニ報告スヘシ

第三条 本局長ハ前条第二項ノ報告ヲ調査シ、必要ト認ムルトキハ成績優良ノ市町村ニ対シ其ノ効績ヲ表彰スルコトアルヘシ

前項ニ依リ発スル文書ハ稅務署及市町村ノ直接監督官庁ヲ經テ当該市町村ニ交付スルモノトス

第四条 稅務署長ハ市町村ノ國稅徵收ニ關スル取扱方ヲ改善スル為メ、左ノ措置ヲ為スヘシ

一 適宜様式ニ依リ市町村國稅事務実績簿ヲ備へ、各市町村國稅徵收事務ノ取扱ニ關スル実況ヲ詳悉シ、之カ改善ニ資スルコト

二 市町村國稅事務担当員ノ会合ヲ催フシ、彼我意思ノ疎通ヲ図ルト共ニ、斯務ニ關スル智識ノ交換ヲ企図スルコト

三 市町村ノ國稅徵收ニ付納稅組合等便利ナル設備ヲ為サシムルコトニ注意シ、將來之等ノ施設ヲ為スモノアルトキハ、其ノ時々之ヲ本局ニ報告スルコト

第五条 稅務署長ニ於テ本内規第一条及第四条第二第三ノ事項ヲ実行スルニ方リテハ、予メ市町村ノ直接監督官庁ニ協議ヲ遂ケ、彼我扞格シタル措置無カラムコトヲ期スヘシ

第六条 市町村ニシテ現ニ第四条第三号ノ設備アルモノハ、此ノ際其ノ方法等詳細ニ調査ヲ遂ケ本局ニ申報スヘシ

〔別紙歩合表は省略〕

(平 11 東京 26)

60 明治41年12月 戊申詔書捧読心得

訓令第六五号

稅務監督官

部

係

稅務署

明治四十一年十月十三日詔書捧読ニ関シ、左ノ通心得ヘシ

明治四十一年十二月二十五日

長野稅務監督局長 飯塚忠成

一 詔書ノ捧読ハ特ニ捧読式ヲ以テ嚴肅ニ之ヲ行フモノトス

二 詔書ノ捧読ハ毎年左ノ期日ニ於テ之ヲ行フモノトス

一 一月四日 御用始

二 二月十一日 紀元節

三 十月十三日 詔書渙發ノ日

官吏ノ服務ニ関シ訓告伝諭ヲ為ス場合、及其ノ他適當ト認メタル場合亦前項ニ同シ

三 詔書謄本ハ本局ニ在リテハ經理部長、稅務署ニ在リテハ署長ニ於テ鄭重ナル方法ヲ以テ保管スヘシ

経第一三〇八五号

明治四十一年十二月廿五日

長野稅務監督局長 飯塚忠成印

村上稅務署長 佐藤正雄殿

本年十月十三日ノ詔書、印刷ノ上其筋ヨリ送付相成候ニ付、一葉以別便及回付候条、到達ノ上ハ領收証差廻シ相ルヘク候也

経第一三〇八五号

明治四十一年十二月廿五日

長野稅務監督局長 飯塚忠成印

村上稅務署長 佐藤正雄殿

本年十月十三日詔書、今回印刷配付相成候処、部下ノ服務訓練ニ関スル方法ハ夫々相備ハリ、其ノ訓督淬励ハ平素ニ於テ深ク御注意相成居ルヘキ儀ニモ有之、詔書渙發ノ当時既ニ已ニ夫々 聖旨ノ貫徹ヲ期セラレ候儀トハ相信シ候得共、今回印刷頒布セラレタル趣旨ハ夙夜欽仰奉体ノ料ニ供セシメントスルニ在ルヲ以テ、別ニ定メタル処ニヨリ來ル四十二年一月四日ヲ以テ特ニ捧読式ヲ挙ケ、愈々 聖旨ノ在ル処ヲ知ラシメ、尚之ヲ申明敷衍シテ一般ニ貫徹セシムルノ方法ヲ講セラルヘク、且今後ニ於ケル適當ノ機会ニハ特ニ反復シテ之ヲ捧読セラレ可然ト存候条、此段特ニ申進候也

61 明治41年12月 戊申詔書配付の件

秘親第一〇一九号

明治四十一年十二月廿六日

札幌稅務監督局長印

網走稅務署長殿

本年十月十三日詔書ニ関シ其筋ヨリ別紙写ノ通り通牒有之候条、捧読式ハ本局ヨリ回送スヘキ詔書到達ノ際、直ニ奉行セラル可ク候、爾後毎年三大節及御用始ニ勿論、適當ト認ムル時機ヲ見計ヒ举行セラレ、署員ヲシテ能ク 聖旨ノ在ル所ヲ知ラシムル様致度

右及内牒候也

追テ、本文詔書ハ目下当局ニ於テ装釘中ニ付、出来次第小包便ヲ以テ送致スヘク、併テ申添候也

主税第二二三号

本年十月十三日詔書、今般本省ニ於テ印刷配布相成候ニ付テハ、貴局及稅務署ニ於テ適宜相当ノ儀式ヲ以テ部下官吏ヲ集合シテ之ヲ捧読セラレ可然、尤モ部下ノ服務訓練ニ関スル方法ハ夫々相備ハリ、其訓督淬励ハ平素ニ於テ深ク御注意相成居ルヘキ儀ニモ有之、詔書煥發ノ当時既ニ巳ニ夫々 聖旨ノ貫徹ヲ期セラレ候儀トハ相信シ候得共、今回印刷頒布相成候本省ノ趣旨ハ、夙夜欽仰奉体ノ料ニ供セシメントスルニ在ルヲ以テ、此際特ニ捧読式ヲ以テ愈々 聖旨

ノ在ル所ヲ知ラシメ、尚之ヲ申明敷衍シテ一般ニ貫徹セシムルノ方法ヲ講セラレ候様致度、且今後トモ部下官吏ノ服務ニ関シ訓告伝諭ノ際其他廉立チタル儀式等、適當ノ機会ニハ特ニ反復シテ之ヲ捧読セラレ可然ト思考致候条、此段特ニ及通牒候也

明治四十一年十二月二十一日

大蔵省主税局長 桜井鉄太郎

札幌税務監督局長 吉田平吾殿

(平 12 札幌 60)

62 明治41年12月 税務執行方針並びに税務官吏服務心得

訓示第一号

監督官

部 係

税務署

税務執行ノ方針並ニ税務官吏服務心得ニ付テハ屢次大蔵大臣訓示ノ次第モ有之、本官亦之レヲ敷衍シテ数次内訓スル所アリ、而カモ連年数回ニ涉レルヲ以テ或ハ服膺ニ便ナラサルモノアラン、且時勢ノ進運ニ応シ取捨按排シテ之レヲ輯収シ更メテ茲ニ之レヲ訓示ス、平素眷々服膺シテ敢テ誤ルナカラムコトヲ期スヘシ

明治四十一年十二月二十六日

稅務執行ノ方針

一 徵稅方法ノ改善ニ關スル執行方ニ付テハ、從來諸種ノ機會ニ於テ其ノ方針ヲ示シタリ、元來大戦ノ後國民負擔ノ輕カラサル場合ニ於テ稅政ノ成績ヲ挙ケムトスルカ故ニ、其ノ處理措弁ニ付テハ最モ宜シキヲ得サルヘカラス、稅務當局苦心ノ存スル所實ニ茲ニ在リ、希クハ尚一層ノ注意ヲ払ヒ以テ円満ニ所期ノ目的ヲ達セムコトヲ努ムヘシ

一 營業稅及所得稅ノ調査ニ付テハ、主トシテ市街地ニ於テ精密ナル調査ヲ為シ、非市街地ニ於テハ不權衡ヲ矯正シ、併セテ從來調査ノ不充分ナリト認ムルモノニ對シテ精査ヲ行フコトトセルハ帝國政府ノ方針ニシテ、各局亦之ヲ承ケ一途ニ出ツル所ナリ、我局本年ニ於ケル營業稅所得稅ニ付テハ、如上ノ趣旨ニ依リ之ヲ調査ヲ遂行シ成績見ルヘキモノアリ、今又茲ニ贅スルノ要ナキカ如キモ、惟フニ市街地ト非市街地トニ依リ調査ノ程度ヲ異ニシタルハ、市街地ニ課稅物件ノ遺漏多キ事實ヲ認メタルニ因ルモノナリ、故ニ一度此ノ方針ヲ誤ルトキハ市街地ト非市街地トノ間ニ於ケル負擔ノ不公平ハ遂ニ其ノ矯正ヲ得ルノ時ナキノミナラス、一方ニ於テハ苛察ノ誹ヲ免レスシテ徒ニ民衆ノ怨府トナルヘキカ故ニ、深ク之ニ注意シ、來ル四十二年營業稅ノ調査ニ付テモ亦今日ヨリ諸般ノ用意ニ於テ欠クル処ナキヲ要ス

一 事實ヲ根拠トセス漫ニ稅金額ヲ予斷シテ賦課ヲ強ユルカ如キコトハ斷シテ之レ有ルヘカラサルハ言ヲ俟タス、又所得金額算出ノ基礎曖昧ニシテ人ノ質問ニ對シ明確ナル説明ヲ与フル能ハス、決定通知ノ後之ヲ訂正セサルヘカラサルカ如キ情態ニ在ラシムルハ、縦ヒ多數納稅者ニ對シ悉ク精確ナル調査ヲ遂クル能ハサルニ由ルモノナルカ如シト雖モ、其ノ如斯ハ会々以テ調査ノ粗漏杜撰ナルヲ表白スルモノニシテ、稅務ノ信用ニ關スルコト甚タ少カ

ラサルカ故ニ深く注意ヲ要ス、尚殊ニ稅務署間ニ通報スル所得事項ノ如キモ、其ノ算出ノ基礎ヲ最モ明確ナラシムルヲ要ス

一 所得稅及營業稅ノ施行ニ際シテハ逋脫ヲ挙クルヲ主トシ、故ラニ所得標準又ハ課稅標準率ヲ高メテ增收ヲ図ルカ如キコトハ強テ之ヲ試ムルノ要ナク、例ヘハ所得ノ原因、營業ノ狀態前年ト異ルコトナキニ、所得ノ金額又ハ課稅標準ニ急激ノ増加ヲ來サシメ、納稅義務者ヲシテ疑惑ヲ起サシムルカ如キハ可成之ヲ避クルヲ可トスルヲ以テ、急激ニ失セス漸ヲ以テ其ノ目的ヲ達セムコトヲ要ス

一 所得稅其ノ他ノ課稅標準ハ一定ノ標準歩合ヲ設ケテ算出スルヲ以テ普通ノ取扱例トスルモ、納稅義務者ノ申告又ハ答弁ニ依リ課稅標準ノ明確ニシテ信憑スルニ足ルヘシト認ムルモノニ付テハ標準歩合ヲ適用スルヲ要セス、千篇一律ハ却テ公平ヲ期スル所以ニアラス、殊ニ納稅義務者ノ申告額ト稅務署ノ見込額トノ差極メテ少許ニシテ、殆ト稅金額ニ影響ヲ及ボササルカ如キモノニ對シ強テ標準歩合ヲ適用スルカ如キハ、徒ニ感情ヲ害スルニ止マリ実益ナキコトナリトス

一 所得稅、營業稅ノ審査請求又ハ訴訟、訴訟ヲ提起セムトスル者アルトキハ、之ニ對シ相當ノ説明ヲ与フルハ差支ナキモ、強テ其ノ主張ノ理由ナキコトヲ示シ、勝算ナキコトヲ説キテ之ヲ沮止セシムルカ如キコトアルヘカラス、又求メテ訴訟、訴訟ノ提起ヲ促カスカ如キコトハ避ケサルヘカラサルコトナルモ、納稅者ニ於テ稅務當局ノ処分ニ不平ヲ抱キナカラ強テ之ニ屈服シ、却テ陰ニ陽ニ稅務當局ニ怨嗟ノ声ヲ放タシムルカ如キハ、稅務ノ信用ヲ傷クルモノ大ナルカ故ニ、此等ニ對シテハ別ニ救済ノ門戸ニ依リ其ノ主張ヲ貫徹スヘキヲ示スヘシ

一 正業者ト不正業者トヲ區別シ取扱ノ寬嚴ヲ斟酌スヘキハ直稅タルト間稅タルトヲ問ハサルナリ、若不正業者ニ對スル態度ヲ以テ正業者ニ臨ムトキハ、徒ニ繁細ニ流レ苛察ノ難ヲ免レサルヘシ、此ノ間機宜ヲ失ハサルコトニ注

意スルヲ要ス

一 吏員ノ増配ニ伴ヒ事務ノ計画分配ニ付テハ夫々適切ニ施為スル所アルヘキハ言フ俟タサル所ナリ、若余力アルニ任セテ煩瑣ノ検査ヲ執行スルカ如キコトアルニ於テハ、世間或ハ吏員ノ増加ハ徒ニ事務ノ繁細ヲ促スモノナリトノ言ヲ為スニ至ルナキヤヲ保セスシテ、甚憂フヘキコトナリトス、故ニ吏員ノ事務ノ分配及計画ニ付テハ特ニ注意ヲ要ス

#### 税務官吏服務心得

臣民納税ノ義務ハ法律ニ依ルニアラサレハ之ヲ定ムル能ハス、税務官吏ハ実ニ租税法規ノ執行ヲ任トスルモノニシテ、其処弁ノ結果ハ直チニ臣民ノ休戚、政府ノ歳入ニ関ス事ニ、此職務ニ從フモノ自ラ其任務ノ輕カラサルヲ省ミ、常ニ慎重ノ注意ヲ為シ、苟モ過誤遺漏ナカラシムコトヲ期セサルヘカラス、茲ニ税務官吏服務心得ノ梗概ヲ示シ、以テ其任務ヲ完行スルニ就キ服膺スヘキ綱目ノ大要ヲ知ラシム

第一条 凡ソ税務ノ執行ハ法規ノ定ムル所ニ遵ヒ課税ノ基礎ヲ明カニシ、規定以外ノ徴収ヲ為サス又規定以内ニ於テ逋税ナカラシムルヲ以テ其目的トス、物件ノ査定、簿書ノ整理、不正行為ノ予防、犯則事件ノ檢舉、共ニ皆此目的ヲ達スルノ手段方法ニ外ナラス、税務官吏ハ常ニ此意ヲ体シ処理措弁都テ此目的ニ帰着スルヲ期スヘシ

第二条 事務ノ処理ハ固ヨリ周到緻密ナルヲ要スト雖モ、徒ラニ事ヲ繁細ニシ人民ノ冗煩ヲ致シ、又ハ時間ヲ空過セシムルカ如キコトアルヘカラス

第三条 人民ニ対スルハ須ラク惻切丁寧ナルヘシト雖モ、自ラ職務ノ分限ヲ守リ漫リニ民業ニ干渉シ、又ハ納税者ト昵狎スヘカラス

第四条 職ニ当テハ宜シク嚴正ニシテ熱心ナルヘシ、然レトモ檢束ニ過キテ人民ノ情意ヲ竭サシメス、苛察ニ涉リテ細故ノ摘發ヲ事トスルカ如キコトアルヘカラス

第五条 事ヲ執ルハ当サニ敏活ニシテ果斷ナルヘシ、然レトモ粗漏ニ流レテ緻密ヲ欠キ暴慢ニ陥リテ温和ヲ失フヘカラス

第六条 簿書ノ取扱ハ類別ヲ明カニシ保存ヲ確メ、事ニ当テ索引ノ便ヲ得ルヲ勉ムヘシ、稅務官吏ハ常ニ意ヲ此ニ注キ、其整理ヲ忽諸ニ付スヘカラス

第七条 稅務ニ在テハ算數ノ事最モ其多キヲ占ム、而シテ其正否ハ直チニ徵稅ノ当否ト相關係ス、故ニ算數ノ事ニ於テハ最モ心ヲ用テ違算誤謬ナキヲ期スヘシ

第八条 逋稅犯則ハ固ヨリ種々ノ原因アルヘシト雖モ、亦日常取締ノ緊否ニ関スルコト大ナリ、之ヲ事後檢拏スヘキハ勿論ナリト雖モ、最モ之ヲ未然ニ予防スルコトニ注意セサルヘカラス

第九条 稅務上ノ取締ハ形式ニ流レス実効アルヲ要ス、又公平無私ニシテ人ニ依テ寬嚴同シカラサルカ如キコトアルヘカラス

第十条 稅務官吏ハ職務ニ服スル忠実ヲ旨トシ、同僚ニ対シテハ禮讓ヲ重シ、各自其地位ニ從テ職分ヲ尽シ、互ニ同心協力シテ全部ノ事務ノ擧カランコトヲ勉ムヘシ

第十一条 稅務官吏ハ人民ノ財産ニ對シテ職務ヲ行ヒ、又ハ犯則行為ノ檢拏ヲ為スモノナレハ、最モ清廉純潔ナラサルヘカラス、故ニ其素行ヲ修メ品操ヲ高クシ、勤儉ヲ守リ廉恥ヲ重シ、苟モ他人ノ指摘ヲ受クルカ如キコトナキヲ期スヘシ

第十二条 稅務官吏ハ人民ノ財産ニ関シテ調査ヲ為シ、又ハ物品ノ製造方法ヲ取調フルコトアルヲ以テ、自ラ人ノ機

密ヲ知得スルモノナリト雖モ、職務上ニ要スルノ外決シテ之ヲ他人ニ漏洩スヘカラス

第十三条 稅務官吏ハ平常注意シテ課稅物件ノ狀況、價格、製造方法等ヲ考察熟知スルコトヲ勉メ、稅務執行上ノ參考ト為スヲ要ス

第十四条 稅務官吏人民ニ接スルニハ相当ノ禮節ヲ守リ、言語動作ハ努メテ温和端正ヲ旨トシ、自ラ他ノ敬重ヲ受クルヲ要ス、然ルニ動モスレハ暴慢ノ言語ヲ発シ又ハ卑陋ノ態度ヲ示ス等、之カ慎ミヲ加ヘサルニ由リテ、自然人民ノ輕侮ヲ招キ其指彈ヲ受クルニ至ルモノ世其例ニ乏シカラス、故ニ自今ハ大ニ之ニ鑑ミ人民ニ接スルニハ温和ヲ主トシ、且ツ中庸ノ言辭ヲ用キ、汝、其方、貴様等卑賤ニ対スルノ称呼ヲ避クヘキハ勿論、或ハ帽子ヲ冠シ（間稅官吏ハ格別）襟卷ヲ為シ、又ハ上衣羽織等ヲ着用セシテ応接スル等、失体ニ涉ルノ言行ハ嚴ニ之ヲ慎ミ、カメテ官吏タルノ威嚴ヲ保チ品位ヲ高ムルコトニ注意反省センコトヲ要ス

第十五条 官吏タルノ威儀ヲ保チ品位ヲ高ムルノ要ハ、言語動作ヲ慎ミ以テ他ノ畏敬ヲ惹クニアリト雖モ、着用ノ衣服モ亦其一要件タラスンハアラス、故ニ敢テ美服ヲ着シ徒ラニ辺幅ヲ飾ルノ要ナキハ勿論ナルモ、苟モ外部ニ出張スルトキハ必ス洋服ヲ着シ、又内部ノ事務ニ従事スル場合ト雖モ、判任以上ノ如キハ成ルヘク洋服ヲ着用シ、以テ官吏タルノ容儀ヲ備ヘ其体面ヲ損セザランコトヲ要ス

第十六条 稅務官吏ハ人民ニ於テ無礼失言其他粗暴ノ挙動ヲ為スニ遭遇スルモ、決シテ激シテ憤怒シ憶シテ逡巡スルカ如キ行為アルヘカラス、益々靜肅端嚴穩ニ適宜ノ処置ヲ為スヘシ

第十七条 稅務官吏ハ執務ノ際課稅物件ヲ檢定スルニ當テハ、已ムヲ得サル場合ノ外ハ之カ消費毀損等之ナキ様注意スヘシ

第十八条 稅務官吏公務ヲ執ルニ當リテハ一意熱心事ニ服シ、苟モ公隙ヲ偷シテ猥リニ私事ヲ弁シ、又ハ雜談等ニ時

間ヲ空費スル等職務ヲ耽廢セントスルノ所為アルヘカラス、然ルニ從來見聞スル所ニ由レハ實際ニ於テハ間々此種ノ弊アルヲ免レサルモノノ如シ、今ニシテ是等ノ弊風ヲ矯ムルニアラサレハ稅務ノ整理得テ望ムヘカラス、自今ハ斷シテ此等ノ弊ヲ去リ各自勤恪励精其職務ニ忠実ナランコトヲ要ス

第十九條 稅務官吏ハ嚴然タル服務規律ノ下ニ動作シ廉潔謹嚴自ラ居ルモノナレハ、職務ニ關係アル營業者等トノ交際ハ努メテ之ヲ避ケサルヘカラス、然ルニ若シ此輩ト交際ヲ為シ交情日ニ加ハルニ於テハ、自然金錢貸借物品贈遺等ノ弊ヲ生シ、終ニ公私ノ區別ヲ紊リ延ヒテ他ノ嫌疑ヲ惹起スル等、其極官吏タルノ威信ヲ失墜スルニ至ラントス、故ニ各十分ノ戒飭ヲ加ヘ是等ノ交際ハ之ヲ避クヘキハ勿論、假令從來ノ私交アル者ト雖モ成ルヘク之ヲ避ケ、且ツ是等ノ者ト金錢物品ノ貸借贈答ヲ為スカ如キハ斷シテ禁止センコトヲ要ス

第二十條 稅務官吏巡回ヲ為スニ當リテハ其職務ニ關係アル者ノ家宅ニ宿泊シ、又ハ酒食茶菓等ノ饗応ヲ受クルカ如キコトナキヲ要スルハ勿論、假令自己携帯ノ行厨ヲ開ク場合ト雖モ必ス他ニ於スヘシ、若シ山間不便ノ地方等ニシテ已ムヲ得サル場合等ニ於テハ、湯茶ヲ受ケテ喫飯スルハ妨ケナキモ、決シテ飲食物ヲ受クル等ノコトナキヲ要ス

第二十一條 稅務官吏ニシテ間々品行ヲ紊リ、或ハ過失ヲ醸シ負債ヲ嵩メ、若ハ同僚ノ輯睦ヲ斃ル者ナキニアラサルヲ聞ク、自今戒飭シテ官吏ノ体面ヲ損セザランコトニ注意ヲ要ス

#### 稅務官吏執務上心得

一 署長ハ部下ノ監督ヲ嚴ニシ且精勵事ニ莅ミ、以テ其職責ヲ全フセシムルハアルヘカラス、若シ夫レ監督粗慢ニ流レ或ハ細大事ヲ下僚ニ放任シ、偷安其日ヲ徒費スルカ如キ事アルニ於テハ、為メニ稅務ノ進行ヲ阻害シ其職責ヲ曠フスルノ責アルコトヲ免レス、依テ署長ハ予テ此意ヲ体シカメテ要務ヲ掌理シ、兼テ内外部下ノ監督ヲ嚴肅ニスルコ

トヲ要ス

- 二 稅務行政ノ振拏ヲ図ラント欲セハ、當務官署ノ内部先ツ相和衷シ以テ外ニ忠セサルヘカラス、法令官紀ノ存スル所一般官吏固ヨリ遵由ノ責アリ、殊ニ廉正堅実ヲ專要トスヘキ稅務官吏ニ在リテハ、紀律節制ノ範圍ニ動作スヘキハ勿論ナリト雖モ、官僚相互ノ間又常ニ情誼ヲ重シ德操ヲ尚ヒ藹然和衷ノ実アルヲ要ス、故ニ上官ノ下僚ニ接スルハ温和ヲ旨トシ精勵以テ之ヲ卒ヒ、下僚ノ上官ニ對スルハ誠順ヲ主トシ質実以テ之ヲ承ケ、同僚相信孚シ執務相輔翼シ氣脈ヲ閔連シ意志ヲ疏通シ、阻格推諉ノ弊ナカラムコトヲ要ス、斯クノ如クニシテ上下協同各其職ヲ樂ミ其責ヲ重スルトキハ、法令官規ノ中ニ在リテ渾然機敏活動ノ余地アルヘシ、從來屢々訓示セシ如ク簡捷以テ事務ニ當リ、懇篤以テ人民ニ接スル等、凡ソ稅務ノ執行ニ關シ當務者ノ當ニ服膺スヘキ諸般ノ要項、亦実ニ内部ノ和協如何ニ由ルモノ多シトス、曩キニ官制ヲ改正セラレ稅務行政一層ノ敏活ヲ期スルニ方リ、益各官署内同心一体ノ動作ヲ要ス、一般稅務ニ従事スルモノハ篤ク此旨趣ヲ体シ、以テ刷新ノ時運ニ応スルコトヲ勉ムヘシ
- 三 稅務行政ハ複雑多岐ニ涉リ往々ニシテ他官庁市町村役場等ニ關係ヲ及ホスヘキ場合多シ、サレハ平生各官公署間ハ互ニ意志ノ疎通ヲ図リ、相協助シテ以テ執務ノ進捗ヲ期セラレンコトヲ要ス
- 四 都テ事務ハ費用ヲ少フシテ事ヲ挙クルヲ以テ最モ肝要トス、殊ニ稅務ニ於テ徵稅費ノ多キハ決シテ嘉ニスヘキニアラス、爾今費用ヲ節シ旅費等ノ如キ必ス之ヲ有効ノニ使用シ、決シテ空費スルノ弊ナカラシムコトヲ要ス
- 五 都テ事務ヲ処スル先ツ其輕重ヲ鑑別シテ其干係ノ効用ヲ考察シ、文飾儀式ニ屬スル繁褥ノ手續ハ成ルヘク之ヲ省略シ事務ノ簡捷ヲ尚ヒ、カヲ要務ニ專ニセシムコトヲ期スヘシ
- 六 稅務署ニ於テハ從來事ノ細大ヲ問ハス漫リニ人民ヲ召喚シテ書類ノ提出又ハ訂正ヲ促シ、若ハ説諭等ヲ試ムルノ弊アリ、甚シキニ至テハ長時間署内ニ待セ置キ人民ヲシテ迷惑ヲ感セシムルコト往々ニシテアリシ、自今ハ斷シテ

之ヲ召喚スルコトヲ避ケ、書類ノ提出ヲ促シ又ハ訂正ヲ要スル場合等ニ於テハ、便宜ノ方法ヲ以テ処分スルコトヲ要ス

七 来署ノ人民ニ対シテハ親切ト敏速トヲ以テ署長自ラ之ニ接シ、即時其用務ヲ処分シテ暫ク署内ニ稽留スル等ノコトナカラシメコトヲ期シ、大ニ人民ノ利便ヲ図ルコトヲ要ス

八 期限アル諸進達報告類ニシテ往々期限ヲ経過シ、再三督促ノ末漸クニシテ之ヲ進達スルニ至ルモノアリ、自今ハ必ス期限内ニ到達スルノ見込ヲ以テ發送シ、決シテ督促ヲ受クルコトナカラシメ要ス

九 諸計表進達ノ後ニ至リ誤謬訂正等ノ為メ往復ノ煩ヲ累ヌルモノアリ、若シ計表類ニシテ誤謬アルトキハ課税ノ基礎ヲ誤ルノミナラス、信ヲ上下ニ失シ整理上容易ナラサル障害ヲ及ボスヘキニ付、自今ハ努メテ精確ヲ期シ進達ノ際署長ニ於テ篤ト精査ヲ遂ケムコトヲ要ス

十 税務ニ関連シ臨時ニ發生スル重要事項ハ、其虚実真偽等ノ如何ヲ問ハス速カニ之ヲ報告シ、其機ヲ愆ラサル様注意ヲ要ス

十一 平素執務スルニ当リテハ法規令達ニ遵ヒ敏活ニ処理シ、苟モ未整理等ノコトナキ様注意スルハ勿論、殊ニ間税官吏ニ在リテハ常ニ機敏ヲ主トシ厳正周密ヲ以テ事ニ莅ミ、事ヲ未然ニ察シテ毫モ脱税通税ノ余地ナカラシメ、而シテ若シ犯則ノ事實アルコトヲ発見シタルトキハ仔細ニ其犯情ヲ察シ、濫リニ不問ニ付スルカ如キコトナク相当処分ヲ為シ、懲戒ノ実ヲ全フスルコトニ注意スルコトヲ要ス

十二 間税官吏職務執行上必要ト認ムル場合ニ於テ、家宅搜索ヲ為スハ固ヨリ法律ノ許ス所ナリト雖モ、猥リニ之ヲ行フニ於テハ人民居住ノ安全ヲ妨ケ、其權利自由ヲ毀損スルノ責輕カラス、故ニ十分精確ニ探訪ヲ悉シ必ス犯則アリト認知スルニ足ルヘキ事實ヲ認メタル後捜査スルヲ要ス

十三 犯則事件ニ関スル調書ハ犯則者任意ノ答弁ヲ録取スルヲ以テ足ルモノナルニモ拘ハラズ、間々間税官吏自己ノ臆測ヲ以テ其推訊スル所ニ首服セシメ、或ハ犯則者ノ自白ヲ主トシテ証拠物件ニ憑ルコトヲ輕ンスルノ弊ナキニアラス、自今充分ノ注意ヲ加ヘンコトヲ要ス

十四 犯則ノ調査ヲ受クル者ノ中ニハ官吏ヲ輕視シテ兎角怒リ易キモノアリ、又窮窘ノ余輒ク憤激スル者アリ、或ハ恐怖ノ余不穩ノ言行ヲ為スモノアルヘシ、此場合ニ於テ当該官吏ハ對手者ノ態度ニ挑発セラレテ不知不識自己ノ体面ヲ損スルカ如キ言語ヲ弄シ、又ハ挙動ヲ為スコトアルヘカラス、宜シク慎重ノ態度ヲ取りテ平円ナル談話中ニ其結果ヲ収ムルコトニ努ムルコトヲ要ス

十五 犯則トシテ種々ノ質問ヲ受クル者ハ人情甚シク恥辱ヲ感スルモノナリ、殊ニ其尊屬卑屬又ハ配偶者ノ面前ニ於テ質問セララル、カ如キハ最モ苦痛トスル所ナルヘシ、而シテ其尊屬卑屬又ハ配偶者ニ在テモ之ヲ見聞スルトキハ痛ク加辱ヲ感スルノミナラス、事実ノ有無ニ拘ハラズ多ク当該官吏ノ処置ニ対シ憤懣ヲ懷クコトアルヘシ、故ニ犯則ノ調査ヲ為スニハ成ルヘク此ノ如キ者ノ現在セサル所ニ於テ質問応答スルコトヲ心懸ケ、恥辱ニ亘ルカ如キコトニハ努メテ之ヲ避クルコトヲ要ス、然レトモ其場ノ狀況若ハ犯則者ノ性質如何ニ由リテハ、寧ロ以上ノ手段ニ依ルノ得策タルコト之レアルヘシ、此場合ニ於テハ躊躇スルコトナク臨機ノ手段ニ出ルコト勿論ナリ、故ニ当該官吏ハ平素当業者又ハ代理人杜氏等ノ性質ヲ熟知スルコト最モ肝要ナリ

十六 犯則者取調ニ方リ外部ト連絡ヲ絶タル、ノ虞アルカ如キ場所ニアルトキハ、使用人等ノ態度ニ注意シ、万一ノ場合ニ処スルノ方法ヲ立ツルコトニ怠ルヘカラス

十七 被尋問者ノ近傍ニ襲撃ニ用半易キ器具、例ヘハ刃物又ハ棍棒ノ類アルトキハ、夫レトナク此ノ如キ器具ノ存在セサル所ニ移テ尋問ヲ為スカ如キ注意ヲ怠ルヘカラス

十八 戸外ニ於テ犯則ヲ發見シタル如キ場合ニ於テハ、多衆ノ群集ハ事実ノ真相ヲ確メスシテ常ニ官吏ノ処置ヲ苛酷ナリト妄信スルノ傾アルモノナルヲ以テ、他人ノ群集シ来リ易キ場所ニテハ尋問ヲ為サス、成ルヘク戸内ニ移リ又ハ他ノ人目ニ触レサル所ニ於テ調査スルカ如キ心得アルコトヲ要ス

十九 稅務官吏ハ平素其職務ニ関スル法規令達ヲ熟読研究スルハ勿論、職務ノ余暇ヲ以テ一般法理ノ研究、新智識ノ養成ニ勉メ、専ラ事局ニ応スルノ準備アランコトヲ要ス

(平 11 関信 118)

### 63 明治42年2月 稅務署所在地の納稅成績改善

訓令秘第一号

稅 務 署 長

稅務署所在地ニ於ケル納稅成績ノ良否ハ延イテ全管ノ成績ニ影響スルモノ尠少ナラス、自今左記ノ方法ニ依リ督勵ヲ加ヘ勉メテ改善ノ途ヲ講スヘシ、但シ市役所又ハ町役場ニ對シテハ前以テ協議ヲ尽スコトヲ要ス

一 納期限ノ前日ニ於テ市役所又ハ町役場ニ就キ未納者ヲ調査シ、督勵方法ヲ協定スルコト

二 納期限当日ニ於テハ市役所又ハ町役場ニ署員ヲ派遣シ、当該吏員ト共ニ夫々部署ヲ定メ直接滞納者ニ就キ督勵ヲ加フルコト

三 前項督勵ヲ加フルモ尚ホ納付セサルモノニ對シテハ、市役所又ハ町役場ヲシテ送納期日迄同一方法ヲ以テ徵收セシメ勉メテ完納ヲ期スルコト

四 送納期日ニ於テハ定刻迄ニ徴収金額ノ全部ヲ送納セシメ、若シ滞納者アルトキハ直ニ報告セシムルコト

五 前項滞納者ニ対シテ最モ迅速ニ処分ヲ執行シ、苟モ処分遅延ノ為メニ滞納ヲ助長セシムルカ如キコトナカラシムルコト

明治四十二年二月十日

仙台稅務監督局長印

(平 12 仙台 722)

64 明治42年3月 埼玉県町村国税事務取扱規程

埼玉県ニ於テ左記ノ如ク町村国税事務取扱規程ヲ定メ、郡役所町村役場へ訓令シタル趣、同県々報(四年三月一九日 第一七八七号)ヲ添へ浦和稅務署ノ通信アリタリ

埼玉県訓令第十六号

郡役所 町村役場

町村国税事務取扱規程、左ノ通定ム

明治四十二年三月十九日

埼玉県知事 島田剛太郎

町村国税事務取扱規程

第一条 稅務署ヨリ土地異動、納租者異動、自家用醬油稅又ハ壳葉營業稅ニ關スル通知書、若クハ指令書ヲ受ケタルトキハ、直ニ土地台帳、地租名寄帳及一人別徵稅元帳ヲ加除スヘシ、但地圖ノ訂正ヲ要スルモノハ稅務署ノ地圖ニ依リ調査整理スヘシ

前項ノ通知書ニハ其余白ニ第一号様式ノ押印ヲ為シ、各事項整理済ノ都度取扱者ニ於テ下欄ニ認印ヲ為シ事蹟ヲ明瞭ナラシムヘシ、但整理上不用ノ欄ニハ斜線ヲ施スヘシ

第一条 明治二十七年四月埼玉県訓令第五十九号様式ニ依リ、地租名寄帳ヲ加除スルトキハ減ヲ朱書シ従前記載ノ分ハ朱線ニテ抹消スヘシ

第二条 地租名寄帳一人別合計額ノ地価ニ依リ地租ヲ算出スルハ、明治四十年三月法律第三十一号第三条ニ依リ定率増徴共各別ニ算出シテ、錢位未滿ノ端数アルトキハ之レヲ五厘トシ、其合算額ヲ地租額トス

前項納額ヲ毎納期ニ分配スルニハ納期数ニ平分シ、各期ノ納額ニ錢位未滿ノ端数ヲ生スルトキハ之ヲ五厘トシテ計算スヘシ

第四条 地租ノ納税管理人ニ関スル申告ヲ受ケタルトキハ、直ニ地租名寄帳納税者ノ左傍ニ其住所氏名ヲ朱書スヘシ

第五条 明治三十七年法律第十二号第三条第一項ノ報告ハ第二号様式ニ依リ納期初日ノ十五日前ニ提出シ、同第二項ノ報告ハ第三号様式ニ依リ異動ノ都度直ニ提出スヘシ

市街宅地ニ在リテハ其年七月一日翌年一月一日ヲ納期開始トシ、其十五日前ニ報告書ヲ提出スヘシ

第六条 前条ノ報告ヲ為シタルトキハ納税告知書ノ調製其他ノ準備ヲナシ、納額通知書ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク納税告知書ヲ發付スヘシ

前項納税告知書發付後納期開始迄ニ、納税義務者又ハ納税額ニ異動アリタルトキハ、直ニ納税告知書更正ノ手續ヲ為スヘシ

第七条 納税告知書ノ公示送達ヲ要スルモノアルトキハ、町村ノ公告式ニ依リ之ヲ公示スヘシ

第八条 地租以外ノ納額通知書ヲ受ケタルトキハ、自家用醬油税、売薬營業税ハ一人別徵税元帳、其他ハ納額通知書

ニ添付ノ仕訳書ニ依リ直ニ国税金収納簿ニ記入、納税告知書発付ノ手續ヲ為スヘシ

第九条 納税告知書ハ売葉營業税ニ付テハ納期日ノ十日前、其他ノ諸税ハ納期初日前ニ之ヲ発付スヘシ

臨時収入ニ係ル地租其他ノ諸税ニ就テハ、納額通知書ニ添付ノ一人別仕訳書ニ依リ随時収入国税金収納簿ニ記入シ、直ニ納税告知書発付ノ手續ヲ為スヘシ

第十条 明治三十六年法律第三号及同年勅令第八号ニ依リ年賦延納ヲ許可セラレタル地租ニ付テハ、明治三十六年大蔵省訓令第二十二号ニ依リ地租年賦延納額名寄帳ヲ調製シ、各様式ノ事項ヲ記入シ置キ、納額通知書ヲ受ケタルトキハ国税金収納簿様式第一第二準シタル収納簿ヲ調製シ、毎納期ノ金額ヲ記載シ納税告知書発付ノ手續ヲ為スヘシ

第十一条 納額通知書ニ対シ増減額通知書ヲ受ケタルトキハ、直ニ国税金収納簿及国税金収納集計簿ヲ整理スヘシ  
土地又ハ所有者異動ノ為メ納額ノ増減変更ヲ生シタルトキハ、直ニ国税金収納簿及国税金収納集計簿ヲ加除シ、異動報告書提出ノ手續ヲ為スヘシ

前各項ニ該当スル者ニ対シ既ニ納税告知書発付済ナルトキハ、直ニ更正ノ手續ヲ為スヘシ

第十二条 税金ヲ領収シタルトキハ直ニ国税金収納簿ニ領収月日ヲ記入シ、納税告知書原符ノ余白ニ何月何日領収ト記載シ、其日ノ納税告知書原符ハ一括シテ第四号様式ノ科目別日計表ヲ添付シ、之ニ依リ国税金収納集計簿ヲ整理シ、国税金収納簿ノ各人別収入額ト照合スヘシ

第十三条 税金ヲ金庫ヘ送付スルハ遅クモ納期後三日ヲ経過スヘカラス

其納期内ト雖モ徴収金ハ漸次金庫ニ送付スヘシ

第十四条 滞納報告書ハ第五号様式ニ依リ納期限後三日以内ニ必ス提出スヘシ、但国稅徵收法第四条ノ一二依ル繰上

徴収額ニ付テハ納期限ノ翌日迄ニ提出スヘシ

滞納報告書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 租税ノ属スル年度、科目、納期、区分税額

二 滞納ノ事由

三 滞納者ノ住所氏名（納税管理人アルモノハ其住所氏名、公共団体大字又ハ社寺等ハ其管理人ノ氏名、法人ナル

トキハ代表者ノ氏名）

四 公示送達ヲ為シタルモノハ其月日

第十五条 有租地現在ヲ明瞭ナラシムル為メ、毎年一月一日名寄帳現在額ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシ

第十六条 土地ノ異動ニ関シ数年ニ涉リ整理ヲ要スルモノハ、予メ第六号様式ノ帳簿ヲ備ヘ置キ、異動通知書若クハ

指令書ヲ受ケタル都度記入整理スヘシ

年期地ニシテ期限滿了ニ至ラサルモノアルトキハ、此際前項ノ帳簿ニ記入整理スヘシ

附 則

第十七条 従前ノ規定ニシテ本令ニ抵触スルモノハ之ヲ廢止ス

〔様式は省略〕

(平 11 東京 27)

65 明治42年6月 直税法規違犯への制裁施行方

訓甲第三三号

稅務署長

直税法規違犯ノ行為ニ對シテハ、他ノ犯罪ノ如ク制裁ヲ勵行セサル慣行ニ有之候處、近來漸ク税金逋脱ノ目的ヲ以テ不正ノ行為ヲ敢テスル者ヲ生スルノ傾向アリ、從來ノ如ク之ヲ寬假スルニ於テハ、嘗ニ課稅ノ公正ヲ得サルノミナラス、延テ不正行為ヲ瀰漫セシメ、稅務執行上障礙ヲ來スノ虞アルニ依リ、將來ハ違犯行為顯著ニシテ情狀重ク、他ニ害毒ヲ及ホスヘシト認ムルモノニ付テハ制裁ヲ勵行スルノ必要有之候條、大要左記例示ノ如キ行為者ヲ生シタルトキハ裁判所ニ告發ノ手續ヲ為スヘシ、但當分ノ内告發以前ニ於テ其ノ顛末ヲ詳記シ、尚一件書類ヲ添付シ告發スヘキヤ否ニ付指揮ヲ受クヘシ

例

一 左記ノ行為又ハ不行為ニ因リ課稅標準ヲ實額ヨリ著シク低額ニ決定ヲ受ケ、之ニ依ル税金ノ全部又ハ一部ヲ納付シタル後、税金逋脱ノ事實發覺シタルトキ

イ 虚偽ノ帳簿又ハ書類ヲ作成シ、若クハ他人ト通謀シテ虚偽ノ帳簿又ハ証書類ヲ作成シ、之ヲ檢査又ハ証憑ニ供シタルモノ

ロ 帳簿又ハ提出書類ニ虚偽ノ記載又ハ計算ヲ為シタルニ對シ、訂正ヲ促シ又ハ質問ヲ為スモ誤謬ナキ旨ヲ答弁シタルモノ

ハ 課税標準タルヘキ資料ノ實在スルニ拘ラス、其ノ全部又ハ一部ヲ否認シタルモノ

ニ 納税義務アリト認め申告ヲ催告スルモ、故ラニ申告ヲ為サス、若クハ他署管内ニ於テ納税スル旨ヲ陳述シタルモノ

右内訓ス

明治四十二年六月八日

東京稅務監督局長印

(昭56 東京 2112)

66 明治42年7月 京都稅務監督局『納税の葉』の發刊

第一七四九号

明治四十二年七月二日

大聖寺稅務署印

江沼郡分校村役場御中

今般京都稅務監督局ニ於「納税の葉」ト称スル冊子發刊相成、其ノ内容等大略左記ノ通りニ付、貴村ニ於テ希望者有之候ハ、其ノ部数取調、代金添付御回報相成度  
右申進候也

一 冊子ノ体裁

西洋綴四六版摺、堅六寸三分  
横四寸三分、紙教表紙共約ク頁貫

一 冊子ノ内容

内容ヲ十五節ニ分ツ

- (1) 納税の義務ニ權利
  - (2) 国費と租税
  - (3) 国費の膨張と世界の現状
  - (4) 米国の歳計と其の国富
  - (5) 納税上に於ける英国人の美風
  - (6) 租税誅求論
  - (7) 納税義務の履行と其の実益
  - (8) 完全に納税義務を實行する方法
  - (9) 地租に付ての心得
  - (10) 所得税に付ての心得
  - (11) 營業税に付ての心得
  - (12) 相続税に付ての心得
  - (13) 印紙税に付ての心得
  - (14) 印税押捺のこと
  - (15) 市区役所及町村役場と納税者 付納税上の美談
- 一 価格 一部四錢 百部以上一部參錢八厘
- 一 予約申込期限 本年七月三十一日限とす、但し其以後と雖も申込に差支なきも送本遅延の虞あり
- 一 送本 申込順に依り締切を待たず送付す
- 一 郵便税 一部の重量約廿七匁に付、此の郵税貳錢
- 追而、本月十日迄、有無共御回報有之度申添候

今般京都稅務監督局ニ於御発刊ニ相成候納税の葉、五部御周旋相成度、依テ金參拾錢相添ヘ此段申込候也

明治四十二年七月七日

大聖寺稅務署御中

分校村役場印

(昭54 本校 31)

67 明治42年8月 納稅成績優良に付徵稅施設照會

聖第二二二二号 明治四十二年八月十五日

大聖寺稅務署長印

分校村長 稻手吉五郎殿

貴村國稅納稅ノ成績ハ頗ル良好ニシテ、十數年前ヨリ未ダ嘗テ滯納者ヲ出ス事ナク完納ヲ持續シ來リシハ、國家ノ為メ慶賀スヘキト同時ニ、他町村ノ模範トモナルヘキ次第ニ有之、曩ニ貴村徵稅上ノ施設等ニ就キ御開示相煩シ候ヘ共、尚調査上必要有之、其筋ヘ報告ノ都合モ有之候ニ付、左記ノ事項御取調本月二十日迄ニ當署ヘ到達ノ予定ヲ以テ御回報相煩シ度、重テ及御依頼候也

一 貴村ガ斯ク連年完納ヲ持續セラレシニ就テハ、最初ノ当路者カ施設ハ大ニ見ルヘキモノアリシガ如シ

貴職以前累代村長ノ住所氏名及就職年限、並ニ當時ノ徵稅上施設ノ経路概略

二 既往二十ヶ年完納ニ係ル各年度ノ稅目別稅額、同上人員

明治四十二年八月廿日發議

村長代理<sup>㊦</sup>

助役<sup>㊦</sup>

収入役<sup>㊦</sup>

書記

財第七四号

本月十五日付第二一二号ヲ以テ御照会ノ趣キ、別紙ノ通り取調候間、此段及御回報候也

明治四十二年八月廿日

村長

大聖寺稅務署長 平野与八郎殿

累代村長ノ住所氏名等

本村長 分校村字分校 裏谷長藏ハ明治廿二年五月十九日就職シ、明治廿八年十一月廿一日辭職セリ

本村長 分校村字分校 稲手吉五郎ハ明治廿九年一月廿六日就職シ、以後繼續セリ

徵稅上施設ノ経路概略

納稅ノ施設トシテハ別ニ其方法ヲ講セス、概從來ノ風ヲ改善踏襲スルニ外ナラス、元來本村ハ動橋村戸長役場ノ所轄ナリシモ、明治廿二年町村制發布以來本村ヲ指定セラレ、其当時組織上ニ就テ相反目スルノ嫌アリ、引テ諸稅徵收上ニモ影響ヲ来タセシコトアルモ、滞納者トシテ執行セシモノナク、其方法ニ於テハ区长集金スルノ旧慣ヲ因襲シ、稍ヤ改善セシ結果、納期限ヲ經過セシモノナク一定ニ集金スルノ好況ヲ呈セリ、尙明治三十一年ヨリハ從來納期ヲ怠慢ニセシ矯正ヲ求ムルト共ニ、諸税金等納期一覽表ヲ配付シ、納期前ニ於テ諸税金ヲ準備スルノ材料タリ、一方貧富ノ懸隔ヲ調和シ信用ヲ維持スルト共ニ、貯金講ヲ奨励実行スルニ依リ金策上便益ナリ

明治三十一年各区長ニ伝達又ハ説諭実行ヲ期セシメタル歴史ノ写ハ別紙ノ通り

写

本村農民ノミヲ以テ組成スル所ニ在テハ、耕作物ノ豊凶ハ直チニ民力ノ盛衰ニ関スルコト重且大ナリ、故ニ諸般ノ施設經營ヲ為スニ方リテモ、最モ準繩ヲ是ニ稽ヘサル可カラストス、一昨年ノ再三ノ大水害ノ如キ、昨年ノ稲作未曾有ノ虫害ニ罹リ收獲上云フヘカラサルノ損害ヲ来シ、名状スヘカラサル災害ヲ被リ、当時ノ農民ハ連年不好況ニ苦ミ、其資力ハ既ニ業ニ耗シ尽シタルノ後ナリシカハ、偶々一年ノ農作アリシト雖モ、所謂旱天ノ一驟雨ニ過キス、未タ以テ其資力ヲ恢復シ得タリト為ス可カラサルナリ、一般村民ハ大ニ決心奮励スル所ナクンハアラス、諸税ノ増加ハ国勢ノ發展スルト同時ニ膨張ヲ来スハ争フヘカラサル事実ニ属ス、之レヲ要スルニ今後民人ノ負担ハ弥々重大ナラントシ、実力ノ強盛ヲ望ムコト焦眉ノ急務ナルヘシ、則チ生産ノ發達ヲ希図スルニアラサレハ、争フテカ能ク其目的ヲ達スルコトヲ得ヘケンヤ、生産ノ發達ヲ計ルハ其知識ノ促進ヲ期スルト、勤儉力行ヲ俟タサルヘカラス、従来ノ風俗ヲ矯正シ德義ヲ重ンシ、隣保相扶シ金融ノ調和ヲ図リ、徴税ノ怠慢ヲ妨遏シ、将来村治一律ノ基ニ活動スルノ氣風ヲ養成セサルヘカラス、自今左ノ方法ニ依リ諸事統一ヲ図ルヘキコトニ御尽瘁セシムル上、執行方法御通告相成度候也

明治三十一年十月三日

分校村長 稲手吉五郎

各区長宛

左記

勸業、教育、其他ノ事項ハ省ク

一 諸税諸掛ノ統一ヲ期スルコト

区長ハ町村制ノ明文ニ依リ、村長ノ事務ヲ助ケ区内一般ノ監督執行シ、諸税諸掛ノ区内集金ノ義務ヲ負フヘシ  
集金ニ関シ区内ニ於テ三名以上ノ委員ヲ設ケ、徴税等ノ事務ヲ補助セシムルコト

諸税金等納期一覽表ヲ送付シ置クヘキニ付、区内納税者ニ知悉セシムルコト、但隨時徴収ノモノハ期限十日以前ニ  
予メ通スルモノトス

徴税ノ滞納ハ納税義務者ノ怠慢ニ基因スルモノナレハ、徴税等ハ等閑ニ付セス、納期二日以前ニ集金ニ着手シ、不  
納者ハ再三催促シ、(若シ滞納者ト認ムヘキモノハ)(其人名事情ヲ具シ)其都度予メ役場へ申立ツヘキコト  
集金ハ直チニ収入役へ納付スルコト

一 勤儉貯金講ヲ設クルコト

社会進歩ヲ企図シ弊習悪例ヲ矯正シ、一般勤勞ノ風ヲ馴致シ、貯金ヲ励行シ、普通貸金法ニ依リ利殖ノ方法ヲ取ル  
ト同時ニ、区内ニ於ケル金融ノ便ヲ助ラル、ハ、蓋シ事実ニ於テ信用ノ發端ヲ見ルヘシ

講員ハ平素徳義ヲ重シ、慎心ヲ主トシ、背徳ノ挙動ヲ為サ、ルニ勉ムルコト

〔各年度税目別税額人員表は略〕

聖第二二六〇号 明治四十二年八月廿一日

大聖寺稅務署長印

分校村長殿

本月二十日付財第七四号ヲ以テ、納税上施設ノ経路概略御回報有之候処、内貯金講ヲ奨励実行云々ト相見エ候、是等

ハ大ニ称スヘキ処ニ有之候ニ就テハ、尚左記ノ廉承知致度候ニ付、直ニ御取調折返シ御回報相煩シ度、重テ及御依頼候也

- 一 貯金講設立ノ年月日及場所
- 二 貯金講ノ目的
- 三 貯金講員ノ出金額及方法
- 四 貯金ノ処置
- 五 其他一般ノ規約及其効果等

明治四十二年八月廿五日發議<sup>㊤</sup> 四十二年八月廿五日發送

村長<sup>㊤</sup> 助役 収入役<sup>㊤</sup> 書記

財第七五号

江沼郡分校村長 稲手吉五郎

大聖寺稅務署長殿

預金講奨励実行ノ件

納税上施設ノ経路ニ基因シ、預金講奨励実行セル其方法等取調方、聖第二二六〇号ヲ以テ御照会之趣了承、右ハ別紙之通り取調候間、此旨及御回報候也

本村内預金講ハ從來ヨリ設立セラレツ、アリト雖モ、一定ノ年限ヲ経テ分配ヲ為シ、其管理方法モ区々ニ分レ一時的

ノ処置ナリシモ、具体的ニ執行セシハ明治三十二年中ニ設立セル者ニシテ、預金者ノ多数ナラシメンカ為メ、各区ノ任意ニ從ヒ設立ヲ希望セルモノニシテ、各区ニ於テ其趣ヲ異ニセリ、各区ニ分チ掲記スルモノトス

#### 大字分校区

労役会及通常預金講ノ二種アリ、労役会ハ三十二年十月四日ノ組織ニシテ、賃積荷車挽二十五名一団トナリ貸金ノ内一ヶ月金五錢宛貯蓄ス

預金講ハ明治三十二年二月十日ノ設立ニシテ、区内四組ニ分チ一組廿五人宛ニシテ、毎年秋收穫ノ時ニ於テ初穂料トシテ一組ヨリ式円五拾錢宛貯金スルモノトス

労役会現在預金高 拾六円参拾壹錢

預金講現在高 六拾貳円参拾八錢

#### 大字箱宮区

預金講及備荒貯蓄ノ二種アリ、預金講ハ三十二年三月五日ノ創設ニシテ、毎月一人金拾錢宛ニシテ百五十口ヲ有ス備荒貯蓄ハ明治二十四年四月七日創立ニシテ、区内山林枯損木ノ代金八拾貳円ヲ土台金トシテ、金融及利殖ヲ計ル目的ニテ細民ノ金融通ニシテ個人貸与ノ方法ナリトス

又日清戦役ニ貳百円ノ軍事公債ニ応シ、日露戦役ニ百円ノ国庫債券募集ニ応シタリ

預金講現在貯金高 金七百五拾四円九拾四錢四厘

備荒貯蓄金現在金 壹百拾円

其軍事公債及国庫債券 参百円

#### 大字高塚区

預金講ハ毎月一口金貳拾錢ニシテ、五ヶ年毎ニ配當ヲ為スノ方法ニシテ、明治三十二年一月二日ノ設立ニシテ、既  
ニ二回ノ配當ヲ為セリ

現在預金高 百九拾七円五拾四錢六厘

#### 管理方法及預金ノ処置

区内金融ノ機関ニシテ銀行預ケ又ハ個人貸与ト為シタリ

貯金ノ処置ハ、箱宮備荒貯蓄ノ外ハ、五ヶ年以上経過ノ後ニ於テ總會ノ決議を俟テ分配ヲ為スノ方法ナリ  
其他一般ノ規約及其効果等

明治三十一年十月ニ於テ村長ヨリ預金講ニ対スル標準ヲ示シタル、左記条件ニ從ヒ設立セルモノ、如シ  
標準

#### 貯金講規約

第一条 本講ハ勤勉貯金講ト称シ、分校村字何々区内一般ヲ以テ組織ス

第二条 本講ハ社会ノ改良進歩ヲ企図シ、質素ヲ旨トシ貯金スルヲ以テ目的トス

第三条 前条ノ目的ヲ達センカ為メ、毎月一回何日ヲ期シ集合評議ヲ為スモノトス

第四条 講員中互選ヲ以テ世話掛二名乃至四名ヲ置キ、評決ノ件ヲ処理シ貯金ヲ保管セシムルモノトス

第五条 本講評決ノ決定ハ講員過半数ヲ以テス、尤モ講員ハ此評決ニ対シ如何ナル事情アルモ異議ノ申立ヲ許サス

第六条 講員ハ平素徳義ヲ重シ慎心ヲ主トス、若シ本講評決ノ趣旨ニ違反シ又ハ背徳ノ挙動ヲ為スモノアルトキハ、

講員ノ評決ニ依リ処分スルモノトス

第七条 貯金ハ毎月金何程宛出金貯蓄シ、金何程ヲ以テ期トス

第八條 貯金ノ増殖ヲ謀ル為メ普通金貸ノ方法ニ依リ貸付スルカ、又ハ銀行預金トスヘシ

第九條 貯金ノ配当ハ講員三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第十條 貯金ハ本講話掛ノ承諾ヲ得テ讓与売買スルコトヲ得、但講員中ノモノニ限ル

第十一條 本講ノ費用其他必要ナル支出ハ利子金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第十二條 本講規約外必要ノ事件ハ臨時評決ノ上執行スルモノトス、但シ評決ノ事件ハ評議録ニ記載シ講員一名以上ノ証印ヲ受クヘシ

一 勤務貯金励行ノ為メ、左ノ如キ誓約書ヲ作り記名調印ヲ為スヲ必要トス

#### 誓約書

一 平素業務ヲ励ミ品行ヲ正フシ、毫モ怠惰放蕩ノ舉動ヲ為サ、ルコト

一 大祭祀日春秋例祭及定期休業ノ外、臨時休業ヲ為サ、ルコト、但シ区长ヨリ告示シタル時ハ此限ニアラス

一 業務及集会等凡テ時間ヲ限リタル事件ハ其時限ヲ遵守スルコト

一 家具什器其他衣服頭飾携帶品等ハ華奢贅沢ヲ避ケ、日常需用品ノ購入ト雖モ可成質素ヲ旨トスルコト

一 子女縁組婚姻ニ要スル衣裳及諸道具ハ質素ヲ旨トシ、各自其分限ヲ超ヘサルコト

一 参詣及旅行ノ土産物、見舞物及香典返シ、祝儀返シハ可成廢スルコト、但町村トノ關係上止ムヲ得サル事情アル場合ハ此限ニアラス

一 年始、盆、祭、歳暮、報恩講、其他季節ノ贈進物ハ可成質素ヲ旨トスルコト

一 法会祝儀其他諸般ノ宴会ハ総テ節約ヲ旨トスルコト

一 風俗壞乱ニ類スル行為ヲ禁スルコト

一 公益又ハ風俗矯正ヲ目的トスル青年者ノ会合ニシテ、其区又ハ組合ニ於テ有益ト認メタルトキハ、其費用ニ対シ補助スルコト

一 軍人入営帰休満期帰郷ノ際ハ可成多人數ニシテ送迎スルヲ要ス、軍人ハ勿論区内及友人等如何ナル名義ニテモ、殊更ニ宴会ヲ催フシ、又ハ華奢ノ裝飾ヲ為スヲ禁スルコト、但区及友人ヨリ産土神ヘ神酒ヲ供シ社頭ニ於テ之ヲ拝受スルハ妨ケナシ

一 諸般ノ式典ニ参列スル場合ハ可成羽織袴ヲ着用スルコト、但女子ハ此限ニアラス

一 會員ハ已ムヲ得サル事情アルモノ、外応分ノ儲蓄ヲナスコト

一 本誓約ノ外勤儉貯蓄其他風俗矯正ニ関シ必要ナル事件ハ便宜ニ定ムルコト

一 徳義心ヲ涵養シ社会的家族的ノ和衷親睦ヲ計ルコト

右誓約ヲ承認シ、其違ハサル事ヲ誓ヒ署名指印ス

年 月 日

連署記名印

右標準ヲ取捨シ定メタルモノニシテ持續セリナリトス

(昭54 本校 31)

68 明治42年10月 納税思想養成の件

内達第五一号

税務署長

納税思想ノ養成ニ就テハ、国民教育ノ普及ニ依リ根本的之レカ觀念ヲ注入スルノ必要ナルハ既ニ訓示スル処ニシテ、夫々其方針ニ依リ施設セラル、所ナルモ、更ニ宗教ノ力ニ依リ其ノ信仰又ハ帰依心ニ訴フルノ効果アルヘキヲ信セラレ候、就テハ之レカ方法ニ付京都稅務監督局長ヨリ同地兩本願寺ニ協議ノ上、爾來同宗布教師巡回ノ場合ニ於テハ必ス納税上ノ講話ヲ為スヘキ筈ニテ、講話ニ要スル各種ノ材料ハ最寄稅務署ヨリ供給ヲ受ケ度旨申來リ候ニ付、可及的便宜ヲ与ヘラルヘク、尚又単ニ同宗ノ布教ノミニ止マラス、一般宗教ノ方面ニ於テモ納税觀念ヲ注入セシムル様、適實ノ方法ヲ講セラルヘシ

明治四十二年十月二十九日

大阪稅務監督局長 渡辺義郎印

(昭53 大阪 33)

69 明治42年11月 布教師による納税講話

秘親第四三五号

明治四十二年十一月二日

札幌稅務監督局長印

網走稅務署長殿

曩ニ京都稅務監督局員ノ発刊ニ係ル「納税ノ栞」ノ義ニ関シ、同局長ヨリ別紙写ノ通り依頼越候条、布教師巡回其署ヘ出頭ノ際ハ、事務ニ差閤ナキ限り相当便宜ヲ与ヘラレ可然

右及通牒候也

秘第六六五号

納税思想發達ノ一助タラシメントシ、曩ニ当局員ヲシテ編纂セシメタル「納税の栞」ハ、各局ノ御尽力ト時勢ノ要求トニ依リ書肆出版以來版ヲ重ヌルコト六タヒ、部数実ニ六万ヲ超ヘ頃日亦其七版ヲ出スノ盛況ニ有之、然レトモ仮令十万ヲ出タスモ、全人口五千万ノ上ヨリスレハ僅カニ五百分ノ一二過キスシテ、而カモ講読ヲ各人ノ自由ニ任スルモノナレハ、數ノ夥大ハ必スシモ實際ノ効果ニ比例セス、若シ此際宗教ニ依頼シテ其信仰又ハ帰依心ニ訴フルコトヲ得ハ、其効力ノ偉大ナル到底冊子ノ通読ヨリスル自然ノ効果ト同日ノ論ニアラサルコトヲ信シ、先ツ東西本願寺ニ謀リシニ大ニ当局ノ企ニ贊同ノ意ヲ表シ、従来布教師力講壇ニ於テ国民ノ義務ヲ説クニ当リ、実況ヲ知ルノ智識ニ乏シキヲ遺憾トセシニ、若シ此冊子ノ寄贈ヲ得ハ将来布教上裨益スル所尠カラサルヘシトノ旨、両寺トモ粗同一ノ答詞ヲ得シニ付、三千五百余部ヲ両本山ニ寄贈シ、両本山ハ之ヲ全国各布教師ニ交付シ、機会アル毎ニ納税上ノ講材タラシムルコトニ協議ヲ遂ケ、尚左ニ摘録センカ如キ全国ノ納税狀況ヲ図示セシモノヲモ寄贈致置候ニ付テハ、自今各地方ニ於テ同宗ノ布教師巡回ノ際必ラス納税上ノ講話モ可有之、依テ納税上諸種ノ矯正ヲ要スヘキ事項其他、講話上ノ資料トモ相成ルヘキモノハ、最寄稅務署ニ於テ布教師ト協議ヲ遂ケ提供スル等万事宜ヲ与ヘ候ハ、双方好都合カト存候、若シ御同意ニ候ハ、可然御取計相成、此段得貴意候也

明治四十二年十月廿七日

京都稅務監督局長 岩崎奇一 印

札幌稅務監督局長 吉田平吾 殿

- 一 納税状況ハ徴収成績ト酒造無免許犯則者トヲ線図ニテ示ス
- 一 徴収成績ハ地租、所得税、營業税ノ三税ニ付キ滞納額ヲ千分比例トシ、三十八年度以降四十年迄三ヶ年分ヲ示ス
- 一 犯則人員ハ酒造税ノ無免許犯ニ付キ、三十八年度以降四十年迄ヲ示ス
- 一 前二項共凡テ府県別トセリ

(平 12 札幌 60)

70 明治43年3月 徴税に関する臨時商工会議所連合会建議

親第七九号

明治四十三年三月八日

札幌稅務監督局長印

網走稅務署長殿

臨時商業會議所連合会ヨリ徴稅事務ニ關シ別紙ノ通建議ノ次第有之旨、主稅局長ヨリ通牒ニヨリ為参考  
右移牒ス

(別紙)

徴稅事務ニ關スル建議

我力租稅制度ハ非常特別稅ヲ存続併課スルモノナルカ故ニ、組織上ニ於テハ其ノ統一ヲ欠キ、課稅率ニ於テハ其ノ均

衡ヲ失スルモノ甚タ多シ、是レ我カ商業會議所カ多年根本的ニ税制ノ整理ト輕減トヲ希望シテ止マサル所以ナリ、而シテ吾人ハ是等ノ希望ト共ニ又常ニ徵稅事務ニ関シテ政府当局ノ注意ヲ要請スルモノアリ、何ソヤ、則チ稅務當局者カ納稅義務者ニ対スル苛酷誅求ノ弊ヲ矯正セシムト是ナリ、夫レ稅法運用ノ妙ハ偏輕偏重ノ弊ヲ避ケ寬嚴其ノ宜シキヲ得ルニアリ、然ルニ此ノ過重ナル稅率ノ下ニ於テ此ノ苛酷誅求ノ徵稅ヲ為ス、納稅者ノ苦痛實ニ謂フニ堪ヘサルモノアリ、今之レヲ過去ノ事實ニ徵スルニ、數年來我カ民間經濟界ノ狀態ハ萎靡困頓トシテ甚タ振ハサルモノアルノミナラス、事業ハ寧口縮少ニ傾キテ更ニ增大セサルニ拘ハラズ、政府力是等ヨリ徵收スル營業稅額ヲ見ルニ年々歳々多額ノ増加ヲ為シテ、三十九年度ニ於ケル一千九百余万円ハ、今ヤ將ニ二千五百余万円ノ巨額ニ上レリ、是レ果シテ國家商工業ノ發達ヨリ來ル自然ノ結果ニシテ、真ニ政府當局ノ所謂自然增收ナリヤ否ヤ、吾人ノ實ニ怪疑ニ堪ヘサル所ナリ、今之ヲ納稅者ハ常ニ事業ノ不振ヲ憂フルト同時ニ、課稅ノ誅求ヲ叫ヒツ、アルノ事實ニ対照セハ、政府當局ノ所謂自然增收ハ納稅者ノ所謂重課誅求ニシテ、即チ中間ニ於ケル稅務當局ノ苛酷ナル徵稅方法ヨリ來ル結果ト見做サ、ルヲ得サルナリ、夫レ政府當局ニシテ今後尙ホ平然トシテ之レヲ自然增收ト為シ、遂ニ周密ナル注意ヲ徵稅事務ニ加ヘサランカ、納稅者ヲシテ益々不満ノ声ヲ高カラシメ、國民ヲシテ益々困憊ノ度ヲ大ナラシムルニ至ルヤ明ニシテ、遂ニ之レカ為メニ政府ト國民ノ調和ヲ阻害シテ朝野相背キ、官民相排スルノ弊ヲ誘致スルナキヲ保セサルナリ、是レ我カ商業會議所カ曩ニ屢々徵稅事務ノ改善ニ関シ政府當局ノ注意ヲ要請シタル所以ナリ、然カモ稅務當局ノ納稅者ニ対スルノ態度ハ、依然トシテ改善セラレタルヲ見ル能ハサルノミナラス、苛酷誅求ノ度益々嚴ニ、今ヤ納稅者ハ殆ント其ノ煩ニ堪ヘスシテ、往々其ノ業ヲ廢スルモノアルニ至ル、實ニ國家ノ為メ憂フヘキ事相ナリト謂フヘシ、是ヲ以テ我カ商業會議所ハ此ニ重ネテ微衷ヲ披瀝シ、政府當局者ノ採択ヲ請ハントス

右商業會議所連合會ノ決議ニ依リ建議候也

明治四十三年二月十八日

臨時商業會議所連合会

会長 中野武宮

大蔵大臣候爵 桂 太郎殿

(平 12 札幌 60)

71 明治43年4月 市町村に対する徴稅事務督勵方

訓示第一号

稅務署長

徴収事務上市町村ニ対スル督勵方實施後漸次好況ニ趨キツ、アリト雖、各局ノ成績ニ対比シ動モスレハ劣等ノ末位ヲ脱スルコト能ハサルハ、客年度以來ノ実績上争フ可ラサル所ナリ、畢竟スルニ施設画策ノ未タ余地アルコトヲ事實ニ於テ表明スルモノト認メ得ラレサルニアラス、此際年度更始ニ当リ更ニ一層ノ考量ヲ費シ、深ク地方ノ狀況ト既往ノ経験トニ鑑ミ最モ適切ノ方策ヲ樹テ、其ノ施行ノ宜キヲ愆ラサルト共ニ、単ニ一時的收入歩合ノ昂上ヲ以テ足レリトセス、着々滞納者ノ絶滅ヲ図リ以テ因襲ノ弊風ヲ打破スルコトヲカムヘシ、要スルニ管下積漸ノ矯弊ニ関シテハ深ク根底ヨリ改善ノ基礎ヲ鞏メ、且ツ之ヲ持續シテ各局トノ対照上從來ノ不面目ヲ一掃スルヲ以テ唯一ノ觀念ト為サ、ルヘカラス、殊ニ左記事項ノ如キハ常ニ服膺シテ實際ニ臨ム等、極力効果ヲ挙クルコトヲ期スヘシ、但シ便宜徴収督勵事蹟簿ヲ設ケ、其ノ都度当該事項ヲ記載シテ送納延滞及滞納矯正上ノ参照ト為スコトヲ要ス

- 一 督励ノ目的ハ市役所又ハ町村役場ノ施設方針ヲ参酌シ、両々相俟テ協力シ円満ニ徴収ノ実効ヲ挙クルニアリ、故
- ニ之等吏員ト意思ノ疎通ヲ欠キ意見ノ衝突ヲ来スカ如キハ、督励ノ旨趣ヲ愆ルモノナルカ故ニ、漫リニ市役所又ハ町村役場ノ施設ヲ批難シ、或ハ吏員ノ行動ニ干渉ヲ試ミ、其ノ悪感ヲ買フカ如キハ堅ク之ヲ避クルコトヲ要ス
- 二 直接督励ノ場合ニ於テ納税者ニ諭示ヲ加フル必要アルニ際シテモ、成ルヘク吏員ノ立会ニテ之ヲ為スヘク、又必要上ヨリ区长若クハ総代等ヲ利用スル場合ニ於テモ、当該吏員ヲ差遣キ進ンテ自ラ之ヲ指示スルカ如キ事ヲ避ケ、
- 一ニ吏員ヲシテ其ノ衝ニ當ラシムル等当然ノ責任ヲ尽サシメ、猥リニ情弊ニ狎レシメサルコトヲ要ス
- 三 地方的階級若クハ貧富ノ懸隔等事情ノ如何ニ由リ寛嚴ノ程度ヲ付スルノ必要アルヘシト雖、之レカ実情ノ鑑別ハ精査熟察シテ能ク其ノ原因ヲ究メ之ニ適合シタル措置ヲ施シ、漫リニ揣摩臆測ヲ以テ臨ムコトナク、方法手段共ニ其ノ當ヲ愆ラサルコトヲ要ス
- 四 督励上一部ノ目的ハ事前ニ於テ納税者ノ義務觀念ヲ鼓吹シ、任意ノ納付ヲ慫慂スルニアルヲ以テ、徒ニ懲戒的意味ノ下ニ常軌ヲ逸シタル言動ヲ敢テシ、却テ激昂ヲ促スカ如キハ深く自ラ戒ムルヲ要ス
- 五 常ニ地方ノ状況ニ精通シ、及市町村吏員ト氣脈ヲ通スルノ必要アルヲ以テ、滞納処分ノ出張若クハ其ノ他ノ用務ヲ帯ヒテ役場付近通過ノ際ハ、必ス訪問シテ次納期ニ於ケル諸般ノ打合ヲ為シ、互ニ矯弊上ノ知見ヲ交換スルコトヲ要ス
- 六 県税其ノ他公課等納期競合ノ場合ニ於テハ、他ノ徵税ノ妨害トナルカ如キ行動ハ成ルヘク之ヲ避クルト同時ニ、督励ノ目的ヲ離レサル範圍ニ於テ当該吏員ト能ク協商融和シ、カメテ共助的ニ彼我ノ成績ヲ挙クルノ手段ヲ講スルコトヲ要ス

明治四十三年四月七日

仙台稅務監督局長印

(平 12 仙台 722)

72 明治43年4月 勤儉貯蓄規約に所得稅月割額貯蓄追加

職第一五二号

明治四十三年四月八日

東京稅務監督局長印

稅務署長殿

職員ノ貯金ハ已ニ夫々規約ヲ設ケテ実行致居候筈ノ処、右規約中所得納稅ニ關スル事項ヲ加ヘ、各自ノ所得稅金ノ月割額ニ相当スル金額ヲ貯蓄セシメ、毎納期ニ於ケル納稅ニ便セシムル様致度  
右内牒候也

(平 12 東京 121)

73 明治43年4月 國稅徵收方法改善に關する意見

一 四十三年四月 稅務監督局長會議錄

第十五 国稅徵收方法改善ニ關スル意見如何

イ 地租ノ徵收ニ對シテ市町村交付金ヲ交付スルノ要否

ロ 振替貯金ニ依ル納稅方法ヲ証達セシムルコトニ關スル意見

ハ 市町村國稅徵收事務ヲ奨励スル方法

ニ 國稅徵收法中改正ヲ要スル点

(イ) 地租徵收ノ事務ニ付テモ交付金ヲ与フルノ要アルヲ以テ、若シ新ニ歳出ヲ増加スル能ハサル事情アリトセハ、現交付金額ノ範圍内ニ於テ各種ノ税金ニ對シ平衡平ニ分配交付スルヲ可トストノ説ト、理論ハ可ナルモ沿革上ノ理由及市財政ノ現況ヨリ之ニ反對スル説トアリシカ、結局前説多數ヲ占メタリ

(ロ) 大阪市ニ於ケル該制度ノ成績ノ報告アリ、次テ各局意見交換ノ結果、大都市ニ於テハ至極便利ナル制度ナルヲ以テ、可成之ヲ採用スルコトヲ勧誘スルコトトセリ

下村郵便貯金局長出席シテ振替貯金ニ關スル演述ヲ為シタリ、其ノ要点ヲ掲クレハ左ノ如シ

一 振替貯金ニ依ル納稅ハ官民双方ノ便利トナリ、併セテ間接ニ納稅者ノ負担ヲ減スルコトトナルヲ以テ、租稅政策上ヨリ見ルモ推奨スヘキモノナルコト

二 國稅及府県稅市町村稅ニ至ルマテ總テ郵便局ニ於テ徵收スルコトトナレハ、公衆ノ時ト勢力ヲ節約スルコト一層多カルヘキコト

三 大阪市ノ成績ハ何分草創ノコト故一般ノ取扱方円熟セス、從テ結果良好ナラサリシカ、今日ハ納稅者ノ六割強ハ郵便局ヲ利用スルニ至リタルコト

四 市以外ノ町村ニ約七千ノ郵便局アリ、町村ノ數約一万二千余アルヲ以テ、二町村ニ一ヶ所ノ郵便局アル訳ナルヲ以テ、金庫カ振替貯金ニ加入スレハ各町村ハ居ナカラ振込ヲ為シ得ラレ、送金ノ危険ト勞費ヲ省キ便利ナルヲ以テ、予テ内務省ヨリモ金庫ヲ加入セシムルコトニ關スル意見アリタルコト

五 振替貯金ノ手数料一口ニ錢ハ伊太利ノ制ニ倣ヒタルモノナルカ他ノ為換等ト權衡ヲ得ス、然ニ納税ノ場合ニハ一錢五厘ニ迄低下シテ便利ヲ図リタルコト

(ハ) 市町村吏員ニ手當ヲ与フル説ト、市町村ニ賞状ニ金円ヲ添ヘテ与フル説ト、地方相当ノ奨励ヲ為シ別段ノ方法ヲ為スヲ要セストノ説アリシモ、何レモ決定ニ至ラス、之ニ關シ主税局長ハ各地ニ市町村吏員ノ稅務協議會ノ開設アルハ最モ喜フヘキコトナリトシテ、益之カ奨励及發達ヲ希望セリ

(三) 此ノ問題ハ多年ノ研究ニ係リ最早実行ノ期ニ入レルモノト謂フヘク、一昨年及昨年ノ會議ニ於テ決定スルモノ以外ニ他ニ考案ナシト謂フニ歸セリ

「後 略」

(昭44 関信 7・4)

#### 74 明治43年8月 市街宅地租等徴収改善報告

甲府稅務署長通信 今回市街宅地租及売薬營業稅徴収方法ニ付、左ノ通報ヲ得タリ

本市諸稅納付ノ狀況ハ従来成績良好ナラス、國稅ニ在テハ中流以上ナルヲ以テ滞納者ノアルヘキ筈ナキカ如ク被察候モ、然カモ事實ハ往々予期ト一致セス每期滞納少ナカラス、県市稅ノ如キニ至テハ殆ント云フニ堪ヘサル状態ナルヲ

以テ、本市ハ或ル機会ニ於テ之レカ改善ノ策ヲ講度苦慮致居候処、本年度県税滞納者ニ対シテハ県庁直接ニ処分候事ニ相成候間、此ノ機ヲ逸セス、去月十六日来二十六日迄助役自ラ第三課員ヲ率ヒ、市内各所ニ出張納税講話会ヲ開キ、納税ノ忽諸ニ付スヘカラサル事由、国県市税ノ性質ヨリ国民タルモノ納税ノ義務ヲ免カレハサル事由等ヲ明カニシ、到底納税ハ国民ノ免カレサル義務トセハ、滞納シテ官公署ニ手数ヲ累ネ、猶各自力課税外ニ手数料ヲ徴セラルルノミナラス、或場合国民ノ特權タル選被選權ヲ停止セラルルニ至テハ恥辱モ甚シカラスヤ、殊ニ本市ノ現状ハ教育ニ衛生ニ土木ニ其他範ヲ各郡ニ示スニ、独リ納税ノ一事各郡ヲ凌駕スル能ハサルハ甚タ遺憾ナラスヤ、之レ市民ニ納税上ノ發奮ヲ望ム所以ナリ、如上ノ事由ニ依リ、之レヲ内ニシテハ納人カ直接ニ損失ヲ蒙ムリ、之ヲ外ニシテハ本市ノ名譽上至大ノ關係アルノミナラス、市ノ收入ニ於テモ国税県税トモ市カ取扱フ収入額ニ対シ、百分ノ四ヲ国庫又ハ県庁ヨリ交付セラレ、市民ハ其交付額ノ多キ程間接ニ其利益ヲ受クルモノナルヲ以テ、今後ハ必ズ滞納ノ弊ヲ改メ益振テ納入ニ努ムヘキ旨諄諄説示シタルニ、来会者ハ大ニ解得スル所アルモノノ如ク皆感奮ノ色ヲ示シ候ヘハ、講話会ノ効驗ハ納税上ニ多少利益可有之ト被察候、而シテ現ニ徴収期ニ在ル宅地租第一期ハ、前年度第一期ノ滞納人員ニ比スルニ納期日迄ニ於テ半数以下ニシテ、其成績未曾有ト被存候、報告期日迄ニハ猶減少スルノ見込ニ有之候、納税ノ概況御参考迄、此段及御報告候也

明治四十三年八月二日

甲府稅務署長 竹内驂策殿

甲府市長 加藤平四郎

(平 11 東京 28)

75 明治43年12月 市町村交付金に関する件

市町村交付金ニ関スル件

照会（明治四三年二月仙台稅務監督局照会）

國稅徵收法第五條第二項ニ依ル市町村交付金へ、從來當該國稅ノ納期限若クハ國稅徵收法施行規則第五條ノ納期後三日ノ前後ヲ問ハス、三十一年訓令第二十八号ニ基キ市町村カ現裏ニ徵收ヲ了シテ國庫ニ送付シタル金額ヲ基礎トシテ計算交付シ来リ候處、然ルニ市町村ニテハ右交付金關係上送納期日後ニ於テモ依然トシテ尚且徵收ヲ繼續スル向ナキニアラス、就中當仙台市ノ如キハ納期後ノ徵收十數日ニ涉リ、送納延滞ノ名ニ籍リテ既提出ノ滞納報告ヲ取消シ来ル等、殆ント其弊ニ堪ヘサル場合モ有之、延テ滋々滞納ノ弊害ヲ助長セントスルノ傾キナキニアラサルヲ以テ、之レカ矯正上稅務署ヲシテ納期後ノ徵收ヲ許容セシメサル方針ヲ採ラシメツツ有之候得共、宿弊容易ニ改マサルヲ以テ、更ニ進ンテ納期限ヲ過キテ徵收シタル分ニ對シテハ断然交付金ヲ支払ハサルコト（納期内ニ徵收セルモ、或ル事情ニ憑ラレテ送付ヲ遲延シタル場合ヲ除キ）ト為ストキハ、根底的ニ從來ノ宿弊ヲ矯正シ、得テ徵收成績上効果ノ多大ナルモノ可有之、又法規ノ解釈ニ於テモ敢テ差支無之様被存候ニ付テハ、右主旨ニ依リ從來ノ取扱方ヲ變更スルコトニ御詮議相成候様御取計相成度、右及照会候也

回答（明治四三年二月往第一四二一四号主稅局回答）

本月二十二日發第一三三七号ヲ以テ市町村交付金ニ關シ御照会之趣了承、市町村ハ納期後三日以内ニ納期内ニ徵收セシ税金ヲ金庫ニ送付ヲ要スル管ナルモ、正当理由アリテ其送納期ヲ失スル場合ニ於テハ、金庫ニ於テ之ヲ受納スルノ例ナルヲ以テ、既ニ滞納報告誤謬ノ事由ヲ以テ滞納報告取消ノ申出ヲ受理セシ以上ハ、其送納税金ニ對シ交付金ヲ交

付セルハ至当ノ解釈ト認メラレ候、就テハ斯ル常習アリテ収納ノ成績不良ナル市町村ニ対シテハ、当局者又ハ監督官署ニ臨機面議ヲ遂クル等適宜交渉ヲ重ネ、右等弊風ヲ漸次矯正スルノ途ヲ講セラレ候様致度、尤モ其常習去リ難キ場合ニ於テハ、滞納報告後ニ於ケル手續ヲ厳正ニ処理セラレ可然ト存候、右及回答候也

(平 9 関信 124、2)

76 明治44年3月 国税徴収法の改正

朕、帝国議會ノ協賛ヲ経タル国税徴収法中改正法律ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治四十四年三月二十五日

内閣総理大臣

侯爵 桂太郎

大蔵大臣

法律第三十七号(官報三月二十七日)

国税徴収法中左ノ通改正ス

第四条ノ二、第四条ノ三、第四条ノ四、第九条、第十条、第十二条、第十七条、第二十三条ノ一、第二十八条、第二十九条及第三十一条中「督促手数料」ヲ「督促手数料、延滞金」ニ改ム  
第五条第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項徴収ノ費用トシテ地租ニ対シテハ其ノ徴収金額ノ千分ノ七、其ノ他ノ国税ニ対シテハ其ノ徴収金額ノ百分ノ四ヲ、其ノ市町村ニ交付スヘシ

附則

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

『法令全書』

77 明治44年4月 稅務監督局長會議要錄(抄)

一

明治四十四年四月 稅務監督局長會議要錄

一

「前略」

第十五 延滞金徴収ノ条件及手續別紙ノ通制定セムトス、之ニ關スル意見如何

(別紙)

國稅徴収法施行規則中改正勅令案

國稅徴収法施行規則中左ノ通改正ス

第十一條ノ二 國稅徴収法第九條ニ依リ延滞金ヲ徴収スルハ、左記各号ニ該当スル場合ニ限ル

- 一 稅金額十円以上ナルトキ
- 二 督促狀ノ指定期限七日以上ナル場合ニ於テ、其ノ期限内ニ稅金ヲ完納セサルトキ
- 三 當該納期限前一年以内ニ於ケル納期限ノ國稅徴収ニ付督促狀ヲ受ケタル者ニ係ルモノナルトキ

四 公示送達ノ方法ニ依リ納税ノ告知又ハ督促ヲ受ケタルモノニ非サルトキ

前項ノ延滞金ハ税金額百円ニ付一日四銭ノ割合ヲ以テ、納期限ノ翌ヨリ税金ノ完納又ハ財産ノ差押ノ日迄ノ日数ニ依リ之ヲ計算ス

前項ニ依ル計算金額十銭未満ナルトキハ之ヲ徴収セス

第十二条、第十七条及第二十九条中「督促手数料」ヲ「督促手数料、延滞金」ニ改ム

第十六条中「差押調書二通ヲ作り」ヲ「差押調書ヲ作り立会人アルトキハ」ニ、「二通ハ」ヲ「謄本ヲ」ニ改ム

## 附 則

本令ハ明治四十四年法律第三十七号施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 延滞金徴収手續

延滞金ハ督促手数料ト異ナリ其ノ金額不確定ナルヲ以テ、督促手数料ノ如ク督促状ニ其ノ金額ヲ掲ケ納付書ヲ添ヘ発付スルコトヲ得ス、從テ滞納税金及督促手数料ヲ金庫ニ納付セシムル場合ハ、金庫ヨリ其ノ税金及手数料等ヲ領収シタル通知ヲ受ケタル後ニアラサレハ延滞金ハ徴収スルコトヲ得サルニ至ルヘシ、斯クテハ稅務署ニ於ケル延滞金ノ徴収上多大ノ手数ヲ要スルノミナラス、納税者ノ手数ヲ増スニ至ルヘキヲ以テ、税金手数料等ト同時ニ徴収スル方法ヲ採ラサルヘカラス、其ノ最良ノ方法ト認ムヘキハ滞納者ニ対シ延滞金ヲ徴収スル場合ハ、金庫ニ納付ヲ命セスシテ稅務署ニ納付ヲ命スルコトトナシ、而シテ督促状ヲ發付スルニ当リ勅令ニ定ムル条件ヲ具備スルモノニ対シテハ、延滞金ヲ徴収スルコトアルヘキ旨ヲ付記シ、稅務署ニ於テ其ノ滞納税金及手数料ヲ領収スル場合ニ延滞金ヲ計算シ、税金及手数料ト同時ニ徴収スルニ在リ

( 收税官吏差押ノ為出張ノ際領収スル場合モ亦同ク、税金及手数料ト同時ニ領収ノ手續ヲ為スモノトス )

以上ノ方法ニ依ル施行細則ノ改正案左記ノ如シ

尚、右ノ方法ニ依リ延滞金ヲ徴収スルニ付テハ、先ツ其ノ徴収スヘキ条件ノ具備スルヤ否ヤ、特ニ二年以内ニ督促ヲ受ケタル者ナリヤ否ヤノ調査上、滞納者ノ多数ナル稅務署ニ在リテハ繁雜ナル手数ヲ要スヘク、之カ為ニハ予メ滞納者名簿ノ如キモノヲ調製セサルヘカラサルニ至ルヘシト雖モ、是等ハ各局署ノ適宜ニ任スルヲ可トスヘキヲ以テ、別ニ規定ヲ設クルノ必要ナキモノト認ム

#### 国税徴収法施行細則中改正案

明治三十年大藏省令第十号国税徴収法施行細則中左ノ通改正ス

第六条ノ一 税金納付ノ督促ヲ為ストキハ、稅務署長ハ第六号書式ノ督促状ヲ發スヘシ

前項ノ督促ヲ為ス場合ニ於テ、延滞金ヲ徴収スヘキモノハ督促状ニ其ノ旨ヲ記入スヘシ

第六条ノ二 前条ノ督促状ヲ發スル場合ニ於テ、金庫ニ納付セシムルモノニ付テハ第七号書式第八号書式ノ納付書ヲ添付スヘシ

但シ、收稅官吏ノ納稅告知書ヲ發シタル税金ニ係ルトキハ、第七号書式ノ納付書ヲ添付スルヲ要セス

第六条ノ三 納稅人督促ヲ受ケ税金、督促手数料及延滞金ヲ收稅官吏ニ納付スヘキトキハ納稅告知書ヲ添付シ、税金及督促手数料ヲ金庫ニ納付スヘキトキハ納稅告知書及納付書ヲ添付スヘシ、但シ金庫ニ納付スヘキ場合ニ於テ市町村ノ徴収スヘキ国税ニ係ルトキハ納稅告知書ヲ添付スルヲ要セス

第六条ノ四 督促状ニ記載スヘキ納付場所ヲ稅務署ト指定シタル場合ニ於テ、市町村ノ徴収スヘキ国税ニ係ルトキハ收稅官吏ハ市町村ノ發シタル納稅告知書ヲ以テ税金ヲ領収スルコトヲ得

第七条中「税金及督促手数料」ヲ「税金、督促手数料、延滞金及」ニ改ム

第一号書式、第三号書式、第八号書式ノ備考中及第九号書式、第十二号書式中「督促手数料」ノ下ニ「延滞金」ヲ加

フ、第六号書式ニ左ノ備考ヲ加フ

備考

一 延滞金ヲ徴収スヘキモノニ付テハ、本文ノ次ニ左ノ一項ヲ記入スヘシ

「前項ノ指定期限ヲ経過シタルトキハ、納期限ノ翌日ヨリ税金ノ完納又ハ財産ノ差押ノ日迄、税金額百円ニ付一日四銭ノ割合ニ依ル延滞金ヲ徴収スヘシ」

附 則

本令ハ明治四十四年勅令第 号施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



(答申ノ要領) 本問延滞金徴収ノ条件ニ関シ、納税額十円ノ制限ハ税金分納ノ如何ニ依リ尚低下スルノ必要アリ、督促指定期限ノ七日ハ長期ニ失シ、当該納期前一年以内ニ於ケル滞納者ノ調査ハ困難ナリト云ヒ、又延滞金ノ割合四銭ハ甚タ低キニ失セリト云フカ如キ、異論百出シテ帰一スル所ナシ、遂ニ特別委員ノ調査ニ付スルコトトシ、ニ回其ノ委員ヲ代ヘテ審議ヲ遂ケ漸ク左ノ二案ヲ得タリ

(第一案)

国税徴収法施行規則中改正勅令案

国税徴収法施行規則中左ノ通改正ス

第十一条ノ二 前条ニ依リ督促ヲ為シタル場合ニ於テハ、税金額十円迄毎二一日五厘ノ割合ヲ以テ、納期限ノ翌日ヨリ税金ノ完納又ハ財産ノ差押ノ日迄ノ日数ニ依リ延滞金ヲ徴収ス

左記各号ノ一二該当スル場合ニ於テハ延滞金ヲ免除スルコトヲ得

- 一 督促状指定期限内ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ
  - 二 納税告知書一通ノ税金額十円未滿ナルトキ
  - 三 納税者ノ住所若ハ居所カ帝国内ニアラサル為、又ハ其ノ住所居所共ニ不明ナル為、公示送達ノ方法ニ依リ納税ノ告知又ハ督促ヲ為シタルトキ
  - 四 前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキ
  - 五 滞納ノ原因カ酌量スヘキ情状アルトキ
- 第十二条、第十七条及第二十九条中「督促手数料」ヲ「督促手数料、延滞金」ニ改ム
- 第十六条中「差押調書」ニ通フ作リ」ヲ「差押調書ヲ作り立会人アルトキハ」ニ、「通ハ」ヲ「謄本ヲ」ニ改ム

附 則

本令ハ明治四十四年法律第三十七号施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内 訓 案

左記各号ノ一二該当スル場合ニ於テハ延滞金ノ徴収ヲ免除スヘシ

- 一 督促状指定期限内ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ
- 二 当該納期直前ニ於テ連続シテ二回以上ノ督促ヲ為シタルモノニアラサルトキ
- 三 税金額十円未滿又ハ延滞金十錢未滿ナルトキ、但シ当該納期直前ニ於テ連続シテ三回以上ノ督促ヲ為シ、滞納矯正上必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 四 不動産ヲ売却スルニ非サレハ納税ノ資力ナシト認ムルトキ
- 五 其ノ他稅務監督局長ニ於テ酌量スヘキ情状アリト認メタルトキ

延滞金徴収ノ手續

原案ヲ是認ス

国税徴収法施行細則

改正案中左ノ通修正ス

第六條ノ一第二項ヲ削除ス

第六條書式中督促手数料ノ次ヲ左ノ如ク改ム

一 納期限ノ翌日ヨリ税金額十円迄毎二一日五厘ノ割合ニ依ル金額 延滞金

右何日限何稅務署ヘ納付スヘシ、但シ同日迄ニ税金及督促手数料ヲ納付シタルトキハ延滞金ヲ免除ス

前項ノ期限ヲ過キ完納セサルトキハ直ニ財産差押ノ処分ヲ為スヘシ

年 月 日

稅務署長

官氏 名印

(第二案)

国税徴収法施行規則中改正勅令案

国税徴収法施行規則中左ノ通改正ス

第十一條ノ二 前條ニ依リ督促ヲ為シタルトキハ、税金額十円ニ付金十錢ノ割合ヲ以テ延滞金ヲ徴収ス

左記各号ノ一二該当スル場合ニ於テハ延滞金ヲ免除ス

一 督促狀指定期限内ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ

二 納稅者ノ住所若ハ居所カ帝国内ニアラサル為、又ハ其ノ住所居所共ニ不明ナル為、公示送達ノ方法ニ依リ納稅

ノ告知又ハ督促ヲ為シタルトキ

三 納税告知書一通ノ税金十円未滿ナルトキ

四 天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ滞納シタルトキ

五 同一稅務署所管内ニ於テ同一稅目ノ直前納期ニ於テ督促ヲ受ケタルモノニアラサルトキ

六 納期ヲ繰上ケ徵收ヲ為シタルトキ

第十二条以下第一案二同シ

(延滞金徵收ノ手續ハ現行ノ督促手数料ノ取扱ニ準シ金庫ニ於テモ納付セシムルコト)



右二案ハ各賛成者相半ハシ、尚第二案ニ在リテモ其ノ第十一条ノ第二項第一号ノ削除ヲ主張スルモノアリテ意見一致セス、結局其ノ取捨選択ヲ主稅局ニ一任スルコトナレリ

第十六 滞納処分ニ関スル監督狀況如何

(答申ノ要領) 滞納処分ニ関スル取扱規程ハ之ヲ嚴密ニ制定シ、之方實際ノ監督ニ付テモ隨時局員ヲ派シ処分執行ノ事蹟ニ就テ事後ノ監督ヲ為スト共ニ、執行ノ現場ニ臨ミ指導セシムルノ方法ヲ採レリト雖、稅務署長ハ他ノ事務繁劇ノ為自ラ其ノ執行ノ任ニ当ル能ハサル事情アルノミナラス、其ノ監督亦充分ナル能ハス、兎角取扱規程ノ実行意ノ如クナラサルヲ憾トセリ、今後一層ノ監督ヲ加ヘ規程ノ勵行ヲ企図スヘシ

(主稅局長ノ演述) 滞納処分ニ関スル監督規程如何ニ完備スルモ、其ノ実行之ニ伴ハサルトキハ不可ナリ、近來執行吏員ノ不正行為又ハ不当処分増加ノ状ヲ見ルハ頗ル遺憾トスル所ナルヲ以テ、内外トモ一層嚴密ナル監督ヲ施シ、尚從來屢次ノ内訓通牒ノ如ク、滞納処分ヲ以テ稅務署長本然ノ事務トシ、徒ニ下僚ニ一任スルコトナキ

ヲ望ム

第十七 賦課事務ト徴収事務トノ間ニ連絡ヲ欠クコトナキヤ、實際ノ狀況如何

(答申ノ要領) 従来賦課事務ト徴収事務トノ連絡ヲ図ル為、伝告簿又ハ通知手帖等ノ様式ヲ定メテ互ニ知得シタル事項ノ通報ヲ為サシムルノ規程ヲ設ケ、相互事務ノ執行ニ便ナラシメムコトニ努力セリト雖、其ノ実行未タ充分ナラスシテ、為ニ兩事務ノ進捗ヲ阻害スルコト尠カラス、今後一層ノ励行ヲ期スヘシ

第十八 各局ニ対スル経費ノ配賦方法ニ関シ意見アラハ開申セラレムコトヲ望ム

(答申ノ要領) 主税局ヨリ別ニ提出シタル四十四年度内国税徴収費配賦額算出標準表ニ付、判任官ノ定員ニ於テ各局間權衡ヲ失セル嫌アルヲ以テ適実ノ改訂ヲ望ミ、營業稅及所得稅ノ調査旅費ノ算出標準タル納稅人員ハ、稅務署所在地ニ係ルモノハ相当ノ斟酌ヲ要スヘク、雜給雜費ノ雇員給ハ特ニ不足ヲ感スルニ付増額ノ必要アリト云フノ外格別ノ意見ナシ

第十九 決算ノ批難事項ヲ減少セシムルコトニ関スル監督方法如何

(答申ノ要領) 決算批難ノ多クハ營業稅、所得稅及相統稅ノ賦課方法ニ関シ、畢竟取扱者ニ法律上ノ素養乏シキト、其ノ取扱方ノ粗漏ナルニ因ル、故ニ此等ニ付予メ注意ヲ与フルト共ニ、一面常ニ事後ノ監査ヲ嚴ニシ、其ノ更正シ得ヘキ誤謬ハ速ニ之ヲ訂正セシムルノ方法ヲ探ルノ外ナク、現ニ之ヲ実行シツツアルモ将来尙一層ノ注意ヲ為スヘシ

(主税局長ノ演述) 租稅ノ賦課徴収ニ関スル會計検査院ノ批難事項ハ逐年増加ノ傾向アリ、特ニ四十一年度ノ決算ニ於テハ単ニ法令ノ誤解又ハ取扱ノ粗漏ニ因ルニアラスシテ、取扱者力納稅者ノ請託ヲ容レテ脱稅セシメタルカ如キ、稅務官吏ノ不正行為ニ基クモノ五件ノ多キヲ示セルハ頗ル遺憾ナリ、故ニ取扱者ヲシテ法令ノ研究ト

事務ノ練熟ヲ為サシメ、以テ賦課ノ正確ヲ期スヘキハ勿論、事前事後ノ監督ヲ嚴ニシ、尚會計検査院ノ審理書ニ対スル答弁ヲ為スニ当リテハ特ニ慎重ノ注意ヲ加ヘ、累ヲ後日ニ貽ササラムコトヲ望ム

「後略」

(昭44 関信 7、4)

78 明治44年4月 国税徴収法改正の周知方

熊谷稅務署報告(四十四年四月二十日)

本月七日経第九六五号ヲ以テ国税滞納者ニ対スル延滞金ノコトヲ一般ニ知悉セシムルコト、及徴収上ノ改善ニ関スル件御通牒ノ趣了承仕候、昨十九日ヲ以テ別紙第一号ノ如ク各町村長ニ通牒シ、第二号ノ如ク大里・児玉両郡長ニ協議書ヲ発シ、第三号ノ如ク署掲示場ニ告示致候、又当地ノ新聞雜誌記者及通信員ニモ延滞金ノ事柄記載方ヲ囑シ候去ル十六日児玉郡青年第一回総会ヲ同郡本庄町丸山座ニ開カレ、児玉郡長ヨリ招待ヲ受ケ候ニ付、署員ヲ出張セシメ延滞金ノ事其他稅務ニ関スル事柄ヲ演說セシメ候、今後此種ノ機会ヲ得ル毎ニ御通牒ノ趣旨ヲ敷衍スヘク、要スルニ納稅義務ノ觀念ヲ一般ニ鼓吹スル見込ニ候

第一号

庶第四五一五号

明治四十四年四月十九日

熊谷稅務署長

村長殿

本年法律第三十七号ヲ以テ国税徴収法改正セラレ、四十四年度ヨリ国税ヲ滞納スル者ニハ督促手数料ノ外延滞金ヲモ徴収セラルルコトト相成候ニ付、法定ノ期限内ニ必ス納付了シ滞納ニ陥ラサル様、各納税人ニ注意ヲ加ヘラレ度尚、右事項ハ掲示場ニ掲出スル等、便宜ノ方法ヲ以テ貴部内ニ無洩知悉セシメラレ度

又徴収ノ費用トシテ地租ニ対シテモ其徴収金額ノ千分ノ七ヲ交付セラルルコトニ相成、滞納者ノ有無ハ交付金ニ関係スヘキモノナルヲ以テ、一層奮励サレ以テ期限内金庫ニ送納了セラレ候様御留意有之度  
右通牒旁々及御協議候也

第二号

明治四十四年四月十九日

熊谷稅務署長

郡長殿

本日別紙写ノ通り各町村長ニ通牒致候、右ハ既ニ御了知ノ如ク国税徴収法改正ノ結果、滞納者ニ対シテハ督促手数料ノ外延滞金ヲモ徴収セラルルコトニ候、又地租ニ対シテモ其徴収費用トシテ、本年度ヨリ交付金ヲ付与スルコトナリ、滞納ノ有無ハ自然町村ノ財源ニモ及ホスヘキニ依リ、此際貴官ヨリモ各町村長ニ対シ夫々御諭達相煩ハシ度、此段及御協議候也

追テ、町村長ニ対シ諭告発付相成リシ節ハ、其写耆葉当署へ御送付相煩ハシ度候

第三号

告示

本年法律第二十七号ヲ以テ国税徴収法改正サレ、国税滞納者ニ対シテハ督促手数料ノ外延滞金ヲモ徴収セラルルコトト相成候ニ付、各納税者ハ必ス期限内ニ納付ヲ了シ滞納セサル様注意スヘシ  
右告示ス

明治四十四年四月十九日

署長官 氏 名

(平11 東京 29)

79 明治44年5月 地租に対する交付金交付の件

地租ニ対シ交付金交付ニ付国税徴収上配意方ノ件

明治四十四年五月二二日 主税局長通牒主秘第一四三号

市区町村ノ国税徴収方ニ関シ、地方長官ニ対シ別紙ノ通り通牒致置候条、貴官ニ於テモ相当御配意相成候様致度、此段及通牒候也

(別紙)

地方局長・主税局長通牒 明治四十四年五月二〇日主秘一四〇号 道庁長官、府県知事宛

従来市区町村ノ徴収スル国税金ニ対シテハ、其ノ徴収費用トシテ相当ノ金額交付相成居候ニ付、就テハ各市区町村ニ於テモ適宜徴税ニ関シ相当ノ方法ヲ講シ、納税者ノ利便ヲ図リ滞納ノ弊ヲ生セシメサル様十分御留意相成居候事ト存候処、本年度ヨリハ地租ノ徴収ニ対シテモ其ノ千分ノ七ノ金額交付相成候義ニ付、各市区町村ハ之ニ依リテ爾今一層

直接間接ニ国税徴収ニ関シ努力可致様御配慮相煩シ度  
右及御通牒候也

(平 19 仙台 259)

80 明治44年10月 滞納処分の執行方

訓甲第三八号

稅務署長

滞納者ノ滞納処分方ニ就テハ、會議ニ際シ又ハ通牒等ニ依リ屢次及注意、既ニ各署ノ事蹟漸次其成績ヲ改メツ、アルノ狀況ニ有之、然ルニ中ニハ猶未タ滞納処分ニ際シ十分ノ調査ヲ為スニ違アラシテ、滞納者ノ訴フル所ニ任セ期日ヲ定メテ猶予シ、或ハ出張官吏ニ於テ自由ニ其ノ分納ヲ許容スル向有之、此等ハ法規ノ認ムル所ノ取扱ニ無之、甚不穩當ニシテ、既ニ過般一般監督上弊害ヲ發見シタル向有之ノミナラス、為メニ益々滞納処分在再ニ流レ、一面納稅者ハ其ノ処分ノ緩慢ニ慣レ、予メ数日ノ延納猶予ヲ得ルヲ期シ、相当納稅ノ資力ヲ有スルニ不拘、尚納稅内市区町村役場ニ納稅ヲ為サ、ル者アルヤニ相聞エ候、如此ハ一局ノ徵収成績ヲ進メ納稅習慣ヲ改善スル所以ニ無之ニ付、爾後嚴ニ其執行方針ヲ緊縮シ、若シ出張官吏前記例外ノ取扱ヲ為スニ非レハ事情ニ障害アリト認メタル者アルトキハ、此ノ方針ヲ害セサル範圍ニ於テ権宜ノ処置ヲ執リ、其ノ事實及理由ヲ処分票ニ記載シ署長ノ認印ヲ受クヘク、課長及署長ハ具サニ事情ヲ稽查シ、其承認ヲ与フルニ際シテハ特別ナル留意ヲ払フコトヲ要ス、殊ニ郡村ニ在リテハ從來猶予及分納ノ習慣ナキ地方ハ絶体ニ其ノ例ヲ開カサルヲ期シ、万一從來多少ノ弊アル向ノ如キハ、此際之ヲ改ムルコトニ取

扱フヘク

右特ニ知照候条、取扱官吏ヲシテ其趣旨ヲ了得セシムル様伝告スルト共ニ、尚一般納税者ニ対シテモ克ク其所以ヲ理解セシメテ執行セラルヘシ

明治四十四年十月九日

東京稅務監督局長印

(昭56 東京 2316)

81 明治44年10月 国税滞納原因と矯正方法

経第二二七五号

稅務署

本年八月庶務課長會議ニ於テ特別委員報告ニ基キ決議シタル、管内各稅務署ノ事例ニ係ル滞納原因毎ノ矯正方法要領別紙ノ通ニ付為參考送付候条、可成此趣旨ニ依リ実行相成度右通牒ス

明治四十四年十月二十五日

東京稅務監督局

(別紙)

明治四十四年八月庶務課長會議ニ於テ特別委員力調査セシ管内ノ事例ニ属スル滞納原因毎ノ矯正意見

一 極貧ニアラサルモ差当り金策不如意ノ為

直前納期ニ於テ滞納シタルモノニ対シテハ、納期限十日前ニ市区町村役場ヲシテ納税上ノ注意書ヲ発セシメ、指定期限ニ至リ尚ホ納付セサルモノハ、署員、市区町村吏員出張督励シ、滞納ニ至リタルトキハ速ニ督促シ処分着手ヲ急速ニシ、差押物件ハ其ノ当日引上ヲナスコト、但特別ノ事情アルトキハ立会人ニ保管セシムルコトアルヘキモ、数日内ニハ必ス公売ノ場所ニ送付セシムルコト、而シテ処分上猶予ヲ与ヘサルハ勿論ナリ

二 貧困ニ因ル為メ

課税上ニ注意ヲ要スルハ勿論ナルモ、已ニ納税義務ノ確定シタル税金ニ対シテハ、常ニ小額ツツノ納税準備貯金ヲナスコトヲ勸メ、又ハ共同事業其ノ他ノ労銀ヲ以テ完納シ得ラルルノ手段ヲ講スルコト

三 別段ノ事由ナクシテ漫ニ納期限ヲ等閑ニ付スルモノ

平素納税觀念ノ養成ニ睨メ、且第一ト略同一方法ニ依ル、但シ注意ハ一回ニ止メ差押物件引上ケヲ励行ス

四 転居又ハ納税地変更ノ手續ヲ怠ルモノ

郡部ニ在リテハ転入地町村若ハ稅務署ニ依頼シテ納税者ニ注意シ正當ノ手續ヲ為サシメ、尚ホ町村役場発見ノ際ハ之ヲ稅務署ニ通報スルコトニ予メ協議シ、又郡市ヲ問ハス出張若ハ本人ヲ稅務署ニ召喚シ、納税地変更ニ關スル書面ヲ提出セシメ、同一管内ノ転居者ニ対シテハ主務課ニ交渉シテ台帳ヲ更正シ、而シテ算定通知書、決定通知書ノ欄外ニ此ノ場合ノ注意事項ヲ印刷シ置クハ、予防手段トシテ最良ノモノナルヘキヲ以テ、局ニ於ケル用紙作成上ニ就テノ希望トシテ特ニ付言シ置クモノナリ

五 戸主不在ノ為妻又ハ家族ニ於テ等閑ニ付スルモノ

納税者又ハ戸主不在ノ場合ニ於テモ、税金ハ必ス指定期限内ニ家族雇人ニ於テ納税スヘク注意書ヲ配付シ置キ、

尚ホ前納期ノ事績ニ依リ此ノ疑アルモノヲ調査シ、指定期限切迫ノ時期ニ於テ署員又ハ市区町村吏員出張ヲナシ、家族雇人ニ就キ懇切ニ説諭ヲナシ、滞納ニ至リタルトキハ第一後段ノ方法ニ依ル、但シ市町村ノ徴収スヘキ税金ナルトキハ予メ協議シテ市区町村ヨリ報告ヲ徴スルコト

六 納税ヲ依托セラレタルモノ之ヲ果サス

特ニ本人ニ通知シ、尚ホ今後確實ト認め得サルモノニ納税ヲ依托セサルコトヲ注意ス

七 土地又ハ其ノ他不動産ニ過重ナル抵当権ヲ設定シ弁済ノ途ナキ為

債権者及滞納者ニ協議シテ名義ノ変更ヲ促スト同時ニ、完納ノ方法ヲ講セシムルノ手段ヲ採ルハ決シテ不可ナラサルモ、只一時ノ彌縫ニ止マルモノナルトキハ之ヲ避ケ、価格ヲ精細ニ見積リ又ハ債権者ニ交渉シテ優先権ヲ抛棄セシムル等ノ手段ニ依リ課税物件ノ処分ヲ決行スルコト、蓋シ債務ノ担保タル以上ハ普通ニ於テ其ノ物件ノ価格債務額ニ充タストハ認め得ラレサルヲ思ハサルヘカラス

八 納期ニ方リ病氣其ノ他不時ノ遭難ニ因ル為

隣佑故旧、親戚等ニモ申談シ完納ノ策ヲ採ル、尤モ其ノ際ノ出来事ナルヲ以テ矯正方法ヲ講スルノ途ナシ、但シ予テ貯蓄組合又ハ取纏納付ノ途ヲ講シアルニ於テハ、此ノ問題發生セサルヘシ

九 課税上不服ノ為

通知書告知書送達等ニ依リ之ヲ調査シ、指定期限前署員若ハ市区町村吏員ノ中出張シテ、不服ノ場合ニ於ケル法令趣旨又ハ救済方法ヲ懇切ニ説明シ、税金ハ兎モ角期限内納付セサルヘカラサルコトヲ注意シ、又相当処理ノ途アルモノハ急速処理ノ途ヲ講シ滞納ニ至レハ第三二同シ

十 金利ヲ貪ラム為

指定納期前後ニ於テ一回嚴重ナル注意ヲナシ、又ハ場合ニ依リ之カ注意ヲ省キ、滞納ノ場合ハ督促状ノ指定期限ヲ発付ノ翌日トシ、期限ノ翌日他ノ者ニ先チテ差押ヲ為シ、如何ナル事情アルモ之ヲ顧ミス、又毫モ処分費ノ點ニ顧慮セスシテ物件ノ引上ヲ為ス等、總テ滞納処分ヲ迅速ニ且嚴格ニ執行スルコト

十二 納期日カ他ノ公課ト同一ナリシ為、又八月末カ納期ナル為

市区町村ニ交渉シテ可成指定期限ヲ異ニシテ納税告知書ヲ發セシメ、尚ホ同一納期日ノモノニアリテ納税準備ノ不足ナル場合ハ国税ヲ先ツ徴収セシム、尤モ斯カル納期ニハ納税督励ヲ周到ニスルコト必要ナリ

十三 納税人死亡又ハ不在ノ場合ニ於テ相続人、財産管理人未定ノ為

正式ノ方法ニ依ルトキハ裁判所ニ請求シ、又ハ檢事ニ通知シ納税管理人ノ設定ヲナスノ手續ヲ取ルノ外途ナキモ、可成便宜処分ニ依ルヲ可トス

十四 不在ノ為納税告知書ヲ受ケサリシニ因ルモノ

一回ノ送達ニ止メス使丁ニ依ルモノハ再三再四送達ノ手續ヲナサシメ、尚ホ不明ノ場合ハ郵便ニ依リ送達セシム、而シテ始ヨリ郵便ニ依リタルモノナルトキハ、更ニ使丁ヲシテ再送セシム、而シテ常時不在勝ナルモノハ本人在宅ノ節出張又ハ稅務署ニ召喚シテ説諭シ、此ノ場合ニ於ケル適當ノ方法ヲ講シ置カシメ、万一説諭ニ応セサルトキハ公示送達ノ手續ニ依リ滞納処分ハ第三ニ依ル

十五 債務ノ為財産差押ラレタル為

債権者及滞納者ニ利害關係ヲ説示シテ納付方ヲ勸告シ、之ニ応セサルトキハ裁判所又ハ執達吏ニ交付方ヲ要求シテ收入ノ安全ヲ図ルノ外ナシ、但シ差押ノコトハ只之カ調書等ノ提示ノミニ甘ンスルコトナク、進ンテ物件ノ対照保管ノ狀況等ヲ調査シタル後ニアラサレハ之ヲ認めサルヲ可トス

十五 役場吏員ト円満ヲ欠ク為

署員出張円満ヲ欠キタル原因ヲ尋ネ之カ調停ヲ試ミ、又ハ本人若ハ町村ニ注意シ、尚ホ其ノ効果ナキモノニ對シテハ第三ニ劣ラサル処分勵行ヲ為ス

十六 納税ニ要スル時間ト手数トヲ厭フ者

市区町村吏員ヲシテ出張徴収ヲ為サシメ、又ハ納税者相互取纏メ納付ノ途ヲ講セシム

十七 納税管理人ヲ設ケサル為

納税者ヲ稅務署ニ召喚シ、又ハ納税者居住地ノ所轄稅務署若ハ市区町村ニ囑託シテ納税管理人設定ヲナスコトヲ注意シ、尚ホ適當ナル管理人ヲ置カサル時ハ課稅物件ノ処分ヲ決行シ、其ノ根源ヲ絶ツ

十八 納税人ハ名義ノミニテ事實所有又ハ營業カ他人ニ属スル為

調査ヲ周密ニシ可成名実相伴フヘキ課稅ヲ受ケシムルコトトシ、尚ホ其ノ既ニ名義ヲ異ニスル者ハ表面ト事實ノ所有者又ハ營業人双方ニ名義ノ變更ヲナスコトヲ勸告シ、若シ變更ノ手續ヲナササル時ハ課稅物件ノ処分ヲ決行シテ禍根ヲ絶ツ

十九 納税管理人ノ怠慢若ハ金策不如意ノ為

納税管理人ノ變更ヲ納税人ニ勸告シ、若シ応セザルトキハ第三ニ同シ、但シ納期ニ於ケル注意ヲ省キ課稅物件カ不動産ナルトキハ処分ノ引継等ヲ避ケ可成不動産ノ差押ヲナス

二十 法令ノ誤解ニ依ルモノ（營業休止、審査請求、變更申立中等）

法令ノ趣旨ヲ詳細懇切ニ説明シ、其ノ効果ナキトキハ實際ノ事情ニ鑑ミ処分上幾分ノ斟酌ヲ加ヘ又ハ勵行ス

二十一 他ノ公課滞納処分ニ属スル為

本人ニ注意シ併セテ親戚等ニ懇談ス、若シ目的ヲ達セサレハ処分官公署ニ対シ次納期以前ニ処分ノ決行ヲナスコトヲ交渉ス、若シ処分官公署ノ都合上処分決行困難ノ事情アルトキハ、差押ヲ解除セシメ稅務署ニ於テ処分スルコト

二十二 交通不便ノ為(郡部ノミノ事例)

納税人ノ便ヲ謀リ出張徴収又ハ区长等ヲシテ取纏メ納付ノ事ヲ奨励ス

二十三 所在不明ノ為(納税告知書送達不能等モ包含ス)

第十三ノ如ク納税告知書送達ノ方法ニ留意スルモ、尚ホ所在明カナラサルモノハ矯正ノ途ナシ、但シ主務課ニ交渉シ随時収入ニ属スルモノノ賦課時期ヲ速カナラシメ、又ハ賦課ヲ取消シ得ヘキモノナラサルヤ否ヲ調査シ、適當ノ方法ヲ講スル必要アルハ勿論ナリ

二十四 商況不振及事業失敗ノ為

實際ノ狀況ニ鑑ミ第一若ハ第二ニ依リ、尚ホ町村共同ノ勞務ニ使役シ弁済完納セシムル等ノ方法ニ依ル

二十五 納税ノ為出頭シタルモ多数込合ニテ受理セラレサリシ為(市部ノミノ事例)

市区役所ニ交渉シ収納窓口ヲ増加セシメ、又ハ市区役所外ニ取扱所ヲ開始セシム

二十六 逋税ノ目的アル為

課稅物件ノ監視ヲ嚴ニシ不正行為ヲナスノ余地ナカラシメ、若シ不正行為アルヘシト思量シタルトキハ、其ノ納期繰上ヲナシ得ヘキ時期到来ヲ俟テ繰上処分ヲ決行ス、但シ監視ノ手段方法ニ關シテハ前途講究スルノ必要ヲ認ム

二十七 納期切迫シテ告知書ヲ受ケタル為

市区町村ニ交渉シテ発付ノ時期ヲ後レサラシメ、若シ後レタル事実アルトキハ署員又ハ市区町村吏員ノ出張督促ヲ特ニ周到ナラシム、而シテ納税告知ノ発付ニ際シ特別ノ事情アリテ遅延甚シカルヘキ虞アル場合ハ、事務ニ支障ナキ限り市部若ハ郡部ニ於ケル所在地ノ町村ニ限り告知書ノ作成ニ署員補助ヲナスモ妨ケナシ

二十八 破産又ハ家資分散ヲ受ケタル為

交付要求ヲ為シ、一面ニ在リテハ管財人、管理人ニ面接シテ期限内納付ヲ勧告ス

二十九 督促手数料僅少ナル為

第十ノ方法ニ近キ処分ヲ為ス

三十 精神病者ニシテ他人ノ言ヲ信セサル為

同居者、保護者ニ注意ヲ加ヘテ納メシム

同居者、保護者ナキ者ハ隣佑、親戚、故旧等ニ懇談シ、又ハ保護者ヲ設クルコトニ尽力シ、尚ホ滞納ニ至リタル

トキハ課税物件ヲ処分ス

三十一 納税時間ニ後レタル為

時間ノ延長ヲ市区町村ニ協議スヘキハ勿論ナルモ、同時ニ本人ヲ召喚シ若ハ出張ノ序ヲ以テ爾後時間ニ後レサル

コトヲ注意シ、根本ノ方法トシテハ出張徴収又ハ取纏メ納付ノ制ヲ奨励スルコト

三十二 相当ノ収入アルモ浪費ノ為

本人ニ対シ相当ノ注意ヲナスノ外、親戚又ハ知人ヲシテ浪費矯正ノ途ヲ講セシメ、其ノ効果ナキトキハ処分ヲ励

行ス

三十三 水害ノ為收穫皆無トナリタル為（郡部ノミノ事例）

第二、第二十二準ス

三十四 名寄帳誤謬ニヨリ實際納税者ト告知書ノ宛名ト違フ為

市区町村ニ交渉シテ名寄帳ト土地台帳トヲ照合シ符合セシメ、尚ホ其ノ整理監督ノ周到ヲ期スルコト

三十五 課税ノ土地実収ナキ為（郡部ノミノ事例）

地目、地類ノ変換ニ依リ地租軽減ヲ謀ルコトヲ促カシ、尚ホ滞納ヲ敢テスルトキハ処分ヲ励行ス、但シ納税者カ管内ノ居住ナルトキハ可成他ノ財産ヲ差押ヘ他管居住ナルトキハ土地ヲ処分スルコト

三十六 共有土地ナル為

共有者人名ヲ調査シ、其ノ中納税觀念厚シト認ムルモノニ告知書ヲ交付シ、同時ニ一応ノ注意ヲ与ヘ、尚ホ滞納ニ至リタルトキハ共有土地ノ差押ヲ為ス

三十七 朝鮮又ハ外国ニ転出ノ為

朝鮮若ハ租借地ナルトキハ、徴収処分囑託官公署ニ依頼シテ納税管理人設定方ヲ本人ニ注意シ（書面ヲ以テ直接本人ニ注意スルハ素ヨリ妨ケンシ）、其ノ効果ナキトキハ課税物件ヲ処分ス

三十八 所有権争ヒノ為名義人納付セス

關係者ニ一応注意ヲ与ヘ、其ノ効ナキトキハ課税物件ヲ処分ス

三十九 通勤者又ハ稼業ノ為納付時間ナキ為

在勤所若ハ使用人ニ於テ取纏メ納付ノコトヲ奨励シ、又ハ第十六ノ方法ニ依ル

四十 廢業又ハ継続ノ手續ヲ怠ルモノ

第四ノ方法ニ準ス

四十一 本人ノ會計ヲ使用人ニ委シ本人之ヲ知ラサル為

本人ニ向テ一応ノ注意ヲ為シ、其ノ効果ナキトキハ滯納処分ヲ勵行ス

四十二 所得税附加税賦課上不服ノ為(他ノ附加税ヲ厭フモノモ含ム)

本人ニ對シ懇篤説論ヲ為ス

四十三 市町村税ヲ納付セサレハ国税ヲ徴収セサル為

市町村ニ交渉シ斯カル取扱ハ直ニ之ヲ改メシム

四十四 納税管理人ハ単ニ告知書ヲ取次クニ止ル為

一応本人ニ注意シ、其ノ効果ナキトキハ課税物件ノ処分ヲ決行ス

四十五 白痴者ニシテ法定代人ナキ為

同居者ニ説示シ又ハ親族ニ懇話シ完納ヲ企画スルモ、其ノ効ナキトキハ課税物件ヲ処分ス

四十六 課税ノ減少ヲ希望シ故意ニ納税セサルモノ

第十二同シ

四十七 所得税重複決定ノ為

主務課ニ交渉シテ決定取消処分ヲ進メ原因ノ消滅ヲ計ルコト

四十八 破産又ハ家資分散ニ瀕セル為

第一ニ準ス

四十九 外国人ノ国情ニ通セサル為

通弁ヲ介シテ詳細懇篤ニ説明シ、又ハ懇親者其ノ他伝道師等ニ依頼シテ説明セシム

五十 市町村役場ノ注意普及セサル為

市区町村ニ対シ普及セサル廉ヲ指示シテ反省セシムルコト、但シ此ノ際一般ニ対シ稅務署ヨリ納稅ニ關スル注意書配付ノコト

五十一 惡地ニシテ收穫ナク納稅管理人未定ノ為（郡部ノミノ事例）

第三十五ニ準ス

五十二 強制執行中ノ為

納期ヲ繰上ケ強制管理人ニ交付ヲ要求ス

第十四本文ニ準ス

五十三 公課払戻ニ遲延ナル為

充當シ得ヘキモノナルトキハ払戻ノ請求ヲナサシメスシテ充當シ、然ラサルモノハ納稅者ニ對シ払戻ト納稅トハ問題ノ異ナルコトヲ懇篤ニ説諭ス、但シ場合ニ依リ當該官公署ニ可成急速払戻ノコトヲ照会スルコトアルヘシ

五十四 納稅者力納稅管理人ニ對シ送金ヲ怠ル為

第四十四ニ同シ

五十五 本人移住シ代人ヲ立ツル信用ナク、故意ニ怠慢ニ付スルモノ

滞納処分ヲ決行ニ依リ課稅物件ヲ売却ス

五十六 重複決定ノ為ニ通リ納稅告知書ヲ受ケ納稅ニ迷フモノ

第四十七ニ同シ

五十七 区役所ノ不親切ニシテ混雜ノ為時間ヲ要シ、稅務署ニ納付スルヲ便利トシ、故ラニ納付セサルモノ（市部ノ

ミノ事例)

第二十五二同シ

五十八 官公吏ノ勤務地又ハ商業地ノ一定セサル為

納税管理人ヲ設ケシム、肯セサルトキハ処分勵行ノコト

五十九 滞納ノ悪風ヲ見習ヒ又ハ滞納処分ニ慣レ、処分ヲ受クルヲ常習ト為スモノ

第十二同シ、但シ可成処分上ノ苦痛ヲモ感セシムルノ手段ヲ執ルコト

六十 無住職寺院ノ所有地ニシテ納税管理人ナキ為

檀徒総代ヲ説示シ、又ハ本山ニ交渉シテ適當ノ方法ヲ講セシム

(平 11 東京 29)

82 明治44年10月 振替貯金による公金取扱実施顛末

庶第四四三四号 明治四十四年十月三十日 横浜稅務署

振替貯金ニ依ル公金取扱ニ關スル件申報

本年七月以降、横浜市ニ於テ振替貯金ニ依ル公金取扱実施ノ顛末及実況左ノ如シ

一 振替貯金ニ依ル公金取扱開始ニ付、横浜市ト横浜通信管理局トノ協定事項

郵便振替  
貯金ニ依ル 横浜市公金特別取扱ニ關スル協定書

横浜市公金受私ノ為ニスル郵便振替貯金特別取扱ニ關シ、横浜通信管理局ト横浜市役所トノ間ニ於テ協定スルコト

左ノ如シ

第一条 納税告知書、納額告知書、賦課令状(以下、単ニ令書ト称ス)ハ、横浜市役所ニ於テ振替貯金口座ノ異ナル毎ニ各部欄外上部ニ相当記号ヲ付シ、且国税ト市税其他ノ収納金トノ識別ヲ容易ナラシムル為、国税ハ赤色ニ印刷スルモノトス

第二条 横浜市役所ハ令書ニ記載スヘキ金額ノ書方ヲ一定シ、且金額ハ内訳ヲ除クノ外改竄訂正セサルモノトス

第三条 国税ハ法定納期経過、市税其他ノ収納金ハ督促状ヲ発シタル後ハ、郵便局ニ於テ取扱ヲ為ササルモノトス

第四条 法定納期ヲ経過シタル国税及督促状ヲ発シタル市税其他ノ収納金ヲ郵便局ニ於テ受入シ、又ハ郵便局ノ過失

ニ依リ金額ヲ受入レタルトキハ、横浜市役所ヨリ郵便貯金局ニ通知シ、郵便貯金局ニ於テハ其通知ニ基キ払出証明書ヲ作成シ、横浜市役所ノ口座ヨリ補正払出ヲ為シタル上、其旨ヲ横浜市役所ニ通知スルト共ニ、払出証明書ハ横浜通信管理局ヲ経テ受入郵便局ニ送付シ、該郵便局ニ於テ受入金ヲ納人ニ還付ス、此場合ニ於テハ手数料ヲ徴収セズ、其口座ヨリ引去リタル料金ハ戻入ノ手續ヲ為スモノトス

第五条 令書ノ内訳金額ト合計金額ト相違アリシ場合ト雖、郵便局ニ於テハ合計金額ニ依リ処理スルモノトス

第六条 郵便局ニ於テハ令書面合計金額拾銭未滿ノモノト雖、之ヲ取扱ヲ為スモノトス

第七条 横浜市役所ハ納税期限ヲ法定期限又ハ法定期限前七日以内ニ於テ指定スルモノトス

但、随時収入ハ此限ニアラス

第八条 横浜市役所ハ国税以外ノ収納金ハ、一ケ年ヲ通シ可成郵便局取扱納税件数ヲ平均セシムル様納期ヲ定ムルモノトス

第九条 横浜市役所ニ於テ一時ニ多数ノ令書ヲ発行スルトキハ、法令其他規定ノ許ス範圍内ニ於テ可成其発行期日ヲ

繰上置クモノトス

第十条 横浜市役所ニ於テ一定ノ納期アル令書ヲ發セシトキハ、其種類、口数、金額及納期ヲ直ニ横浜通信管理局ヘ通知シ、又隨時ニ徴收スル令書ヲ發セシ時ハ、其口数、金額ヲ毎月取纏メ同局ヘ通知スルモノトス

第十一条 払込通知ハ翌日午前中ニ横浜通信管理局ヨリ横浜市役所ニ送付スルモノトス、日曜・祭日ニ相当スルトキハ其翌日トス

第十二条 振替貯金ニ依ラスシテ納税セシ口数及金額ハ各種類毎二月別トシ、翌月中ニ横浜市役所ヨリ横浜通信管理局ニ通知スルモノトス

第十三条 郵便局ハ納税者ノ便ヲ計リ、毎月末日ハ取扱時間ヲ一時間延長スルモノトス

第十四条 督促状ハ一定ノ納期アルモノハ各種類毎ニ、其他ノモノハ同一ノ月ニ發行シタル令書ニ対シ同時ニ發スルモノトス

第十五条 横浜市役所ニ於テ前条ノ督促状ヲ發スル場合ハ、五日以前ニ横浜通信管理局ニ通知スルモノトス

第十六条 即時払ハ市ノ指定シタル銀行ヲシテ横浜郵便局ヨリ受領セシムルモノトス

本協定ハ明治四十四年六月十九日ニ通ヲ作製シ、左ニ署名捺印ス

横浜通信管理局長 河合 龍

横浜市参事会横浜市長 荒川義太郎

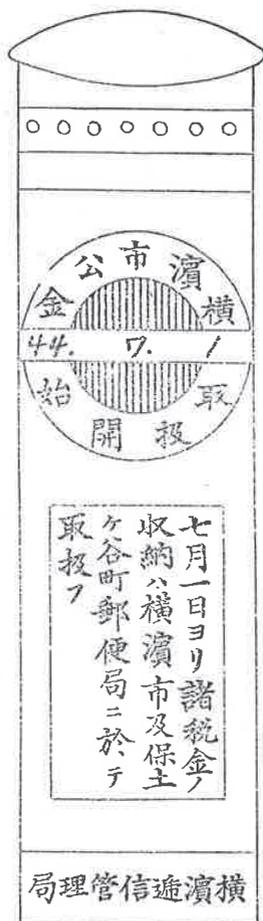
二 振替貯金ノ方法ニ依リ横浜市ノ公金ヲ取扱フ郵便局ハ、横浜市内ニ在ルモノ三十五箇所、保土ヶ谷町一箇所、都合三十六箇所ナリ

三 公金取扱開始ニ際シ、横浜通信管理局ノ納税者ニ対シ執リタル周知方法及其後督促ノ手段ハ

(イ) 印刷物ノ揭示

郵便投書函大ノ用紙(左ノ略図)へ美麗ニ印刷シタルモノ三百枚ヲ、横浜市内及保土ヶ谷町郵便局、並切手売捌所、電車停留場、鉄道停車場、自動電話所等ニ揭示シテ周知セシメタリ

略 図 (ロ) 印刷物ノ配付



実施後九月ハ所得税第一期ノ納期ナルヲ以テ、横浜通信管理局ニ於テハ納税上ノ注意及振替貯金ノ法ニ依ル納付心得書ヲ詳細ニ説明シタル印刷物一万枚ヲ、広告郵便ニテ横浜市及保土ヶ谷町ノ重ナル者ニ配付シタリ

四 税務署ノ督励

一方税務署ニ於テハ、従来滞納ノ常習アル重ナル者ニ直接注意督励シツツアリ

五 開始後ニ於ケル納税者ノ感触

遠隔地ニ在ル者ハ最寄ノ郵便局ニ納付シ得ルノミナラス、通勤者ニ於テモ土曜日ノ午後又ハ日曜日ノ午前ニ納付ノ便利アル等、其他一般ニ便利ヲ感スル実況ナリ

六 市役所ノ便否

(甲) 便利トスル点

(イ) 現金徴収上多数ノ込合ヲ防クコト

(ロ) 従来滞納者ノ内、納税上不便ニ原因セシモノヲ防遏シ得ルニ至リシコト

(ハ) 従来ニ比シ現金取扱件数減少ノ結果事務員ニ余裕ヲ生シ、随テ経費ヲ減スルニ至リタルコト

因ニ開始前ハ徵稅派出所(五箇所)一箇所毎ニ銀行員一人、市吏員一人、小使一人ヲ要シタリシモ、是ハ全然不用トナリタリ

(三) 領収済通知書ハ貯金ノ口座毎(口座七箇)ニ管理局ヨリ集計シ来リ、而モ計算確實ナレハ従前ノ派出所收

納當時ニ比シ区分又ハ集計ノ手数ヲ省キタルコト

(乙) 不便トスル点

一 挙示スル程ノ事項ナキモ強テ之ヲ挙クレハ

(イ) 従前ハ納税ノ際收入役領収印ヲ其納税告知書領収ノ部ニ押捺シ来リシモ、該印ヲ全部ニ予メ押捺シテ配付スルニ至リシコト

(ロ) 従前ハ納税告知書ノ原符カ右方ニアリテ、住所ハ此一箇所ノミ記入シテ配付シ可ナリシモ、開始後ノ告知書ハ原符ノ中央トナリシ為、原符並領収証ノ二箇所ニ記入ヲ要スルニ至リシコト(告知書送達ノ際折返シ置ム故ニ使丁ノ便利上)

(ハ) 収納簿消込ノ際郵便局ノ分ト市ノ分トヲ區別シ番号順ニ揃ユルヲ要シ、為ニ番号ハ自然ニ飛離シ比較的幾分迅速ヲ缺クニ至リタルコト

又市収入ノ分ハ翌日消込ミ得ルモ、郵便局ノ分ハ翌日市役所ニ到達シ、出納課ヲ經テ稅務課ニ至ルハ翌々日トナルカ故ニ、消込ハ昨日市収入ノ分ト競合シテ二様ニ消込ムコトトナリシコト

七 稅務署ノ便否

(イ) 稅務署ハ元來此取扱ニ關シ便否ヲ感セス、然レトモ滞納者ノ幾部ヲ減シタル利益アリ

(ロ) 僅ニ不便ヲ感スル点ハ

定期ノ税金ハ納期末日迄徴收シ月ヲ以テ区分シ、翌月ハ一切之ヲ取扱ハサルコトニナリタル為誤收ナキモ、隨時ノ分ハ往々期限後ニ収入スルコトアリ

因ニ稅務署ハ市ノ滞納報告ニ依リ督促状ヲ發シタルニ、既ニ郵便局ニ納付済ナルコトヲ發見シタルコトアリ、仍テ直ニ市ニ交渉シテ滞納報告ヲ取消シタルモノ、開始以來三人アリシナリ

八 開始後ニ於ケル国税徴收成績(四十四年七月以降九月迄)

(イ) 宅地租第一期

本年度ノ調定済額ニ対スル収入歩合(左表)ハ稅額八割八分四厘、人員八割三分九厘ニシテ、之ヲ前年度及前々年度ノ同期ニ対比スレハ

対前年度	稅額	四分五厘	人員	一割三分四厘
対前々年度	稅額	八厘	人員	四厘

ヲ昂上セリ

(ロ) 所得稅第一期

本年度ノ調定済額ニ対スル収入歩合(左表)ハ稅額七割七分九厘、人員六割七分六厘ニシテ、之ヲ前年度及前々

年度ノ同期ニ対比スレハ

対前年度	税額	五分七厘	人員	五分五厘
対前々年度	税額	五分八厘	人員	五分一厘

ヲ昂上セリ

(ハ) 雑地租第一期

本年度ノ調定済額ニ対スル収入歩合(左表)ハ税額九割一分七厘、人員八割七分三厘ニシテ、之ヲ前年度及前々年度ノ同期ニ対比スレハ

対前年度	税額ニ於テ五分六厘ヲ増シ、人員ニ於テ九分七厘ヲ減セリ			
対前々年度	税額	六厘	人員	三分二厘

ヲ昂上セリ

斯クノ如クニシテ収入歩合ニ於テ著シク昂上ヲ呈セス、僅ニ其進歩ヲ見ルハ蓋シ実施後日尚ホ淺ク、爾後漸ク一般納税者ノ便宜ヲ周知スルニ從ヒ次第ニ其好果ヲ収ムルニ至ルヘシ

而シテ市及郵便局ノ収入額ニ対スル一人当平均税額ヲ見ルニ、雑地租ヲ除クノ外市役所ニ納付者ノ分多額ニシテ、郵便局ニ納付ノ分少額ナルハ、実施当初ニ於テハ一般納税者ハ郵便局ニ納付スル上ニ多少奇異ノ念ヲ起シ、多額納税者ノ多クハ市ニ納付スルヲ快トスル傾向アルヲ見ル、之レ既設ノ大阪市及其他市ノ納税成績ニ徴スルモ明カナル実況ナリ

如上郵便局ニ納付スルヲ奇怪トスルト共ニ、一方ニ於テハ比較的多額納税者ノ多クハ市内枢要ノ地ニ居住シ市ニ納付スルヲ便利トスルモ、反之比較的少額ノ納税者ハ多クハ納税上不便ノ地ニ在リテ、從來滞納ノ常習アル者此

便法ノ開始ニ依リ最寄ノ郵便官署ニ納付スルニ至レル実況アルヲ窺知スルヲ得ヘシ

明治四十四年七月振替貯金実施後国税徴収成績調ノ一

年度	納期	四二		四三		四四		前々年度ニ対比 ●増 ●減	備考
		市街 宅地租	人員	市街 宅地租	人員	宅地租	人員		
調定済額及人員	収入済額及人員	収入	市収入済額及人員	歩合	郵便局収入済額及人員	歩合			
一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一、二五、七八九	一、〇〇、二七三	八七六	一、〇〇、二七三	一〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
五、六五	一、〇〇、二七三	八三五	一、〇〇、二七三	一〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
二、五八五	二、一五八	八三五	二、一五八	一〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
一、二七、一三四	一、〇六、七三二	八三九	一、〇六、七三二	一〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
七、五五	四、九〇	七〇五	二、〇〇三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
二、五八五	二、〇〇三	八三四	二、〇〇三	一〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
一、五六、三七四	一、三八、二四六	八八四	八、八六八	四八〇	五、六、三七七	五、三〇	五、六、三七七	五、三〇	
二、六五	一、〇一〇	八三九	一、一六一	三三四	一、四二〇	一、四二〇	一、四二〇	一、四二〇	
四、二六三	三、五八一	四五	二、四、八六四	二〇	五、六、三七七	五、三〇	五、六、三七七	五、三〇	
二、九、二九九	三、一、五二二	四五	二、四、八六四	二〇	五、六、三七七	五、三〇	五、六、三七七	五、三〇	
五、一〇	三、一、五二二	四五	二、四、八六四	二〇	五、六、三七七	五、三〇	五、六、三七七	五、三〇	
●増 ●減	●増 ●減	●増 ●減	●増 ●減	●増 ●減	●増 ●減	●増 ●減	●増 ●減	●増 ●減	
一、六七八	一、五七八	一三四	八四二	六七六	一、四二〇	一、四二〇	一、四二〇	一、四二〇	
三、〇、五八四	二、七、九七二	八	二、八、四〇五	四〇八	二、八、四〇五	二、八、四〇五	二、八、四〇五	二、八、四〇五	
七、〇〇	二、七、九七二	八	二、八、四〇五	四〇八	二、八、四〇五	二、八、四〇五	二、八、四〇五	二、八、四〇五	
一、六七八	一、四、四三	四	九、九七	六七六	九、九七	九、九七	九、九七	九、九七	

備考  
 一 調定済額並収入済額前年度ニ比シ著シキ増ハ、科目改正ノ為郡村宅地租ト市街宅地租ノ合併セント、尚ホ幾分ハ行政区画変更ノ結果、郡部ヨリ編入セラレタルモノアルニ因ル

二 市収入済一人当 郵便局収入済一人当

税額 七〇、五二四 税額 一三三、二五九

四二	年度	雑地租	税目	納期	納期	人員	調定済額及人員	収入済額及人員	収入	歩合	市収入済額及人員	歩合	同上	郵便局収入済額及人員	歩合	同上
一						一、〇二〇 九三五	一、八四二 三七五	八四一	九一一	一、八四二 三七五	一、〇〇〇					
						人員	人員									
						一、六六七	一、四〇二									

同

上ノ三

備考	市収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	四四	四三	四二	年度
						所得稅	所得稅	所得稅	税目
税額	市収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	一	一	一	納期
						一七、六四三	一三、二四四	一三、二八六	調定済額及人員
税額	郵便局収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	収入済額及人員
						二、九一四 二三〇	三、七二〇 七〇〇	二、四二八 九一〇	九〇、二四五 六五〇
税額	市収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	収入
						三、三六三	九、五〇〇 一一〇	八、九六二	七二二
税額	郵便局収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	歩合
						四四七	七、二八三	八、一七六	六二五
税額	市収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	市収入済額及人員
						五、三三九	五、〇四二	八、八二七 二七〇	九〇、二四五 六五〇
税額	郵便局収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	歩合
						四四六	四四、四四九	八、一七六	八五、一三
税額	市収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	同上
						四四六	四四、四四九	一、〇〇〇	一、〇〇〇
税額	郵便局収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	同上
						四四六	四四、四四九	一、〇〇〇	一、〇〇〇
税額	市収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	同上
						四四六	四四、四四九	一、〇〇〇	一、〇〇〇
税額	郵便局収入済一人当	比増●減	前々年度三対	増●減	前年度下対比	人員	人員	人員	同上
						四四六	四四、四四九	一、〇〇〇	一、〇〇〇

同

上ノ二



延滞金ノ徴収ニ関スル件

国税徴収法施行規則中改正勅令案ニ関シ、今般別紙ノ通主税局長ヨリ通牒有之候条、為参考  
右通牒候也

追テ、別紙主秘第一三二号追書第五号ニ関シ意見有之向ハ、至急内申相成度候

主秘第一三二号

国税徴収法施行規則中改正勅令案ニ関シ、曩ニ主秘第一四四号ヲ以テ及御通牒置候処、閣議繫属中内閣ノ更迭ヲ見ル  
ニ至リタルヲ以テ、無止前案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ、別紙ノ通り審議會ノ決議ヲ経テ更ニ閣議ニ提出致候条、為御参考  
及通牒候也

明治四十四年十一月一日

大蔵省主税局長 菅原通敬

仙台稅務監督局長 楠 正篤殿

追テ、閣議通過ノ上愈々發布ノ運ニ相成候ハ、延滞金ニ関スル施行上情状酌量ニ関シ区々ニ流レサル様、左記各  
項ニ該当スル者ハ一般ニ免除ヲ与フルコトニ内訓ヲ以テ定メラルヘク被存候ニ付、是亦御参考ノ為メ申添候

左記

- 一 同一稅務署所轄内ニ於テ、同一稅目ノ直前納期ニ於テ督促状ヲ受ケサル者
- 二 督促状指定期限経過後ト雖、差押着手以前ニ於テ任意出頭納付ヲ為シタル者

- 三 水害、火災等特定人ニ限ラス、一地方ニ共通スル事變ニ遭遇シタル者
- 四 賦課ニ関スル不服ノ為、審査請求又ハ訴訟、訴訟ノ審理繫統中ニ在ル者
- 五 其ノ他監督局長ニ於テ必要アリト認め、大蔵大臣ノ認可ヲ經テ定メタル内規ニ該当スル者

#### 国税徴収法施行規則中改正勅令案

国税徴収法施行規則中、左ノ通改正ス

第十一条ノ二 前条ニ依リ督促ヲ受ケタル者、左ノ各号ニ該当スル場合ニ於テハ、税金額百円ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ、納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日数ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徴収ス、但シ滞納ニ付酌量スヘキ情状アリト認めタルトキハ、此ノ限ニ在ラス

一 納税告知書一通ノ税金額二十円以上ナルトキ

二 納期ヲ繰上ケ徴収ヲ為スモノニ非サルトキ

三 納税者ノ住所若ハ居所力帝国内ニ在ラサル為、又ハ其ノ住所、居所共ニ不明ナル為、公示送達ノ方法ニ依リ納税ノ告知又ハ督促ヲ為シタルモノニ非サルトキ

督促状ニ指定シタル期限迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ、又ハ前項ニ依リ計算シタル金額カ十錢未滿ナルトキハ延滞金ヲ徴収セス

第十二条 第十七条及第二十九条中「督促手数料」ノ下ニ「延滞金」ヲ加フ

第十六条 収税官吏財産ヲ差押ヘタルトキハ、左ノ事項ヲ記載シタル差押調書ヲ作り之ニ署名捺印スヘシ

一 滞納者ノ氏名及住所、若ハ居所

二 差押財産ノ名称、數量、性質、所在、其他重要ナル事項

三 差押ノ事由

四 調書ヲ作りタル場所、年月日

国税徴収法第二十一条ノ場合ニ於テハ、收税官吏ハ立会人ト共ニ差押調書ニ署名捺印スヘシ、但シ立会人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ、其ノ理由ヲ付記スヘシ

收税官吏差押調書ヲ作りタルトキハ、其ノ謄本ヲ滞納者及立会人ニ交付スヘシ、但シ債權及所有權以外ノ財産權ノミヲ差押ヘタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九条中左ノ如ク改ム

二 公売財産ノ名称、數量、性質、所在、其ノ他重要ナル事項

附則

本令中延滞金ニ関スル規定ハ、本令施行後ニ於テ納期ノ開始スル明治四十四年分租税ヨリ之ヲ適用ス

伝達秘第一号

官房秘第五〇三号

稅務監督局、稅務署

本年法律第三十七号ヲ以テ国税徴収法改正セラレ、租税滞納者ヨリ延滞金ヲ徴収スルコトナリタルモ、元來延滞金徴収ノ目的ハ納税ノ資力ヲ有スルニ拘ラス、故意ニ其ノ手續ヲ怠リ滞納スルノ弊習ヲ矯正スルニ在ルヲ以テ、租税ノ賦課徴収ニ付テハ苟モ違法不当ノ瑕疵アルヘカラサルハ勿論、延滞金徴収ノ実行ニ当リテハ特ニ苛酷不親切ノ取扱ニ

渉ルカ如キコトナキヲ期シ、左記各号ノ一二該当スル者ニ対シテハ、国税徴収法施行規則第十一条ノ二三依リ、其ノ情状ヲ酌量シテ延滞金ノ徴収ヲ要セサル義ト心得ヘシ

一 同一稅務署所轄内ニ於テ、同一稅目ノ直前納期ニ於テ督促ヲ受ケタル者ニ非サル者

二 督促狀指定期限経過後ト雖、差押着手前ニ於テ任意出頭納付ヲ為シタル者

三 水火災等ノ災害ニ遭遇シ事情已ヲ得サルモノト認めラル、者

四 賦課ニ関スル不服ノ為審査請求又ハ訴願、訴訟ノ審理繫属中ニ在ル者

前各号ノ外延滞金ノ徴収ヲ免除スルノ必要アリト認ムル者ニ付テハ、稅務監督局長ニ於テ内規ヲ定メ本大臣ノ認許ヲ稟クヘシ

明治四十四年十二月八日

大藏大臣 山本達雄印

右伝達ス

明治四十四年十二月十三日

仙台稅務監督局長印

追テ、本文末項延滞金ノ徴収ヲ免除スル必要アリト認ムル者ノ条件ニ就キ、意見アル向ハ至急當該事項ヲ内申スヘシ

秘第三五一号

明治四十四年十二月十六日

仙台稅務監督局長印

延滞金ノ徴収ニ関スル件

國稅徴収法施行規則及同施行細則ノ改正二件ヲ施行上ノ心得方ニ関シ、本月十三日大臣ノ内訓傳達致置候処、尚延滞金ノ徴収ニ関シ左記各項注意可相成旨、本月十五日主秘第一四号ヲ以テ主稅局長ヨリ依命通牒有之候条、特ニ了知相成度

右通牒ス

左記事項

- 一 延滞金ニ関スル施行ノ起算点タル納期トハ、期間ヲ以テ定メラレタルモノハ其期間ノ初日ヲ指シ、又日ヲ以テ定メラレタルモノハ其納期当日ヲ指スモノナルコト
- 二 同一納期ノ畑租及雑地租ヲ並記スル場合ニ限り、其合計金額ヲ以テ延滞金徴収ノ標準ト為スコト
- 三 大臣内訓秘第五〇三号中第一号直前納期ニハ、定期又ハ隨時ノモノヲ包含スルモノナルコト

(平 12 仙台 722)

84 明治45年2月 延滞金徴収免除に関する件

延滞金徴収免除ニ関スル件 明治四五年二月三日 往第一〇一五号主稅局長通牒

延滞金徴収免除ニ関スル客年十二月秘第五〇三号内訓ニ依ル各局ノ稟申ニ対シ、別記ノ各事項認可相成候処、自局ノ認可事項外ニカカルモノニシテ、他局ニ対シ認可アリタル事項ニ付テハ別ニ稟申ヲ要セス同一規定ヲ設クルモ差支無

之候条、依命此段及通牒候也

(別記)

各局ノ稟申ニ対スル認可事項

京都稅務監督局(明治四五年一月二五日指令)

一 賦課ニ関スル審査請求、訴訟訴訟ヲ提起、又ハ減額更訂請求、減額申立ヲナササルモ賦課上穩ナラサル嫌アリ  
テ取調中ニ属スルモノ、及之方取調ヲ了シ課税ノ瑕疵ヲ発見シタルモノ

二 納期ニ際シ納税者、業務担当者、又ハ納税者ト同居ノ戸主、家族ノ死亡、入監、疾病又ハ交通遮断等不意ノ事  
故ニ依リ、已ムヲ得ス期限ヲ失シタリト認め得ラルルモノ

三 業務失敗ノ結果金調不如意トナレル事情顕著ナルモノ

大阪稅務監督局(明治四五年一月二五日指令)

一 破産ノ宣告又ハ強制執行ヲ受ケタル為メ、徴収法施行規則第二十九条ニ依リ交付ノ請求ヲ為シタルトキ

二 税額決定誤謬又ハ重複決定発見ニ依リ、本税ノ納税義務消滅シ又ハ税額ニ減少ヲ生シタルトキハ、延滞金ハ之  
ヲ徴収セサルコト

仙台稅務監督局(明治四五年一月二五日指令)

一 納期中相続開始ノ場合ニ於テ、相続財団又ハ相続人ヨリ徴収スルモノナルトキ

二 督促状発付後賦課ノ減免ニ因リ納税義務消滅シ、又ハ納税額二十円未満ニ下リタルトキ

三 伝染病予防上交通遮断等ノ為メ、事情已ムヲ得サルモノト認めタルトキ

宇都宮稅務監督局(明治四五年一月二五日指令)

- 一 本人又ハ家族病氣ニ罹リ、事情已ムヲ得スト認メラルル者
- 二 伝染病ノタメ交通遮断ニ依リ、事情已ムヲ得スト認メラルル者
- 三 所得金額ノ更訂若クハ營業稅課稅標準ノ更訂ニ関シ請求中ニ係ル者

広島稅務監督局（明治四五年一月二五日指令）

- 一 伝染病發生ノ為交通ヲ遮断セラレタルトキ
- 二 重病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ、他ニ納稅ノ手續ヲ為シ能フヘキ者ナカリシトキ
- 三 倒産ノ為納金ノ調達困難ナリシトキ
- 四 前各号ノ外、之ニ類スル重大ナル事情ニ因リ延滞金ノ徵收ヲ免除スルノ必要アリト認め、特ニ局長ノ認可ヲ受ケタルトキ（但シ第四項ニ依リ免除シタル場合ハ報告ヲ要ス）

熊本稅務監督局（明治四五年一月二五日指令）

- 一 納稅地又ハ名義變更手續中ニ係ル者
  - 二 課稅標準減額更訂ノ申請中ニ係ル者
  - 三 誤解ノ為メ賦課ニ関スル不服ヲ有スルモノニシテ事情ノ認め得ヘキ者
- 鹿児島稅務監督局（明治四五年一月二五日指令）

- 一 破産宣告申立中ノ者
- 二 禁治産者及準禁治産者（浪費者ヲ除ク）ニシテ、事情ノ已ムヲ得サルモノト認メラルル者
- 三 滞納稅金ニ対スル課稅物件繫争中ニ屬シ、事情已ムヲ得サルモノト認メラルル者
- 四 仮差押執行中ノモノニシテ事情已ムヲ得サルモノト認メラルル者

五 離島ノ納税者ニシテ便船ナク事情已ムヲ得サルモノト認メラルル者

秋田稅務監督局（明治四五年一月二十六日指令）

一 課税ノ誤謬又ハ重複ノ為メ調査中ニ在ル者

二 伝染病予防法ニ依リ交通遮断又ハ隔離中ニ在ル者

三 滞納者ノ財産全部ヲ差押ヘ滞納処分中ニ在ルモノニシテ、爾後到達シタル納期ノ滞納額ニ係ルモノ

四 繰上徴収ヲ為ササル者ニ対シ、施行規則第二十九条ニ依リ交付ヲ求メタル場合ニ於テ交付請求ノ日以後ニ係ル

モノ

東京稅務監督局（明治四五年二月二日指令）

一 納税告知書送達前、納税者カ国税徴収法施行地外（外国ヲ含ム）ニ在ルカ、又ハ政府ノ艦船ニ乗組ミ引続キ海

上若ハ徴収法施行地外ニ在ルコトヲ公文書ヲ以テ証明シタルトキ、但其住居所ニ於テ納税ヲ処分スヘキ者ナキ

トキニ限ル

二 納税者死亡シ、軍事上ノ召集ヲ受ケ其他法令ノ規定ニ依リ身体ノ拘束ヲ受ケタル場合ニ於テ、幼者又ハ老年者

ノ外同居ノ戸主、家族、事務員、雇人ナク、且ツ其財団又ハ納税ニ関スル管理人ナキトキ

三 法人カ解散シタル場合ニ於テ、清算人ナキカ清算中ニ属スルトキ、又ハ破産ノ宣告若シクハ家資分散ノ決定ヲ

受ケタルトキ

四 廢兵、救貧ニ関スル規則ニ依リ救恤ヲ受クル者

五 所得金額及營業稅課稅標準ノ決定ニ錯誤アリシコトヲ認め、之カ訂正処分調査中ニ属スルモノ

以上、各項ハ其事由生シタル日ヨリ事故ノ止ミタル翌日迄ノ延滞金ヲ免除スルモノトス

六 外国人ニシテ永代借地権ニ関連シタル租税ヲ滞納シタル者

長野稅務監督局（明治四五年二月一三日指令）

- 一 納稅者左記各号ノ一ニ該当スル場合ニ於テハ、延滞金ノ徴収ヲ免除スルモノトス
- 一 納稅者ノ死亡ニ基因シ、毫モ故意怠慢ノ事実ナシト認ムルトキ
- 二 所得稅法第四十條ノ請求又ハ營業稅法第二十九條ノ申出アリテ調査中ニ屬スルモノナルトキ
- 三 納稅者軍人ニシテ從軍中ニ係ルトキ
- 四 納稅者相続財團ナルトキ、又ハ營利目的トセサル法人ニ係ルトキ
- 二 前項ノ外其ノ情狀ヲ酌量シテ延滞金ノ徴収ヲ免除スル必要アリト認ムル場合ハ、稅務署長ハ事由ヲ詳具シ局長ノ認可ヲ受クルモノトス

（平 19 仙台 259）

85 明治45年3月 東京市公金の郵便局取扱

達第一七号

（明治四十五年三月二十九日  
東京通信管理局報第八十五号）

東京市内各郵便局

内藤新宿、渋谷、下大崎、大崎、品川、北品川、駒場、渋谷広尾、渋谷宮益町、  
天現寺橋通、代々幡、淀橋、大久保、角筈、淀橋柏木、大久保百人町、新宿太  
宗寺前、穩田、新宿御苑裏、千駄ヶ谷、原宿、下戸塚、高田、日暮里各郵便局

東京市公金受払ノ為ニスル郵便振替貯金特別取扱手續、左ノ通相定ム

明治四十五年三月二十九日

東京通信管理局長

東京市公金受払ノ為ニスル郵便振替貯金特別取扱手續

### 第一章 総則

第一条 郵便振替貯金ニ依リ東京市公金ノ受払事務ハ、市公金受払ノ為ニスル郵便振替貯金特別取扱規則及同取扱規程並本手續ニ依リ処理スヘシ

第二条 郵便振替貯金ニ依リ取扱フ東京市公金（以下市公金ト称ス）ハ、東京市役所及各区役所ヨリ発スル納税告知書、徴税令

書、納税告知書等（以下令書ト称ス）ニ依リ納付スヘキ左記諸税及収納金トス、但シ特ニ納付場所ヲ指定セルモノハ之力取扱ヲ為サス

### 一 国税

地租、所得税、營業稅、売薬營業稅、自家用醬油稅等

### 二 府市稅

營業稅、雜種稅、家屋稅並ニ地租、国税營業稅、所得稅、売薬營業稅及鉞業稅等ノ各付加等

### 三 其ノ他收納金

水道及其ノ他ノ使用料、物件賃貸料、手数料等

第三条 令書ニ左記事故アリタルトキハ、其ノ取扱ヲ拒絶スヘシ

一 令書ニ記載セル合計金額ヲ塗抹改竄シタルモノ

二 告知書、領收証書及原符等ノ各部ニ記載ノ合計金額符合セサルモノ

第四条 令書記載ノ合計金額ト内訳金額ト符合セサル場合ハ、令書ニ記載セル合計金額ニ依リ受入ヲ為スヘシ

第五条 市公金ハ一口拾銭未満ノモノト雖モ受入ヲ為スヘシ

第六条 市公金中国税ハ法定納期経過後ノ令書ニ対シテハ之カ取扱ヲ為スヘカラス、但シ令書ノ欄外ニ「特別納期」

ノ文字表示アルモノハ、其ノ指定納期限リトス

第七条 国税以外ノ諸收納金ハ指定納期経過後ト雖モ、其ノ指定期日ノ属スル月ノ末日迄之カ取扱ヲ為スヘシ

第八条 第六条及第七条ニ違反シテ諸收納金ヲ受入レタルコトヲ発見シタルトキハ、左記ニ依リ処理スヘシ

一 令書發送前ナルトキハ令書ニ其ノ旨記載シタル付箋ヲ為シ、其ノ儘一般ノモノト同様処理スヘシ

二 令書發送後ナルトキハ、其ノ旨総務部調査課(以下調査課ト称ス)ニ報告スヘシ

## 第二章 払込

第九条 市公金ノ払込ヲ受ケタルトキハ、納人ヨリ提出スル令書相当欄ニ孰レモ受入日附印ヲ、又告知書ノ部余白

(可成上部欄外右ノ隅)ニ局番号印ヲ明瞭ニ押捺スヘシ、但シ受付番号ノ記入ヲ要セス

第十条 令書ハ左記ニ依リ処理スヘシ

一 領收証書ノ部ハ直ニ之ヲ払込人ニ交付スヘシ

二 領收証書ヲ除キタル令書ハ、当日事務ノ終ニ於テ告知書ノ部ト原符ノ部トヲ截離シ、告知書ノ部ハ振替貯金口

座番号毎ニ取纏メ番号順ニ重ネ、原符ノ部ハ其ノ儘取纏メ各之ヲ一括シタル上口救金額ヲ通算シ、其ノ吻合ス

ルヲ確メ、之ニ依リ公金振替貯金受高報告書(以下受高報告書ト称ス)ヲ調製スヘシ、但シ受高報告書ニハ逐次番号ヲ記入

シ年度毎ニ更新スルモノトス

三 原符ノ部ハ最終原符ノ相当欄ニ口数、金額ノ日計ヲ記載シ、且受高報告書ノ番号ヲ日計記載ノ傍ニ転記シ毎日

順次綴込ミ、之ヲ市公金振替貯金受入簿ニ代用スルモノトス

四 告知書ノ部ハ其ノ上部ニ受高報告書ヲ緊綴シ、出納日報ニ添属調査課ニ送付スヘシ

第十一条 市公金受入証執書類封入ノ一類ハ、当日現金出納事務締切後遅クモ二時間以内ニ發送スヘシ

### 第三章 市区役所宛郵便物

第十二条 調査課ヨリ市区役所収入役宛送付スヘキ公金振替貯金払込高通知書等ハ、藍色ノ囊ニ納メ書留通常別配達

郵便物トシテ差出スモノトス

第十三条 前条郵便物ハ左記特別取扱ヲ為スヘシ

一 第十二条ノ囊ニ納メタルモノハ一個ノ郵便物トシテ取扱フコト

二 番号票ハ名宛ヲ記載シタル札ニ貼付スルコト

三 赤行囊ニ納入セサルコト

四 郵便取扱規程第一百七十一条ノ送達証ニ差立局名、番号及種別欄ニ「公」ノ文字記入スルコト

第十四条 第十二条ノ郵便物ハ最モ速達スヘキ通常伝送便ニ依リ遞送スヘシ

前項郵便物ヲ納メタル囊ハ次便配達ノ際返戻ヲ受ケ、通常郵便トシテ最近便ヲ以テ調査課ニ返送スヘシ

### 附則

本手続ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ実施ス

(平 11 東京 30)

86 明治45年6月 東京市及横浜市の營業稅收入成績

四谷		幸橋		京橋		永代橋		神田橋		署名	
本 年 度		本 年 度		本 年 度		本 年 度		本 年 度		年 度	
四十四年度		四十四年度		四十四年度		四十四年度		四十四年度		調定額及人員	
同		同		同		同		同		收入額及人員	
同		同		同		同		同		歩 合 入	
同		同		同		同		同		区 役 所 收 入 額 及 人 員	
同		同		同		同		同		同 上	
同		同		同		同		同		同 上	
同		同		同		同		同		同 上	
六六、九三四、三五〇	七四、〇三五、七五〇	二一九、五三八、三八〇	二二八、〇八五、九七〇	二一九八、一八八、八三〇	三一九、六〇一、〇七〇	九〇四、三二三、七七〇	九四一、八一三、九二〇	六三五、六〇五、一〇〇	五五六、四八〇、四三〇	人員 七、二六〇	五五六、四八〇、四三〇
同 三、六四六	同 三、六九一	同 五、〇四四	同 五、一七五	同 四、七二五	同 四、六八九	同 七、〇八六	同 七、〇八六	同 六、九三二	人員 七、二六〇	人員 七、二六〇	
五〇、〇七三、七九〇	五二、一八四、七五三	八四、九五七、四七〇	九六、八八七、七四〇	二二九、四三七、八一〇	二六〇、四一九、七九〇	八〇七、二二九、五八〇	八五五、一〇八、七六〇	五六八、九二〇、三四〇	四九五、四〇一、六四〇	三、八八五	四九五、四〇一、六四〇
二、四三九	二、三四八	二、九四五	二、九六二	二、二二二	二、二五二	四、〇六四	四、三三八	三、五五九	三、八八五	三、八八五	三、八八五
六六八	七四八	五八三	七五二	四六九	五三八	八九二	九〇七	五三三	五三三	五三三	八七四
六六八	七四八	五八三	七五二	四六九	五三八	八九二	九〇七	五三三	五三三	五三三	八七四
二六、一九八、五四〇	二六、一九八、五四〇	四九、六七八、〇九〇	四九、六七八、〇九〇	一七八、九三四、二五〇	一七八、九三四、二五〇	六〇六、二八三、三三〇	六〇六、二八三、三三〇	一、四九九	三五三、三四一、二二〇	一、四九九	三五三、三四一、二二〇
一、〇七〇	一、〇七〇	一、〇六七	一、〇六七	九〇七	九〇七	一、一九九	一、一九九	一、四九九	一、四九九	一、四九九	一、四九九
四五六	四五六	三五〇	三五〇	三五九	三五九	二七九	二七九	三八六	三八六	三八六	七二三
二六、六四八、九九〇	二六、六四八、九九〇	四七、二〇九、六五〇	四七、二〇九、六五〇	八一、四九五、五四〇	八一、四九五、五四〇	一四八、八二五、四三〇	一四八、八二五、四三〇	二、三三八	一四二、〇五九、五二〇	二、三三八	一四二、〇五九、五二〇
一二七八	一二七八	一、八九五	一、八九五	一、六一九	一、六一九	三、一一九	三、一一九	二、三八六	二、三八六	二、三八六	二、三八六
五四四	五四四	六四〇	六四〇	六四一	六四一	七三二	七三二	六八四	六八四	六八四	二八七
五四四	五四四	六四〇	六四〇	六四一	六四一	七三二	七三二	六八四	六八四	六八四	二八七



備考	合計		比較増	本年	前年度	増減	増減	増減
	本年	前年度						
区(市)役所収入額一人当	一四、二六六	一四、二六六	同	二、八五二、〇九一、三〇〇	二、八五二、〇九一、三〇〇	同	同	同
郵便局収入額一人当	四、六三三	四、六三三	同	二、二九九、一一一、六三〇	二、二九九、一一一、六三〇	同	同	同
東京市振替貯金ノ法ニ依ル納税実施ニ際シテハ、予テ郵便局及市役所ハ一般ニ対シ納税上ノ便利ナルコトヲ周知セシムル方法ヲ講シ、尚一方ニ於テハ稅務署ハ庁ノ内外ニ公示シテ之カ普及ニ努メタリ、然ルニ該成績ハ本表ノ如ク前年度ノ当期ニ比シ僅ニ〇〇、五〇ノ昂上ヲ示シタルノミ、是レ蓋シ頃者物価非常ニ騰貴シ金融逼迫ノ結果ナルヘシ				二、二六七、八〇六、四二〇	二、二六七、八〇六、四二〇			
二 区ト郵便局トノ収入割合ヲ見ルニ、東京市ニ於テハ区ノ收納高約七割ニ対シ郵便局ノ收納高ハ約三割ニ過キス、然ルニ人員ニ於テハ之ニ反シテ郵便局ノ約六割ニ対シ区ハ四割ナリトス、又一人当平均納額ヲ見レハ区ノ收納高多額ニシテ郵便局ノ分ハ其ノ四分ノ一二過キス				二、〇八一	二、〇八一			
如斯稅額ト人員トノ割合ニ於テ反比例ヲ示セルハ、蓋シ比較的多額ノ納税者ノ多クハ從來ノ慣習ニ因ルナラム				三二、三〇五、二一〇	三二、三〇五、二一〇			
因ニ 横浜市ニ於ケル郵便局トノ收納割合ハ、東京市ニ反シ郵便局ニ納付者多数アルニ至レリ、是レ当市ハ本件実施ノ昨年七月ナリシヲ以テ一般ニ於テ漸ク其ノ便益ヲ認識スルニ至リタル結果ナラム				七九五	七九五			
				〇〇〇一	〇〇〇一			
				〇〇〇六	〇〇〇六			
				八〇六	八〇六			
				四九六	四九六			
				八〇五	八〇五			
				四九〇	四九〇			
				一、四九四、七五三、三三〇	一、四九四、七五三、三三〇			
				一〇、四七七	一〇、四七七			
				六五〇	六五〇			
				三七六	三七六			
				八〇四、三五八、三〇〇	八〇四、三五八、三〇〇			
				一七、三九九	一七、三九九			
				六二四	六二四			
				三五〇	三五〇			

(平 11 東京 30)

87 明治45年7月 滞納矯正に付納税奨励会設置の件

滞納矯正ノ方法トシテ納税奨励会設置ニ関スル件

明治四五年七月一五日 往第八〇一三号主税局長通牒

滞納積弊ノ地方ニ於ケル一ノ矯正方法トシテ納税奨励会ナルモノヲ設ケ、納期内ニ完納者ニ抽籤ヲ以テ賞金ヲ与フル

方法ニ関シ、大分県知事ノ照会ニ対シ別紙写ノ通内務省地方局長ヨリ回答有之、当局ニ於テモ之ヲ是認候間、為念此段及通牒候也

(別紙)

大分県知事照会 明治四五年七月二日

本県町村中滞納矯正ノ為メ、町村内納税義務者ヲシテ納税奨励会ナルモノヲ設ケシメ、町村費ヲ以テ幾分ノ補助ヲ与ヘ、之ヲシテ納期内ニ完納シタル納税者ニ対シ、抽籤ヲ以テ一等五円、二等三円、三等一円等ノ賞金ヲ与ヘシメ居候モノ有之、右ハ納税奨励上ニハ多少ノ効果可有之認メ候ヘ共、一般町村民ヘ射倖心ヲ誘發セシメ公安保持上甚好マシカラサルノミナラス、如斯ハ真正ノ矯弊トハ認メ難ク候ニ付、断然制止致度存候処、稅務監督局ニテハ却テ之ヲ歡迎シ、各稅務署長ヲシテ勸誘ニ勤メシメ居候次第ニ有之、且聞ク処ニ依レハ本件ハ他府県ニモ往々類例アリテ、御省ニ於テモ既ニ認容セラレ居候哉ニ候条、一応御模様相同候上、稅務監督局ヘモ勸誘見合セ方照会致度存居候、何分ノ義至急御回報相煩度、此段及照会候也

内務省地方局長回答 明治四五年七月

本月二日付第二九九一号ヲ以テ御照会ノ趣了承、本来納税者力納期日ニ完納スルハ事固ヨリ当然ノ義務ニ候得ハ、敢テ之ニ対シ幾分タリトモ補助ヲ与フル如キ筋合ノモノニハ無之候得共、從來滞納積弊ノ地方ニ於テ一種ノ方便トシテ納税奨励会ナル如キモノヲ設ケ、少額ノ補助ヲ与ヘテ一般ニ之カ義務觀念ノ發作ニ努メ、漸次其ノ弊ヲ矯メタル実例尠カラス候、乍併追々是等ノ方法ノ如キモ住民ニ於テ納税義務ノ觀念發達ト共ニ自覺ヲ促シ、以テ自然不必要ニ歸セシメ候様致度存候、尤モ御申越ノ如キ事実ハ穩当ナラスト認候、此段及回答候也

(平 19 仙台 259)